



14.5
103



始





34931



和歌山縣史蹟名勝天然記念物調査會報告 第二輯

貴族院
函
号
冊

14.5
103



81W09482

序

我ガ和歌山縣ハ皇祖發祥ノ地トシテ神代鴻業ノ遺跡尠カラズ地ハ南海ノ一角ニ僻在スト雖山岳ノ重疊スル所樹木蒼鬱トシテ古來木國ノ稱アリ黒潮ノ岸ヲ洗フ所水陸ノ天然物ニ富ミ加フルニ山容水態亦他ニ秀デテ景勝ノ地隨所ニ散在セリ曩ニ中央政府ノ史蹟名勝天然記念物保存法ヲ發布セララル、ヤ本縣亦之ニ基キテ縣下ニ於ケル斯種ノ調査並ニ保存ヲ圖ルタメ調査會ヲ設ケ委員ヲ任命シテ此レガ調査ヲ委囑シタリ本書收ムル所ハ此等調査委員ノ提出ニ係ル報告ニシテ固ヨリ縣下ノ一部ニ止リ且ツ各委員ガ公務多忙ノ身ヲ以テソノ餘暇ニ調査シタルモノナレバ尙ホ將來ノ研究ヲ要スベシト雖各委員ノ周到スル踏査ト精細ナル討究トニヨリ該報告ハ他日

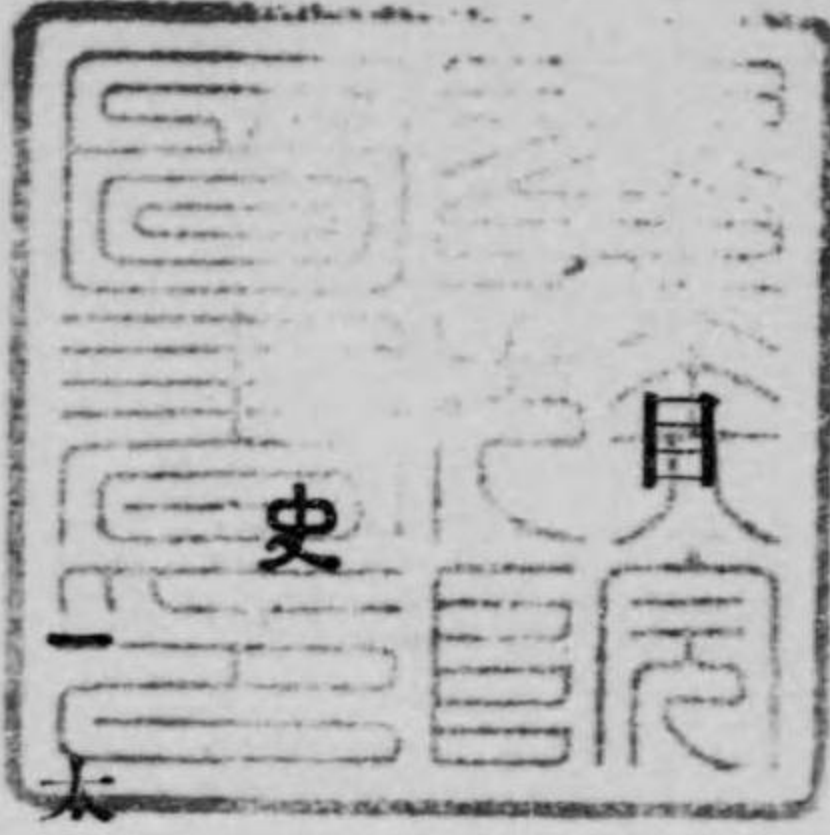
ノ考證研究上ソノ有力ナル資料タルハ信ジテ疑ハザル所ナリ今之ヲ印刷ニ附シ近ク公衙有志ニ頒ツハ之ニヨリテ今後益々調査探究ノ歩ヲ進メ保存宣揚ノ道ヲ完フシ以テ我國ノ文化ニ寄與セムトスルノ意ニ外ナラズ此レ亦聖代ノ德澤ニ酬イル所以ノ道ナラズヤ

大正十二年三月

和歌山縣

凡例

- 一、本書ハ序言ニ記載セル如ク調査委員提出ノ報告ヲ集録シタルモノナリ
- 一、報告ハ之ヲ史蹟、天然記念物並ニ名勝ノ三種ニ別チ各種之ヲ海草・那賀・伊都・有田・日高・西婁・牟婁・東牟婁郡ノ順ニ排列シタリ
- 一、調査ハ各ソノ時ト所ト人トヲ異ニセルヲ以テ報告ノ形式同シカラズ精粗繁簡亦一ナラザルモ此ハ止ムヲ得ザルコトニ屬シ敢テ補訂ヲ加ヘズ
- 一、調査委員ノ提出ニ係ル報告ノ外別ニ附録トシテ各郡市(但和歌山市・海草・伊都郡ヲ除ク)調査ノ分ヲ採録シタリ
- 一、以上大休原文ノマ、登載シタルモ中ニハ用字又ハ字句ヲ修正シ若ハ原文ヲ縮約シタルモノモ尠カラズ此レ一ハ印刷上ノ關係ト一ハ讀者ヲシテ解シ易カラムメシトシタルノ意ニ外ナラズ



次

蹟

- 二 太田城跡
- 三 秋月城跡
- 四 國分僧寺塔跡
- 五 國分尼寺塔跡
- 六 三ツ塚
- 七 高野山町石
- 八 崇源夫人五輪石塔
- 九 佛號板碑
- 一〇 豐臣家墓所

太田城水攻ノ堤防跡

一 二 三 三 五 八 二 三 四 二

一一 禪尼上智碑
 一二 法明上人墓五輪石塔
 一三 ゆかんの森
 一四 湯浅城趾
 一五 明慧上人誕生地
 一六 宗祇屋敷
 一七 上品堂
 一八 中品堂
 一九 上田和隧道
 二〇 龜山城趾
 二一 鶴ヶ城趾
 二二 切目崎ノ塚穴
 二三 切目村ノ古墳
 二四 野島ノ新首サン

二四
 二五
 二六
 二八
 二九
 三一
 三一
 三三
 三四
 三五
 三五
 三六
 三七
 三七

二五 目津ノ定六
 二六 松平山城守ノ墓
 二七 山上不動堂
 二八 瀧見堂
 二九 龜山院御卒塔婆
 三〇 市野々王子
 三一 尼將軍様
 三二 濱宮頓宮ノ遺趾
 三三 多富氣王子
 三四 佛體埋藏地
 三五 花山法皇御籠所
 三六 藤綱ノ要害
 三七 維盛五輪塔
 三八 松音寺遺趾

三

三九
 四〇
 四一
 四五
 四六
 四八
 四九
 五一
 五二
 五三
 五四
 五六
 五七
 五八

- 三九 神倉山
- 四〇 蓬萊山
- 四一 丹鶴城趾
- 四二 王子神社趾
- 四三 徐福ノ墓
- 四四 御手洗海岸
- 四五 渡御前神社

天然記念物

- 一 高野ぐみ
- 二 シダリス化石
- 三 枇杷ノ自生林
- 四 檜ノ自生地
- 五 水仙ノ自生地

- 六 あかうノ分布
- 七 たいきんぎくノ分布
- 八 地蔵ノ大樅
- 九 八幡ノ檜
- 一〇 菖蒲谷ノ檜
- 一一 羅漢ノ柏
- 一二 高見ノ松
- 一三 明神ノ杉
- 一四 おほたにわたり
- 一五 おほうなぎ
- 一六 柏ノ老樹
- 一七 柏ノ大樹(早本町)
- 一八 柏ノ大樹(富里村)
- 一九 高野ノ自生林

五九
六一
六二
六三
六四
六六
六七
六九
七〇
七三
七六
七九

七九
八三
八四
八五
八六
八七
八七
八八
八九
九〇
九一
九三
九四
九五

二〇	牡	丹	岩	九六
二一	蟲	喰	岩	九七
二二	字	津	木	九八
二三	竹		柏	九九
二四	濱	木	綿	一〇〇
二五	玉		石	一〇一
名勝				
一	蘭	澤	森	一〇三
二	一	枚	巖	一〇四

和歌山縣史蹟名勝天然紀念物調查會報告 第一輯



史蹟

一 太田城水攻ノ堤防跡

委員 吉田寅藏報告

- 一所在地 海草郡宮村大字出水並ニ同村大字中黒田
- 一所有者 出水ノ遺跡 海草郡宮村大字出水 南楠吉、同上 谷口傳吉等
中黒田ノ遺跡 海草郡宮村大字中黒田 吉田熊次郎
- 一現狀 第一圖、第二圖寫眞版參照
- 一由來 天正十三年(皇紀二二四五年)三月羽柴秀吉根來寺ヲ燒打チシタル後大兵ヲ以テ太田城ニ肉迫シ其ノ容易ニ陷レ難キヲ見ルヤ水攻ノ策ヲ講ジテ延長九十餘町ノ堤防(高サ二間乃至五間、根敷十八間)ヲ築キ紀ノ川ノ水ヲ引キテ之ニ注ギシカバ城將太田左近遂ニ敵スル能ハ

ズ四月二十二日開城シタリ

二 太田城趾

附 毘沙門塚、三寶松

委員 吉田寅藏報告

一 所在地

海草郡宮村大字北太田

一 由來並現狀

太田城趾

方約二町ノ小城ナリシガ今ハ北太田ニ城跡ト稱スル地名ヲ存スルノミ

毘沙門塚

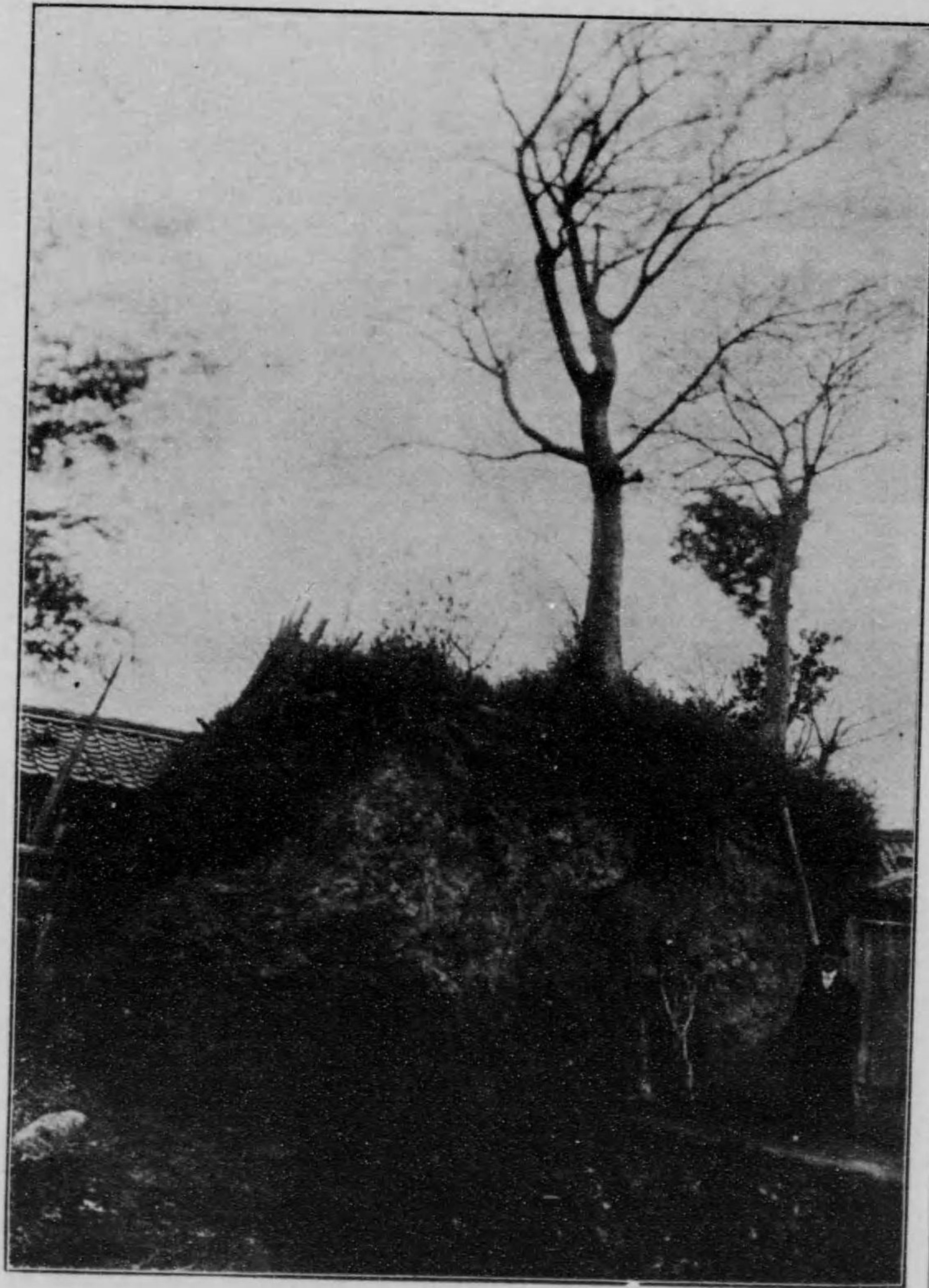
天正六年五月雜賀ノ兵音浦ノ惣光寺ヲ燒キ滅スヤ其ノ本尊タル毘沙門像（弘法大師ノ作ト傳フ）ハ太田城ニ移リ城中ノ守護佛トナル毘沙門塚ハ共有地ニアリ、第三圖寫真版參照

三寶松

太田城主太田左近ガ正月ノ祝日トシテ三寶ニ飾リシヲ手植シタルモノナリト傳フ
第四圖寫真版參照



太田城水攻の防堤趾



太田城水攻の堤防趾



塚門沙毘



三寶松

圖略近附塚寺分國 圖五第



凡例
 △ 古蹟
 寺 寺跡
 河 河川
 縣 縣界
 車 車道
 小 小徑
 村 村落
 20000
 1

三 秋月城趾

委員 吉田寅藏報告

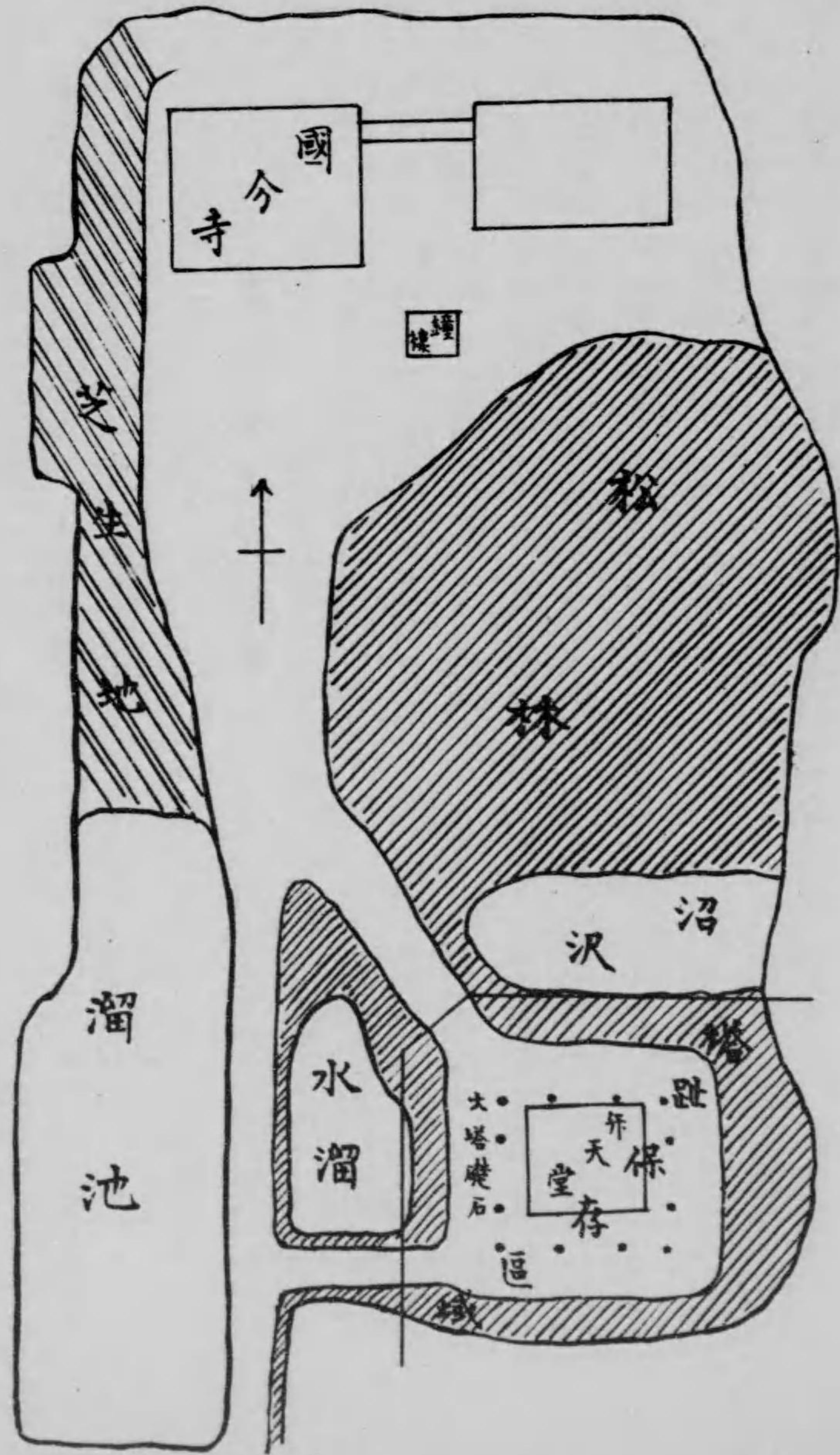
- 一所在地 海草郡宮村大字秋月
- 一現狀 飯垣、城ノ内、城堀等ノ地名ヲ存ス城趾ハ今宮村避病院ノ敷地トナレリ
- 一由來 日前國懸兩神宮神領保護ノタメ文明年中國造紀俊連ノ築キシ所、青侍飯垣周防守居城セリ

四 國分僧寺塔趾

委員 加納川謙一報告

- 一所在地 那賀郡池田村大字東國分字八光六八二番ノ内一部
- 一現目 國分寺ノ現境内トアリ
- 一地積 五畝拾壹步
- 一所有者 第一種官有地

圖取見趾寺僧分國 圖六第



一所有者外管理者及占有者 國分寺住職久保慶道、檀徒總代土井龜一郎、土井茂三郎、出口彌右衛門、湯川芳之助ノ五名協議ノ上事實上ノ管理ヲナス

一工作物其他物件ノ物質形狀構造大小數量 大塔趾ノ中央ニ近代建造セル方二間竇形棟造リノ辨天堂アリ堂ノ周圍ニ十二個ノ礎石第五圖ノ如ク方形ニ殘存ス而シテ該礎石ハ和泉砂岩又ハ礫岩ニシテ大小自然ノ形ニヨリ各異ナリト雖モ皆上面ヲ平ニシ中央ニ徑八寸七分高サ一寸(中一個ノ寸アリ)ノ柱受ヲ作り出セリ而シテ現辨天堂ノ床下ハ土壇ノ如ク高マリ周圍ノ礎石ハ各一尺餘地上ニ現レタリ想フニ外部芝地ト堂トノ間ノ土砂ハ年久シキ間ニ流レ去リテ礎石ヲ露出シ殘リシ床下ハ土壇ノ如ク見ユルニ至リシモノナランカ

一現 狀 本塔趾ハ舊國分僧寺趾ニ後世建造セル所謂現存國分寺ノ境内ニ屬スルヲ以テ稍々整理セラレタリト雖モ周圍ニハ松樹高ク枝ヲ交ヘ其ノ下草ニ雜リテ小雜木生ヘ茂リ里人之ヲ保護スベキヲ知ラズ藁ノ積置場トナシ漸ク辨天ノ威力ニヨリテ荒廢ヲ免レ居ルノ狀態ナリ

一由來 傳説 現寺ニ記録ヲ存スルモ後世ノ作ニシテ取ルニ足ラズ俚俗ノ言亦尼寺趾ニ記セル如ク相混淆シテ明ナラズ、想フニ當寺ハ燒失後再建セラレシモノ、如ク而カモ再ビ天正ノ兵火ニヨツテ燒カレ後マタ現存セル所謂國分寺ヲ建立セルモノカ出土ノ古瓦ニ二様アリサレド塔趾ハ

最初ノ焼失後再建ヲ見ルコトナク何時ノ頃ヨリカ辨天堂ヲ創建シタルアリ

一 徵證物件

礎 石 工作物トシテ前述

古 瓦 附近散在ノ破片多クハ尼寺趾ノ如ク火災ニカ、リシモノナレド又往々然ラザルモ

ノアリ何レモ缺損シテ完全ナルモノナシ余ハ漸クニシテ唐草瓦一枚ヲ採集セシガ瓦ノ巾ハ八寸

二分ニシテ厚サ八分、而シテ其唐草瓦ハ前面二寸四分五分ニシテ外區珠紋ヲ表セルモ上部ニ之ヲ

缺キ内區ノ唐草ハ尼寺趾出土ノモノヨリモ優美ニシテ雲形唐草トモ稱スベキモノナリ

一 保存要件 黑板博士ノ指示ニ從ヒ第六圖ニ示セル範圍内ヲ特ニ清淨ニシ雜木ヲ切り拂ヒ藁置

場トスルヲ禁ジ國分僧寺塔趾ノ顯彰ヲナスヲ要ス

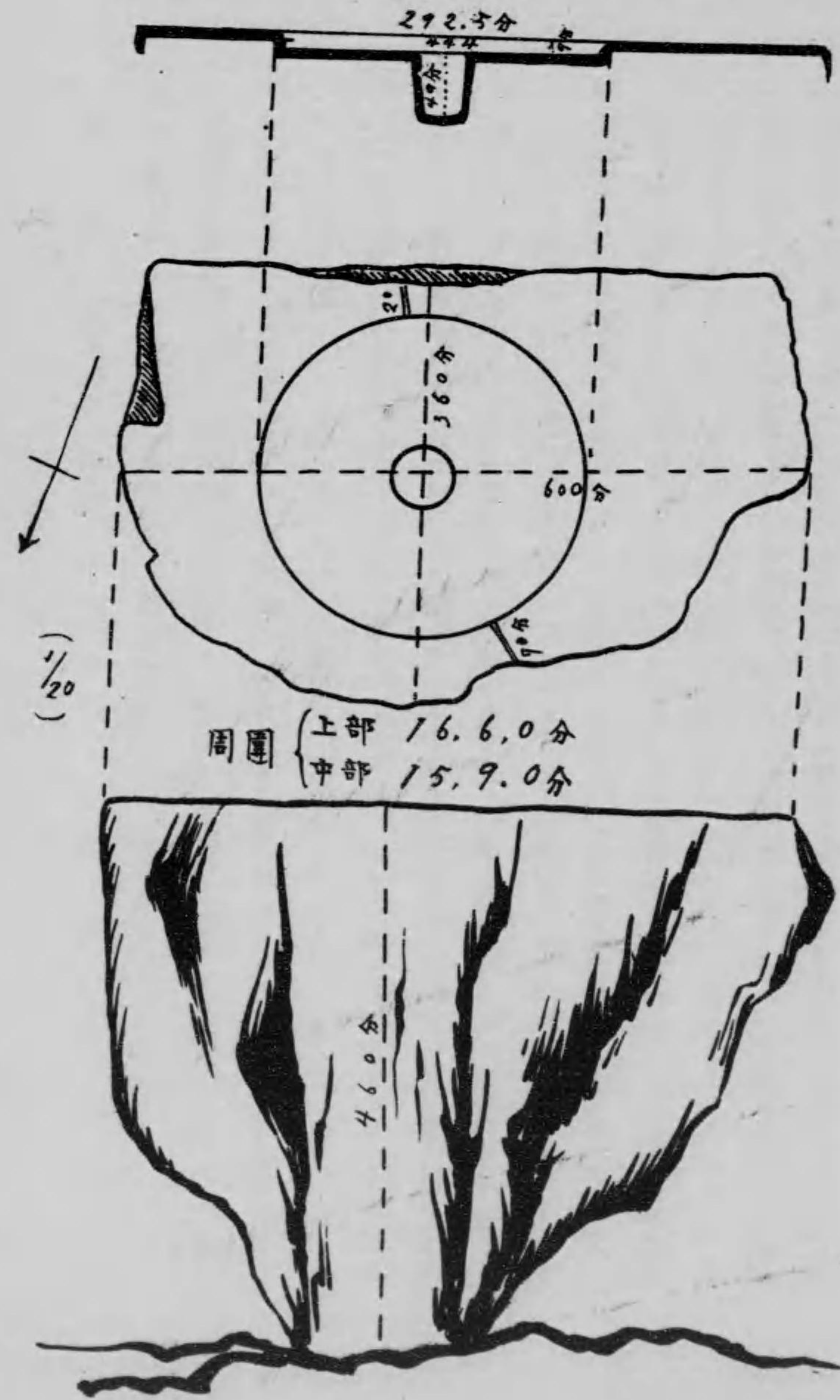
五 國分尼寺塔趾

委員 加納川謙一 報告

一 所在地 那賀郡上岩出村大字西國分字西野々五一一番及四九四番ノ内一部

一 地 目 五一一番ハ墓地、四九四番ハ田

圖石礎柱心趾塔寺尼分國 圖七第



- 一 地 積 貳畝拾五步七
- 一 所有者 五十一番ハ西國分字中持、四九四番ハ上岩出村 石橋嘉右衛門
- 一 所有者外管理者又ハ占有者 四九四ハ無シ、五一一ハ同村同字區長管理ス
- 一 工作物其他物件ノ物質形狀構造大小數量 塔趾ノ中央稍東ニ大塔心柱礎石一個殘存ス、該礎石ハ和泉砂岩ニシテ長徑六尺短徑三尺六寸高サ四尺六寸アリ上面ニ深サ一寸(天平尺)徑三尺ノ圓形ヲ彫リ更ニ其中心部ニ深サ五寸徑四寸五分ノ柱受ケヲ工作セリ(第七圖參照)
- 一 現 狀 大塔燒失後雨露ニ暴サル、コト幾百年荒廢ハ殆ンド其ノ極ニ達シ礎石ノ多クハ他ニ搬出セラレ地域ハ大ニ犁鋤ノ侵蝕ニヨツテ狭メラレ一部ハ墓地トナリ幸ニ埋葬ノ形跡ナシト雖モ荆棘雜草之ヲ蔽ヒ其ノ稍粗ナル所ハ堆肥、糞等ノ置場トナリ季節ニヨツテハ不潔ヲ極ム、而シテ現地域ノ北半ハ土取場トナリシ故窪地ヲ生ジテ西北隅ハ常ニ滯水ヲナシ僅ニ殘存セル心柱礎石ノ如キモ其ノ三分ノ二ヲ露出シテ今尙時々掘リ取ラル、ノ狀態ナレバヤガテハ大礎石モ顛倒スルニ至ルベキヲ認ム
- 一 由來傳説 國分寺建立ノ由來ハ特説スルノ要ナシト雖モ當國分寺ノ建造ハ何時頃ナリシカ、今文献ノ微スベキモノナキヲ以テ不明ナリ想フニ當寺モ諸國ノ造立ト同ジク容易ニ完成セザリ

シモノ、如ク續日本紀ニ「稱徳天皇神護景雲三年六月庚子紀伊國那賀郡大領外正六位上日置毘
登弟弓稻一万束獻於當國々分寺授外從五位下」トアルハ造營ノ資ヲ獻シテ完成ヲ督勵セシ功ヲ
朝廷ヨリ賞セラレタルモノニシテ(辻博士著日本佛
教史研究ニヨル)恐ラクハ奈良朝末期ニ至リテ漸ク成リシモノナ
ランカ、其後正史ニ當國々分寺ノ記録ナキヲ以テ燒失ノ年代明ナラズ而シテ燒失後ハ他寺ヲ以
テ代用シタルカ再建ノ形跡ナク出土ノ古瓦スベテ奈良朝時代ノ様式ノミナリ里人天正ノ兵火ニ
燒失スト傳フルモノハ國分僧寺ト混同シタルモノラシク遺物其他ノ口碑ノ少キニ照シテ餘リニ
後世ニスグル感アリ今ハ塔趾並ニ其西方半町四方ノ地ヲ稱シテ塔ノ芝トイフ紀伊續風土記ニ「
芝原方一町田地中ニアリ總テ礎石ハ其儘ナル故一中略一金堂大塔ノ遺跡方一町許幾百年ヲ經タ
ルカ知リ難キモ村民今ニ其地ヲ侵シ鋤ク者ナク云々」トアルモ古老ノ談ニヨレバ明治初年礎石
ノ多クハ他ニ運バレテ土木ニ使用セラレ其跡變ジテ田トナレリトイフ
而シテ本遺趾ハ紀伊續風土記及地方傳説ニヨリ從來國分僧寺趾トノミ信ゼラレシガ本年一月黒
板博士ノ實地調査ニヨリ國分尼寺趾ナルコト明トナレリ(同時ニ從來ノ尼寺趾ハ僧寺趾トナル)

一 徵證物件

礎 石 工作物トシテ前述



此面内方ニ傾斜

古瓦 火災ニ罹レル赤褐色ノ瓦ハ塔趾ハ素ヨリ附近ノ田圃到ル處ヨリ破片トナリテ出ツルモ多クハ平瓦ニシテ疏瓦花瓦等極メテ少ク文字瓦ノ未ダ拾ハレタルヲ知ラズ第八圖記載ノ二枚ハ最近本員ノ採集セルモノニシテ奈良朝時代ノ紋様手法ヲ示セリ之ニ依レバ

丸瓦ハ徑六寸厚サ八・九分(花瓦裏面ノ痕跡ニヨル)ニシテ其ノ花瓦ハ中央ニ徑三寸八分ノ滿開蓮花ヲ表シ其ノ周圍ニ同心圓ヲ界トシテ珠紋、波狀紋ヲ描キタリ、而シテ蓮花紋ハ四葉瓣ニシテ蓮實五個ヲ有スルモノナリ

平瓦ハ巾九寸六分厚サ九分ニシテ其ノ唐草瓦ハ厚口三寸ニ達シ外區上部ニ珠紋、下部ニ波狀紋ヲ表シ内區ハ最モ普通ナル唐草模様ヲナス

一保存要件 黑板博士ノ說ニ基キ第九圖ニ示セル如ク四九四番ノ一部ヲ寄附(承諾濟)セシメテ

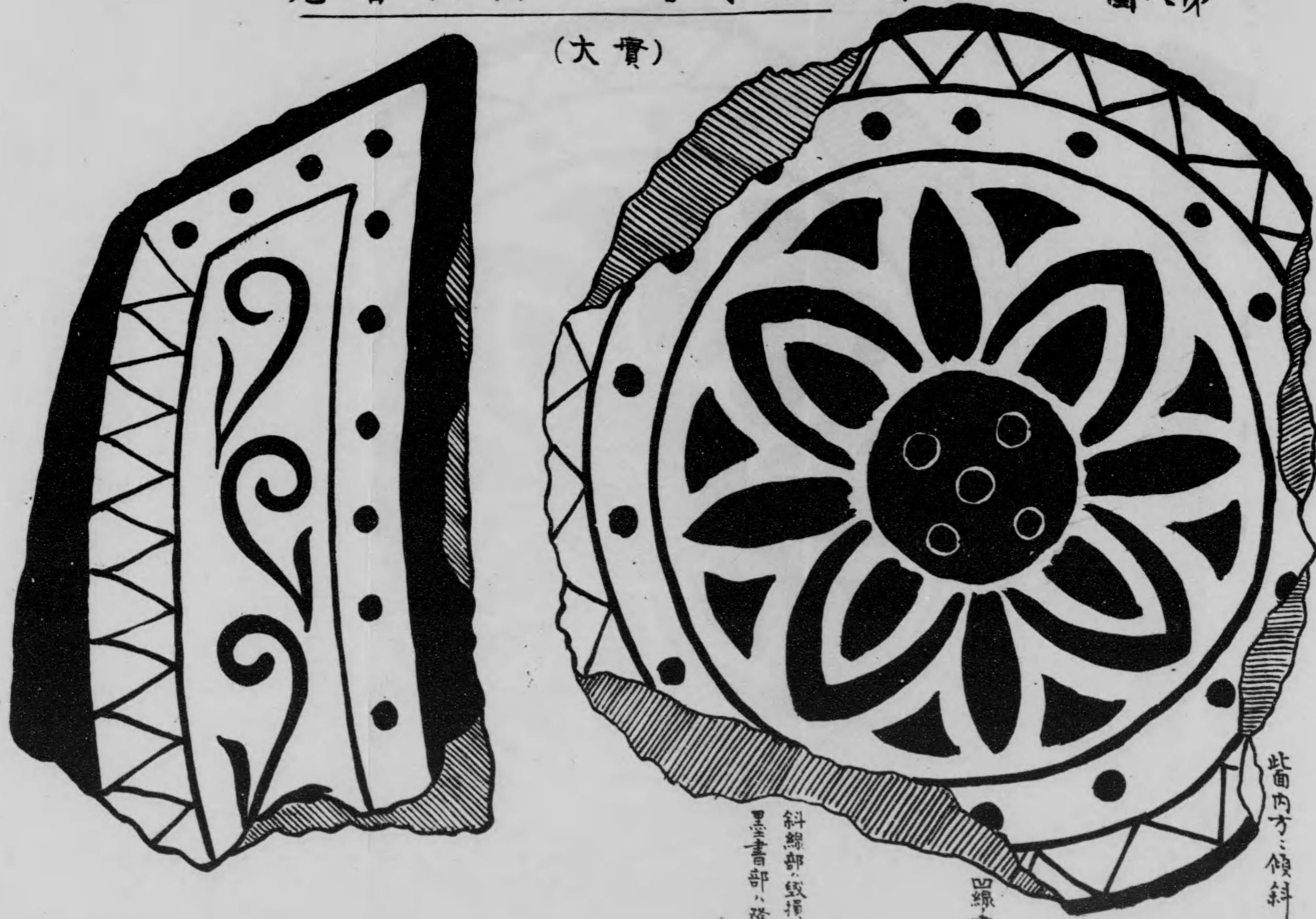
・地形ヲ整ヘ北部窪地ヲ埋メ荆棘ヲ除キテ全部ヲ芝生地トナシ又物置場トナスヲ禁ジ國分寺塔趾ノ顯彰ヲナスヲ要ス

八幡塚(じゆあな塚) 無名の塚

瓦古土出趾塔寺尼分國

圖八第

(大寶)



此面内方傾斜

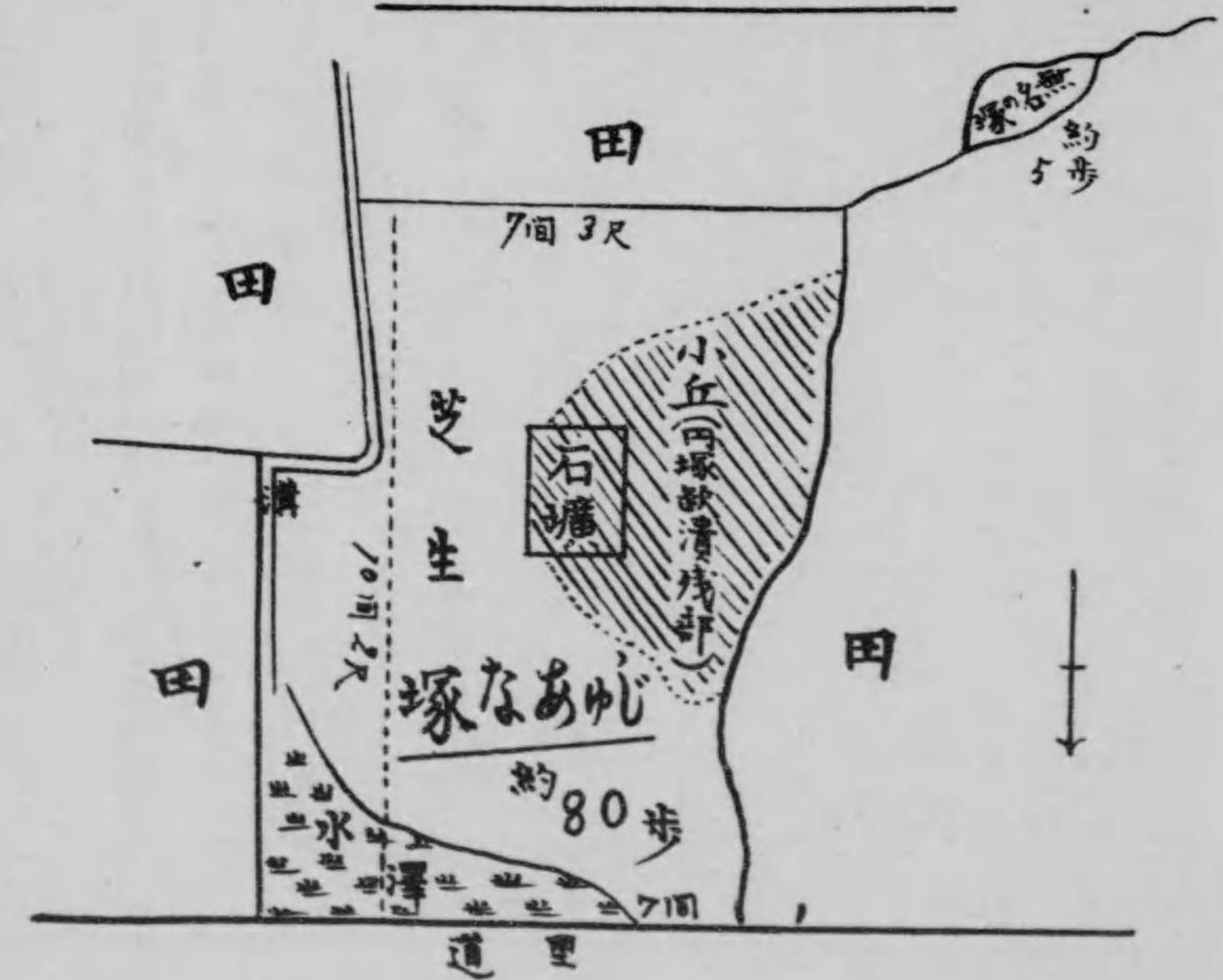
凹線書誤

斜線部紋撞面
凹線書部八隆起

圖略近附塚三 圖十第



圖面平塚なあじ



一所在地 八幡塚 那賀郡田中村大字下井阪字八王子四五四番

じゆあな塚 同郡同村同字小字三ツ塚四九〇番

無名の塚 同郡同村同大字同四九一番

一地 目 塚地

一地 積 四五四番ハ約一反歩、四九〇番ハ二畝二十歩、四九一番ハ五歩

一所有者 官有地

一所有者外管理者又ハ占有者 無シ

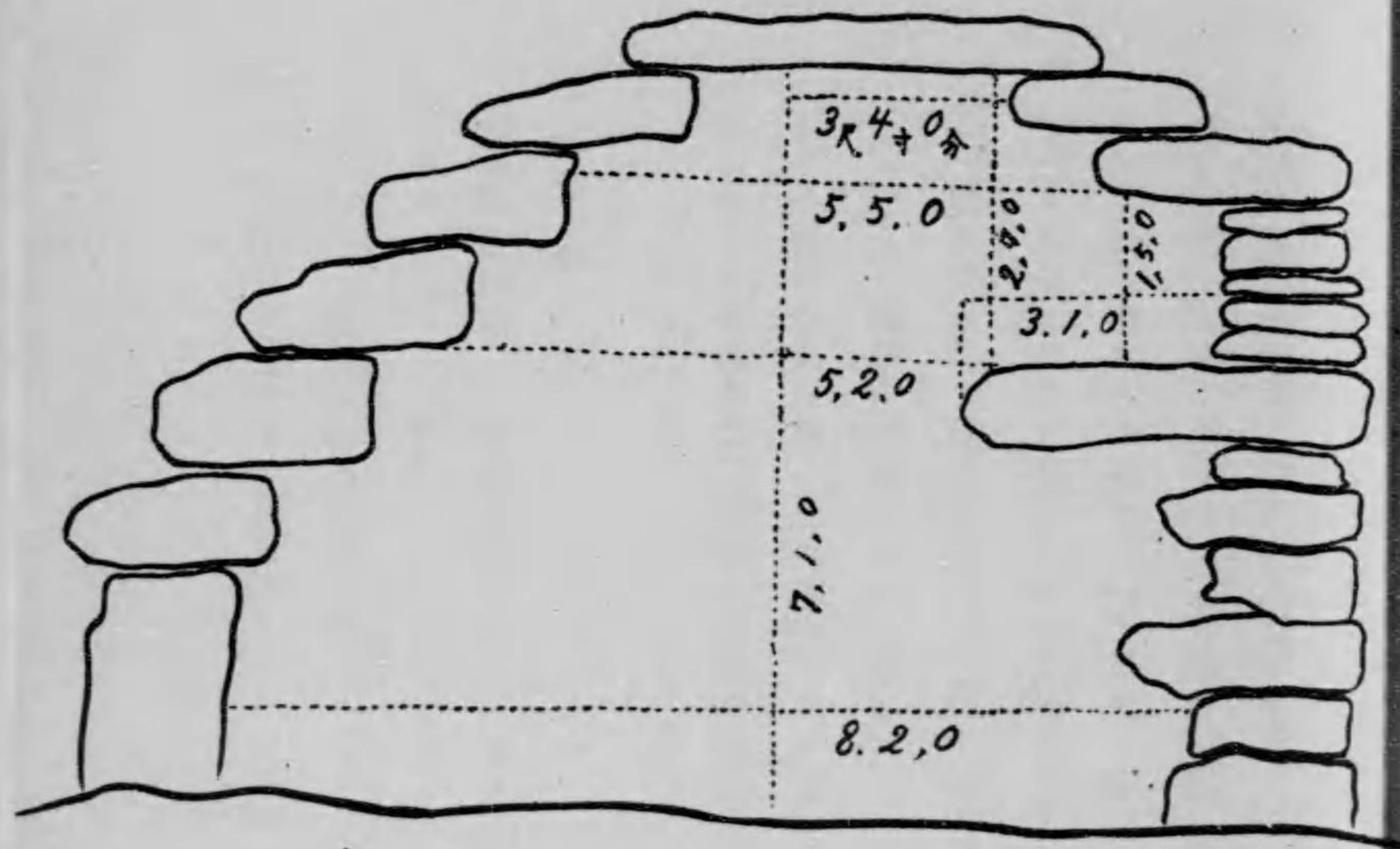
一工作物其他物件ノ物質形狀構造大小數量

八 幡 塚 北面ニ石櫛ノ崩壊セルモノアリ、又西面ニ長サ五尺巾二尺高サ一尺七寸ノ石櫛アリ側面及上面ハ緑泥片岩ノ一枚石ニシテ底面ニハ砂利ヲ敷キタリ

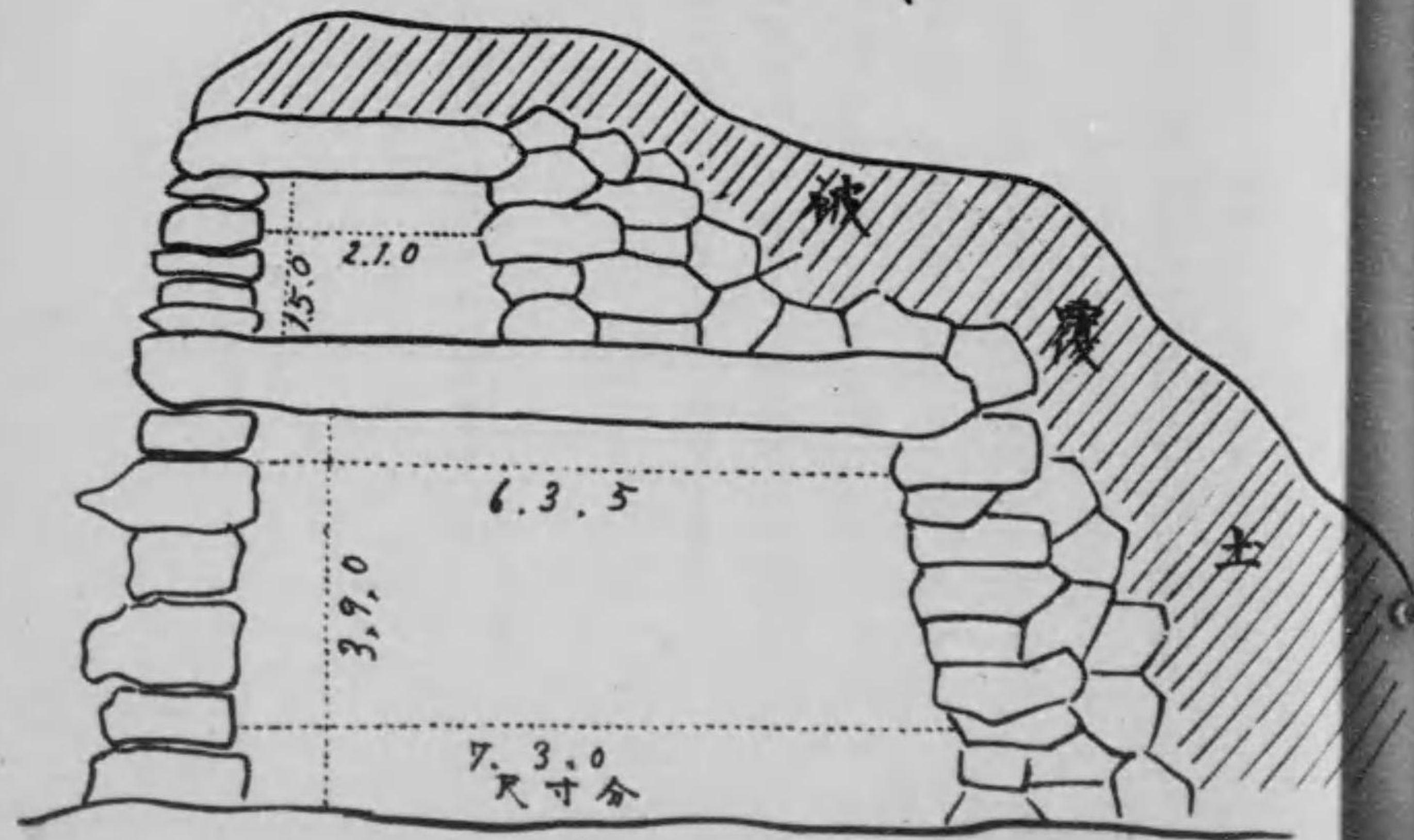
じゆあな塚 ニハ一箇ノ破壊セラレタル石櫛アリ内面ノ高サ七尺一寸奥行八尺二寸間口七尺三寸ヲ有シ大小數十個ノ石ヲ疊ミテ上面ニ至ルニ從ヒ漸次奥行ヲ減ジテ築造セリ其

ノ石質多クハ緑泥片岩又ハ絹雲母片岩ニシテ特ニ北面中段ニ大板石ヲ以テ棚狀ノ

第十圖 心あな塚石櫛露出東面



同上北面



モノヲ作レリ

他ノ一塚ニハ何等工作物ナシ

一現 狀

八幡塚ハ其ノ北面及西面ヨリ土砂ヲ掘取ラレ前記石櫛ヲ現スニ至リシモノニシテ殘部ノ最高處ニ大ナル松樹一本アリ其ノ他ニ雜木數株枝ヲ交エ近時「古墳ニツキ立入ルベカラズ」ノ制札ヲ警察ヨリ立テタルモ尙藁、堆肥等ノ置場トナリ居レリ

じゆあな塚ハ破壊最モ甚シク、東、北、南ノ三面ヨリ土砂ヲ取り去リ石櫛ノ大部露出シ而モ其ノ石材ハ漸次他ニ使用セラレシタメ東側面ノ如キハ全ク破壊セラレ漸ク東北隅ニ積ミ重ネシ一 個宛ノ石ニヨツテ支ヘラレツ、アリ

他ノ一塚ハ芝草之ヲ覆フノミ

一由來傳説

紀伊續風土記ニ「村(田中村 下井阪)ノ北一丁半許ニアリ一ノ塚ハ東ニアリ一ノ塚ハ西ニアリ相去ルコト二十步餘、一ノ塚ハ東ノ塚ヨリ巽ノ方三十步餘ニアリ西ノ塚ハ土人壞チテ畑トナシ僅ニ塚ノ形ノ遺リアルノミ東ノ塚ハ上ニ苔草生ジ四面石ヲ疊ミテ塚ヲナス其ノ石崩レテ穴ノ中ヤ、伺フベシ今穴中ニ一物モナシ古ハ塚上ニ松樹一株アリシト云フ巽ノ方ノ塚上今尙松樹一株アリ大サ三抱バカリ土崩レテ松根露ハレ出デ塚中モ亦伺フベシ此一塚ヲ呼ビテ八幡塚トイフ

正徳年間穴ノ中光ル物アリ人恐レテ近ツカズ一老嫗年六十餘ナリミツカラ死セバ我分ナリトイヒテ穴中ニ入り大刀一口ヲ探リ得タリ即チ之ヲ産土神羊ノ宮ニ納ム身長二尺四寸徑六寸四分反九分天國ト銘セリ今其ノ太刀ヲ見ルニ体損スル所ナク久シク土中ニ在ル者ト見エズ他物腐リテ太刀ノミ全シトイフ事甚イブカシ疑フラクハ好事ノ者ノ偽造ニ出ルナラン此三塚何レモ古人ヲ葬ル處ト見ユレド詳ナラズ且ツ三塚ヲナス其義イカナルカ或ハ古ノ疑塚ノ類カトモ思ハルトアリ里人ノ傳説亦此類ニシテ八幡塚ニツキテハ八幡太郎義家ヲ葬ルナド荒唐無稽ノ説ヲナスモノアリ又じゆあな塚ノ意義モ明ナラズ近年八幡塚ノ西部面ヨリ土ヲ探リシニ前記石槨アラハレ其ノ中ヨリ素焼土器坏三個瓶二個並ニ鏃數個及骨片等出テシガ之ヲ京都大學ニ送付シタリトイフ

一 徵證物件

圓塚缺損殘部

無名ノ塚ハ疑ハシキモ八幡塚じゆあな塚ハ明ニ圓塚トシテ築造サレタルモノナリ

石

槨 前掲ニツキ畧ス

一 保存要件

八幡塚ノ土取場トナリシ部分ヲ整理シ土砂ノ採掘ヲ禁止シ古墳標章ヲナスコト

じゆあな塚東北隅ハ一連ノ積石ニテ支ヘラレ崩壊ニ瀕スルヲ以テ支柱ヲ施シテ破壊ヲ防ギ古墳
標章ヲナスコト

一一

七 高野山町石

二百七基外ニ一里石四基

委員 井村米太郎報告

一由來ト現状 此ノ町石ハ元ト弘法大師ガ高野山開創ノ後參詣登山者ノ爲メニ木ニテ卒都婆ヲ作
リテ道筋ニ建テラレシヲ濫觴トス其ノ後約四百五十年同山遍照光院覺教上人發願ニテ東西ニ勸
發シ上ハ後嵯峨上皇ヲ始メ奉リ下ハ鎌倉北條家其他諸大名以下ノ寄進ヲ得拮据十餘年ヲ經テ文
永年間ニ至リ遂ニ此ノ町石ヲ建立スル事ヲ得タリ其ノ願文ハ今モ現存ス
此ノ町石ハ只町數ヲ示セルノミナラス金剛界胎藏界ノ佛種タル梵字ヲ刻シ施主名法名ヲ刻セリ
大塔ヲ中心トシ奥院ニ至ル三十七基ハ金剛界三十七尊ヲ標スト云フ參詣人ヲシテ不知不識ノ裡
ニ信念ヲ培養シ追遠ノ孝志ヲ起サシムル感應アルベシ
往昔 天皇御臨幸ノ際ニハ皆此ノ道ニ由ラセ給ヘリ殊ニ 後宇多法皇ニハ鳳輦ヲ捨テサセ給ヒ

テ町石毎ニ玉步ヲ停メテ御念誦アラセ給ヒシガ如キハ畏キコトノ極ミト申スベシ
斯ク尊キ由緒ヲ有スルニ明治維新ノ際寺領奉還山林上地ノ結果胎藏界ノ七町ヨリ五十四町迄ハ
官林トナリ五十五町ヨリ百八十町ニ至ル間ハ各個人ノ所有地トナリテ保存上頗ル不安ノ感ニ堪
ヘス

八 崇源夫人五輪石塔

委員 井村米太郎報告

一所在地 伊都郡高野村字高野山奥院五百五十三番地參道左側ニ在リ
一 地 目 官有地第三種ニシテ金剛峰寺ノ總境内中ニ在リ
一 地 積 兆域二百三十一坪
一 現 狀 崇源夫人五輪石塔ハ高サ二丈八尺、臺石方一丈三尺一寸、玉垣方四丈四尺五寸、
但前面入口三丈三尺、左右玉垣破損セリ石鳥居、水盤、燈籠二基、破損
光玄院殿、淨觀院殿、廣大院殿、天親院殿、五輪石塔四基ハ各高六尺五寸ニテ乾隅ニ在リ
前記ノ如ク前面ノ玉垣ト燈籠二基ハ破損セルモ其ノ他ハ儼然タリ碑文ニ曰ク

一一

妣寛永四年丁卯九月十五日

崇源院殿一品太夫人

昌譽大禪定尼

奉爲光妣追善

駿河大納言忠長造立

(臺石ノ文字畧ス)

管理者 蓮花院

一由 來 寛永四年ハ今ヲ距ルコト貳百九拾五年前ナリ本石塔ハ高野山無數ノ石塔中最モ高
大ナルカ故ニ一番塔ト稱ス當時山路峻峻ナルニ斯ル巨石ヲ運ヒ上ケタルコト其ノ勞苦想像モ及
ハサルナリ駿河大納言忠長ノ行狀ニ付テハ甚ダ議スヘキモノアルヘシト雖モ其ノ慈母追善ノ爲
メニ巨費ヲ惜マスシテ此ノ豐碑ヲ造立シタル孝心ハ稱揚ニ價スヘシ而シテ忠長ノ家ハ其ノ死ト
同時ニ廢セラレテ跡ナク此ノ石塔ヲ修復スヘキ施主ナシ高野山ノ誇リトセル此ノ一番石塔ニシ
テ荒廢ニ委スルハ遺憾ニ堪ヘザルナリ

九 佛 號 板 碑

委員 井村米太郎報告

一所在地 伊都郡高野村字高野山奥院五百五十三番地參道ノ左側共友講記念碑ノ後方ニ在リ
一 地 目 官有地第三種墓地ニシテ金剛峯寺總境内中ニアリ
一所有者又ハ管理者 土地ハ官有地第三種墓地ニシテ碑ハ安養院ノ管理ニ屬ス
一現 狀 碑ノ總高ハ六尺三寸、輪廓四尺八寸、幅二尺六寸乃至二尺八寸、形狀完全ナリ、
碑文ハ左ノ如シ

爲自身順次往生並亡妻亡息追善也

奉謝二親三十三回恩德

南無阿彌陀佛

康永三季^甲暮春中旬阿州國府住人

沙彌覺佛敬白

一保存要件 康永三年ハ南朝興國五年ニシテ今ヲ距ルコト五百七十八年前ナリ板碑ハ高野山無
數ノ石塔石碑中ニモ甚ダ稀ナルモノニシテ既ニ集古十種ニモ採録セラレタリ斯ク珍重スヘキモ
ノナルヲ以テ史蹟ニ指定セラレベキモノト思料ス

記 尙ホ高野山ノ板碑ニ關シ考古學雜誌ニ笠井新也氏ノ記事ヲ見タレバ參考ノタメ左
ニ之ヲ採萃セリ

高野山ノ板碑ニ就テ

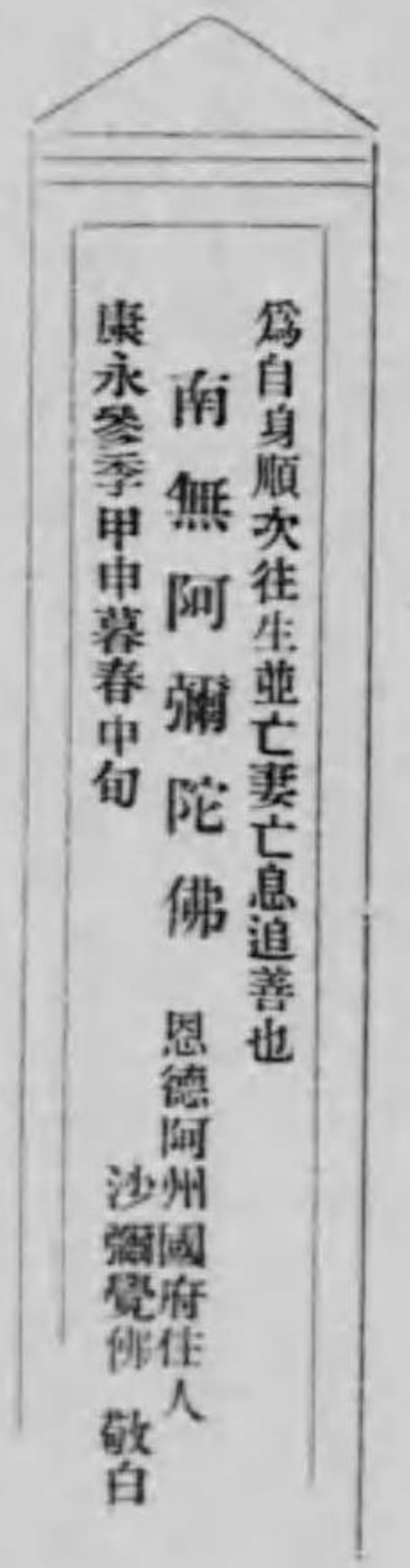
笠井新也

板碑ノ分布ハ關西ニ於テハ阿波國ニ限ツテイテ其ノ他ニハ存在シナイ筈デアアル然ルニコノ
原則ヲ破ツテ畿内中國地方ニ於テ時々コレガ發見セラレルコトガアル而シテソノ阿波國ノ
板碑トノ關係如何ハ從來學界ノ一疑問デアツタ然ルニ高野山ニ存在スル板碑ノ銘文ハコノ
疑問ヲ氷解スルモノデアアル

大正元年ノ八月予ハ紀州地方ニ研究旅行ヲ試ミタガ其ノ十二日ニハ高野山ニ登ツテ一山ノ
名勝ヲ探ツタ其ノ時奥ノ院へ詣テル途中墓碑ノ累々タル中ニ圖ラズ一基ノ板碑而モ巨大ニ
シテ且完全ナ板碑ヲ發見シタ意外ナ所テ意外ナモノヲ見出シタノデ予ハ驚喜シテ快哉ヲ叫
ハサルヲ得ナカツタ

板碑ハ御供所ノ手前一町バカリノ所ニ在ル高サハ約六尺幅ハ二尺六寸厚サハ一寸八分許デ
板碑トシテハ巨大ナモノデアアル石質ハ例ノ綠泥片岩デアアル頂上ノ山形、山形ノ下ノ三條ノ
横線等ハ型ノ如クテ碑銘ノ記サレタ表面ニハ一重ノ輪廓カ施シテアルノモ板碑ニヨクアル

形式デアアルサテ表面中央ニハ行書テ「南無阿彌陀佛」ノ六字ガ大キク記サレテソノ下ニハ
簡單ナ蓮座カ畫カレテアル表面右側ニハ細字テ「爲自身順次往生竝亡妻亡息追善也」ト記
サレテイルコノ内順次ノ順ノ字ハ一寸判讀ニ苦シム文字デアアル表面左側ニハ「康永參季申
暮春中旬沙彌覺佛」ト記シテソノ「沙彌覺佛」ノ右側ニハ「恩德阿州國府住人」ト書添ヘ
テアルソノ恩德ノ恩ノ字一寸息ノ字ノヤウニモ讀マレルカ恩德テハ意味カ通シナイカラヤ
ハリ恩德デアラウ左ニソノスケツチヲ掲ケル



高野山見取圖
板碑圖

要スルニソノ碑石ノ巨大ナ事ニ於テ形式ノ完全ナ事ニ於テ乃至銘文ノ明瞭ナ事ニ於テ多ク
得難イ標本的ナ板碑デアアル加之ソノ分布ノ奇抜ナ事ソノ銘文ノ面白イ事等ハ實ニ斯道ノ研
究ニ種々ナ新事實ヲ暗示スルモノデアアル予ハコレヲ發見シテ實ニ快哉ヲ叫ハサルヲ得ナカ
ツタノデアアル、然ルニソノ後家ニ歸ツテ「集古十種」ヲ觀テイルウチ不圖面白イモノヲ見
付ケタソレハ同書碑銘ノ部ノ「ナニ」ニ載セテアル佛號碑ト稱スルモノデアアル(集古十種碑

銘部「ナニ一佛號碑高野山參照」コレハ同書ノ碑銘ノ部ノ最後ニ掲ケテアルモノテ高野山中佛號碑(高四尺四寸余 横二尺六寸余)ト斷ラレテアル之ヲ予ノ前掲ノ見取圖ト比較シテ見ルト甚タ酷似シテイルガ又多少ノ相違カアル即チ之レニ右側書ノ下部ニ「奉謝二親三十三回」ノ文句カアルガ彼レニハコレガ無イ、ソレカラ又佛號碑ニハ左側傍書ノ下「敬白」ノ二字ガアルカ彼ノ見取圖ニハコレガナイ併シ彼ノ見取圖ニ「恩德阿州國府住人」トアル所コレニハ「府住人」ノ三字カ缺ケテイル尙蓮座モ見取圖ノハ完全テアルカ「集古十種」ノハタダソノ位置ヲ白ク抜イテ大体ノ輪廓ヲ示スダケテアルソコテコノ兩者ハ酷似シテイルカ果シテ同一物テアラウカ、アルマイカトイフ疑カ一寸起ル併シ靜ニ考ヘテ見レハソノ兩者同一タルコトハ直チニ首肯セラレルノテアル、即チコノ碑ハソノ銘文ニヨルト沙彌覺佛ナル阿波國府ノ住人カ自身ノ順次往生スル爲メ並ニ亡妻亡息追善ノ爲ニ立テタモノテアルカクノ如キ同シ動機テ同シ人ガ同シ石碑ヲ幾枚モ立テルトイフ事ハ一寸想像シ難イ事テアル且ソノ字配字體等カヨク一致シテイルノテアル尙ソノ大サモ丁度同一ナノテアル「集古十種」ニハコノ碑ノ横二尺六寸高四尺四寸ナルコトヲ斷ツテイル即チソノ幅ハ兩者一寸違ハズ一致シテイルソノ高サハ少シク相違シテコノ方ハヤ、低イヤウデアルケレドモコレハ頂上ノ山形ニナ

ツタ部分ニ蓮座以下ノ部分トヲ省イテ測ツタノテアルカラ勿論サウアルヘキナノテアル、要スルニコノ兩碑ノ同一物タルコトハ最早疑ヲ容レナイソノ銘文ノ細カイ点ニ於テ多少ノ相違ノアルノハ既ニ表面ノ風化シテイル古碑ノ文字ヲ讀ムノテアルカラ幾分ノ讀違ヒ乃至讀殘シ等ハ何人ニモアリカチノ事テアルカラ必スシモ深ク咎ムヘキテアルマイ、茲ニ於テ予ハ少クトモ左ノ利益ヲ得タ

一、「集古十種」掲載ノ該古碑ハ板碑テアルコトヲ知り得タ

二、今日ハ既ニ風化シテ讀ミ難イ文字文句等ヲコノ圖ニ依ツテ補フコトガ出來テコノ板碑ノ完全銘文ヲ知り得タ

三、コノ碑カ既ニ百幾拾年ノ以前ニ於テ一部學者ノ注意ヲ惹イテイタコト從ソテコノ碑カ近世ノ偽物テナイコトヲ知り得タ

次ニコノ板碑ノ銘文ニ就テ聊カ研究シテ見タイト思フ

一 板碑ノ年代

銘文ニ依ルトコノ板碑ハ康永三年ノ暮春ニ造立セラレタモノテアルコトカ明ラカテアル康永ハ北朝ノ年號テソノ三年ハ南朝ノ與國五年ニ當ツテイル即チ後村上天皇即位六年ニ相當

スル、北朝デイヘハ光明院ノ九年テアルコノ頃ハ恰モ板碑造立ノ全盛時代テアルコノ板碑ノ郷國タル阿波國ニ於テモコノ時代ノモノガ頗ル多イ

二 造立目的

板碑ノ造立ノ目的ハ第一ニ自身ノ往生ノ爲即チ所謂逆修テアル板碑ニ逆修ノ多イノハ云フ迄モナイ第二ニハ亡妻亡息追善ノ爲即チ所謂供養ノ爲テアル尙銘文ニ「奉謝ニ親三十三回」トアルヲ見ルトソレニ二親ノ追善ノ意味モ幾分籠ツテイルラシイ兔ニ角種々ナ目的ヲ兼テテコノ板碑ハ造立セラレテイル事カ分ル何レニシテモコノ板碑ノ墓碑テナイ事ハ明ラカテアル

三 造立者

コノ板碑ノ造立者ハ沙彌覺佛テアツテ阿波國名東郡國府村ノ人テアルコトハ銘文ニ依ツテ知ラレル尙銘文ニヨルトコノ人ノ夙ニ兩親ヲ失ヒ更ニ妻子ニ後レタ孤獨ノ人ラシイソレラノ不幸カ遂ニコノ人ヲシテ所謂沙彌タラシムルニ至ツタモノテアラウト思ハレル遙ニ郷里カラ石碑ヲ運ンテ高野ノ靈地ニ之ヲ造立シタノモ何トナクシホラシク感セラレル

四 板碑ノ郷貫

板碑ノ分布ハ九州地方ニソノ類似ノ物カアル外關西ニ於テハ阿波國以外ニハ殆ト發見サレナイノテアル予ハ始メテコノ板碑ヲ發見シタ時ニハ奇異ノ感ヲナシタガ銘文ヲ讀ンテ首肯シタ即チコノ碑ハ阿波國ノ人カ阿波國カラココニ運ンテ來タモノテアル事カ知ラレタカラテアル殊ニコノ板碑ノ郷貫タル名東郡國府村ハ阿波國ノ板碑分布ノ中心地テアルソコカラコノ板碑カ齋ラサレタト云フ事モ偶然テナイノテ、ココニ於テ予ハ阿波國ノ板碑カ或動機ニ依ツテ他國ニ搬出サレテ適宜ノ箇所ニ立テラレル場合カアルト云フコトヲ知り得タコノ事實デアルガコレニ依テ更ニ他ノ事實ニ解決ヲ與ヘルコトガ出來ルノハ益々面白イ事ト思フ次ニソノ事ニ就テ聊カ述ヘテ見ヨウ

本誌第四卷第四號ニ德富萬能氏ノ報告スル所ニヨルト備前國岡山市濱田町ノ智曜山報恩寺ノ境内ニ一基ノ板碑カアルトノコトテアル

其詳細ハ本誌ヲ參照セラレタイコレハ分布上實ニ不思議ノ現象トイハナケレハナラナイ之ニ就テ報告者ハ「阿波國ノ板碑ト密接ナ關係カ無クテハナラナイ」ト云ハレテイル併シ果シテ兩者ニ如何ナル關係カアルカハ疑問テアツタノテアル然ルニ前記高野山ノ板碑ヨリ得タ事實ハコレカ解決ヲ與ヘルニ充分テアルト思フ即チコノ板碑モ阿波國カラ搬出サレタモ

ノニ相違ナイノテアル又大正二年十二月ノ大阪朝日新聞ニ喜田博士ノ報セラレタ所ニ依ル
ト京都ノ百萬遍山内了蓮寺ニモ高サ八尺許ノ素晴シイ板碑カアルトノ事テアルコレマタ分
布上異例ニ屬スルモノテアルカ同博士ハ之ニ對シテ「了蓮寺ノ大板碑モ或ハ阿波ヨリ移シ
候モノカトモ考ヘラレ候」ト云フ意見ヲ洩ラサレテイル流石ニ博士ノ著眼ニハ敬服セサル
ヲ得ナイカ「モノカトモ考ヘラレル」テハ未ダ學術上格別ノ價值アル言トモ思ハレナイ勿
論博士モ疑問トセラレテ居ルノテアラウ然ルニ前記ノ事實ハ又コノ問題ヲモ容易ニ解決サ
セルコトガ出來ルノテアルコレ又阿波國カラ或動機ノ爲ニ搬出サレタモノニ相違ナイノデ
アル尙今後幾内中國地方(四國ハ勿論)ニ於テ板碑カ發見セラレテモ同様に解決ヲナシ得ル
ト思フ要スルニ高野山ニ存スル板碑ハ板碑トシテ最モ完全テシカモ標本的テアルノミナラ
ス、ソノ銘文ノ學術的價值ハ更ニ大ナルモノガアル予ハ之カ充分ナ保存法ヲ墓地管理者ニ
希望セサルヲ得ナイ同箇所ハ安養院ノ管スル所テアルサウテアル

一〇 豊臣家墓所

委員 井村米太郎報告

- 一所在地 伊都郡高野村字高野山奥院五百五十三番地參道ノ左側ニ在リ
- 一地積 元ハ一千餘坪アリシガ現今ハ百餘坪ニ過キズ
- 一管理者 高野山金剛峰寺
- 一現狀

- 春 巖 貞 松 天正十五年六月二十一日逆修 (豊公ノ母堂)
- 大光院殿前亞相春岳紹榮大居士 天正十九年正月二十二日薨 (豊公ノ弟)
- 三位 法 印 後 室 天正二十年五月七日逆修 (豊公ノ母)
- 大納言殿北方慈雲院芳室紹慶 天正十九年五月七日逆修 (秀長ノ夫人)
- 玉 顏 麟 公 神 童 天正二十年二月淺野彈正少弼造之 (豊公ノ長男)
- 御 上 鶯 天正十七年七月三日逆修 (淀君?)

以上五輪石塔其他不明ノモノアリ
近年兆域ヲ縮少シ石塔ノ散在セシモノヲ一所ニ收集セリ元ハ此ノ他ニ猶ホ數基アリシナランモ
今尋ネ難シ

一由 來 豊公木食應其上人ヲ信用シテ大ニ高野山堂塔ヲ興隆シ寺領ヲ定メラレ一族ノ墓所

ヲ造築セラレ徳川時代ニ諸侯ノ競テ石塔ヲ建立セシモ此ノ豊臣家カ其ノ基因ヲ爲スモノ、如シ
而シテ豊臣氏ハ滅亡シ此ノ墓ハ施主ナクシテ獨リ存スル事トナレリ

一一 禪尼上智碑

委員 井村米太郎報告

一所在地 伊都郡高野村字高野山奥院五百四十八番地參道右側ノ覺鑿阪ニ在リ

一地目 官有地第三種墓地ニシテ高野山金剛峰寺ノ總境内ニアリ

一現狀 碑ノ高サ三尺ニテ六寸角、頂邊ハ缺損シ角柱ノ碑躰傾斜セリ、碑文ハ上ニ梵字ニ

テ一字アリ、表ニ

爲禪尼上智聖靈

奉造立沙彌蓮阿

横ニ

永和元年乙卯七月 日

トアリ

一由來 永和元年ハ南朝天授元年ニシテ今ヲ距ルコト五百四十五年前ナリ集古十種ニ採録

セラレタルモノナルニ碑体甚微小ニシテ人ノ注意ヲ牽クニ足ラス或ハ亡失センコトヲ恐ル因テ

史蹟ニ指定セラレムコトヲ切望ス

一二 法明上人墓

五輪石塔

委員 井村米太郎報告

一所在地 伊都郡高野村字高野山奥院五百五十三番地參道ノ左側ニ在リ

一地目 官有地第三種ニシテ高野山金剛峰寺ノ總境内中ニ在リ

一地積 兆域壹坪八七五

一現狀 高サ五尺側ニ無縫塔一基(高三尺)アリ、玉垣ハ木ニテ前九尺横七尺五寸、碑文ハ

法明上人

貞和五年九月二十二日

トアリ形体ニ異狀ナシ

一 管理者 高野山内ノ安養院

一 由 來 法明上人名ハ良尊、融通念佛宗中興ノ祖ニシテ一世ノ大德ナリ後醍醐天皇ノ徵信
深ク歸依ノ信徒モ甚ダ多カリシガ貞和五年六月十三日入寂セリ此ノ石塔ハ其年ノ建立ニ係リ即
チ南朝正平四年ニ當リ今ヲ距ルコト五百七十年前ニテ既ニ集古十種ニ採録セラレアリ史蹟トシ
テ指定セララルヘキモノト史料ス

一三 ゆかんの森

委員 佐々木定信報告

- 一 所在地 有田郡御靈村大字吉見字向垣内
- 一 地 目 山林
- 一 地 積 二十九坪
- 一 所有者 官有地
- 一 現 狀 揚梅及赤松ノ老樹鬱鬱トシテ密生シ其ノ根ノ蟠マレル所ニ一基ノ古碑ヲ存スレモ
上部ニ刻セル三個ノ梵字ノ外ハ磨滅シテ全ク讀ミ難シ森ノ東南二部ハ柑橘園ニ續キ西北ノ二面

ハ直ニ雜木林ニ接ス隣接地區ノ境ニハ竹垣ヲ繞ラセド今ハ殆ント朽腐セリ碑ニ近キ揚梅樹ノ幹
ニナイフヲ以テ深ク落書の文字ヲ刻セリ

一 由來傳説

文安元年後村上天皇第六皇子上野大守説成親王ノ御子義有王尊秀王ヲ助ケテ大和
河内和泉ノ浪士ヲ集メテ八幡城ニ據ル既ニシテ城陷リ義有王走ツテ湯淺城ニ入リシガ三年ヨ
リ四年ニカケテ畠山ノ家臣遊佐兵庫介宇都宮入道禪綱等屢來リ攻メ十二月二十二日城竟ニ陥リ
義有王又亡ハレ給ヒタルコト殘櫻記ニ詳カナリ然ルニ吉見八幡社ニ關スル口碑ニヨレハ昔日此
ノ宮ノ谷ニ白キ衣服ヲツケ鏡ヲ持チテ倒レ死シタル人アリ是即チ義有王ニシテ其ノ鏡ヲ祭リシ
モノ即チ若宮八幡ナリ當時北朝ヲ憚リテ特ニ若宮八幡ト呼ヒタリ云々八幡社境内ニ近世迄花折
池又ハ御陵ノ池トテ方二間許ノ水溜アリ祭日ニハ里人花ヲ折ツテ此ノ池ニ投入ル、コト行ハレ
タリト云フ此ノ神社ノ稱號ヲ深草山ト云フハ王カ深キ草原ノ中ニ仆レ給ヒシヨリ起リ西南山上
ニ聲カケ岩アリ東南山中ニ隠レ谷アルハ皆義有王又ハ其ノ從者ニ關セルモノナリト云ヒ傳フ又
妙見森一ツハ吉見ノ西北ニ一ツハ東北ニアリ其ノ他太刀尾森、富貴谷森、山谷森、鳥羽澤森等妙
見森ト共ニ此ノユカントノ森ヲ中心トシテ半圓形狀ニ散在シ皆從臣ヲ葬ル所ナリ云々、明治ノ
初頃之ガ發掘ヲ試ミタルモノアリシガ老樹ノ根蟠屈シテ作業容易ナラサリシ爲中止シタリト云

二八
フ其ノ後明治三十六七年ノ頃倉田續翁種々調査ノ結果皇族御陵傳説地トシテ全三十八年六月足立諸陵頭視察ノタメ來郡セラレシモ未タ確定スルニ至ラス

一四 湯淺城趾 一名 平野城趾

委員 佐々木定信報告

一所在地 有田郡湯淺町大字青木

一地目 山林

一所有者 有田郡湯淺町大字湯淺 川口榮藏

一現狀 松樹及雜木林

一由來傳説

平家物語ニ「小松殿ノ御子丹後侍從忠房八島ノ軍ヨリ落チ紀伊國住人湯淺權守宗重ヲ頼ンテ湯淺ノ城ニゾ籠ラレケル云々」花營三代記ニ「永和元年九月紀伊國所楯籠之宮方没落ノ間翌日守護人以下攻入在田郡湯淺等之間所々宮方没落云々」コレハ南北兩朝對峙ノ時湯淺孫六入道定佛ノ孫左京亮南方ニ屬シ屢々南方宮方ヲ助ケテ山名義理ト戰ヘルコトヲ指スナリ又殘櫻記ニ曰ク「文安三年^{丙寅}九月島山オノレガ家臣遊佐兵庫介マタ宇都宮禪綱ヲ差遣ハシテ攻メ

ケレトモ城方嚴シク戰ヒ銳ク切ツテ出ケレハ寄手大ニ打亂サレ宇都宮ハ粉河寺ニ楯籠リケリ明クル四丁卯年遊佐宇都宮等重テ兵ヲ集メカヲ盡シテ攻メケルトゾ十二月二十二日城竟ニ攻メ破ラレ楠カ弟二郎ヲ始メ數多ノ兵討死シ義有王モコ、ニテ亡ハレ給ヒニケル」日本外史亦此ノ事ヲ記シテ曰ク「楠氏不利退入紀伊湯淺城(中畧)城終陷義有王遇害楠某死之楠氏之事終於此」ト南朝及楠氏最後ノ運命ヲ決セシ所ナリ

一五 明慧上人誕生地

委員 佐々木定信報告

一所在地 有田郡石垣村大字歡喜寺字中越

一地目 墓地

一地積 八坪

一所有者 有田郡石垣村大字歡喜寺

一管理者 歡喜寺住職及檀家總代

一現狀 舊邸宅ノ趾ハ大部分耕田トナリ今ハ唯此ノ八坪ノ芝生ト其ノ附近、中北由太郎所

有ノ田中ニ方四尺許ノ芝地(俗稱やなづか)トヲ存スルノミ其ノ北部ニ井戸(うぶゆの井戸)アリ
シモ近年イツノ間ニカ埋没セラレタリ前記八坪ノ芝地ニハ檢其ノ他ノ灌木又ハ雜草叢生セリ

一由來傳説 承安三年正月八日明慧上人(僧高辨)此處ニ生マル父ハ高倉院武者所平姓伊藤重國
母ハ湯淺權守宗重ノ第四女ニシテ其ノ本邸ハコ、ニアリシナリ此ノ事ハ明慧上人傳(版行)一本
明慧傳(保田村大字山田原御前家所藏)ハ所遺跡記、名所圖繪、續風土記等ニ見ユ

一徵証物件 芝生ノ中ニ一基ノ石碑アリ高サ地上四尺五寸厚六分幅八寸二分ニシテ頭部ハ屋根
形ヲナス表面ノ上部ニ梵字ヲ刻シ其ノ下ニ左ノ如ク記セリ

承安三年癸巳正月八日辰時 嘉禎二年丙申

普賢菩薩 十一月十八日

上人誕生之地 比丘喜海謹記

喜海ハ上人ノ高弟ナリ嘉禎年間上人遺跡地八ヶ所(皆本部ニアリ)ニ木製卒塔婆ヲ建テシカ其ノ
後康永年中其ノ朽腐センコトヲ憂ヒテ辨蓮淨宗及如空尼等願主トナリテ更ニ此ノ石碑ニ改メタ
ルナリト云フ

一保存方法 管理者ヲシテ適當ノ方法ヲ講セシムヘシ

一六 宗 祇 屋 敷

委員 佐々木定信報告

一所在地 有田郡藤並村大字下津野字一ツ松

一地 畑地

一地 積 二段三畝歩ノ内約一段四畝ハ其ノ邸宅ノ趾ナリ

一所有者 有田郡藤並村大字野田 山下太左兵衛門

一現 狀 殆全部畑地トナリ其ノ東南隅ニ一ノ古井ヲ存ス周圍約一丈四尺繞ラスニ垣ヲ以テ

シ一基ノ石碑アリ宗祇法師ノ誕生井ト刻セリ碑ハ三四年前持主山下太左兵衛門氏其ノ廢滅ニ歸
センコトヲ憂ヘテ之ヲ建ツトイフ

一由來傳説 我國連歌ノ泰斗宗祇法師應永二十八年此ノ地ニ生ル

一七 上 品 堂

委員 佐々木定信報告

- 一所在地 有田郡石垣村大字歡喜寺字北ノ坊
- 一地目 山林
- 一地積 十二坪二合
- 一所有者 有田郡石垣村大字歡喜寺 歡喜寺
- 一現狀 一字ノ極メテ古ビタル堂ナリ(建坪四坪)本尊阿彌陀佛ハ慧心僧都ノ作ニシテ國寶トナレリ此ノ他慧心ノ像歡喜寺中興ノ像ヲ安ス建物ハ所々朽腐シツ、アリ
- 一由來傳説 歡喜寺ハ寛和二年慧心僧都(源信和尚)ノ開基花山院ノ御願所ニシテ境内八町四方アリ上品堂、中品堂、下品堂等山上ヨリ山下ニ建テ連リ善美ヲ盡シタリシガ保元以前ニ一度退轉シ後湯淺宗氏復一字ヲ建テシモ遂ニ昔日ノ美ヲ見ルニ足ラスト云フ上品堂、中品堂、下品堂ハイヅレモ其ノ遺趾ナリ
- 一徵証物件 創建以來約一千年ニ近キ歲月ヲ經シ爲徵証スヘキ何物ヲモ有セス唯下品堂並ニ現在ノ歡喜寺ト共ニ慧心僧都ノ作佛ヲ多ク藏スルコト及其ノ他ノ佛像モ國寶トナレルモノ若クハ之ニ准スヘキモノ多キハ之ヲ証スルニ足ランカ
- 一保存方法 近年此ノ地ノ住民一般ニ寺院ニ對スル態度冷淡ナルヲ以テ現在ノ儘ニ捨テ置クト

キハ日ヲ逐フテ廢滅ニ皈セントスル虞アリ調査會ニ於テ其ノ方法ヲ研究セラレタシ

一八 中 品 堂

委 員 佐々木定信報告

- 一所在地 有田郡石垣村字赤禰山
- 一地目 山林
- 一地積 六畝十二步
- 一所有者 上品堂ニ同シ
- 一現狀 一小堂宇ナリ(建坪一坪五合)内ニ花崗石ヲ以テ刻メル石佛座像一軀ヲ安ス近世ノ作ナリ蓋シ遺跡ノ廢滅ニ皈センコトヲ憂ヘ僅カニ其ノ面影ヲ留ムルノ意ナラン其ノ荒廢ノ狀ハ前記上品堂ニ比シテ更ニ甚シキモノアリ境内ノ松樹ナト或ハ斧鉞ノ爲ニ或ハ火ノ爲ニ其ノ根ヲ壞サレ其枝ヲモ損セラレタル現狀實ニ傷マシキモノアリ
- 一由來傳説 上品堂ニ同シ

一九 上田和隧道

委員 佐々木定信報告

一所在地 有田郡保田村大字千田字上田和

一地形 積 全長百七十二間余、高平均八尺、巾五尺

一所有者 保田村有

一現狀 岩質軟弱ナル部分屢々崩壊シ殊ニ安政ノ大地震ノ爲ニ痛ク損傷セシヲ以テ大ニ改

修工事ヲ施シタリト雖其ノ後モ數回崩壊セシ爲今ハ十分ノ排水ヲナササルニ至レリ

一由來傳説 惡水排除ノ目的ヲ以テ天保九年六月千田ノ庄屋鳥淵磯右衛門野村ノ大庄屋江川兵

衛等ノ發起ニヨリテ起工シ同十三年十二月竣成ス工費銀八十四貫匁ヲ要セリト云フ操業中ノ諸

役人ハ日高郡小池村ノ人白井久藏ト云フモノニシテ前後五ケ年間斷魚潔齋日夜ノ別ナク全力ヲ

盡シテ之ニ從事シ辛フシテ貫通スルヲ得タリト云フ、坑内中央ニ細穴ト稱スル狹窄ノ個所アリ

シヲ天保十四年四月更ニ第二工事ヲ起シ弘化二年取擴ヲ遂行セリ然レトモ當時此ノ種ノ技術尙

頗ル幼稚ナリシヲ以テ岩質軟弱ノ所屢々崩壊シ今ハ十分ニ其ノ用ヲ爲サ、ルニ至レリ

二〇 龜山城跡

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡湯川村大字丸山字風呂ノ谷、古池谷、朝日谷、齋谷ニ亘ル

一地形 山林

一所有者以外ノ管理者及占有者 ナシ

一形狀構造等 海拔百米餘、東西二十八間、南北二十二間

一現狀 壘趾、石垣等存ス

一由來傳説 亂世ノ土豪湯川氏居城ノ地トス天正十三年三月豊臣氏ノ南征ニ遇フテ燒燼ス

二一 鶴ヶ城跡

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡上山路村大字東、全大字西ニ跨ル

一地形 山林

- 一 形狀構造等 東西三十二間、南北二十一間、周圍八十二間
- 一 由來傳説 山地氏(玉置氏ノ一族)ノ本城タリシ所

二二 切目崎ノ塚穴

(地方つくあなト稱ス)

委員 芝口常楠報告

- 一 所在地 日高郡大字切目村島田字由留木^{ユルギ}二一七二番地(切目崎ノ尖端)
- 一 地目 山林
- 一 所有者 切目村 鈴木三郎外一名
- 一 形狀構造大小數量等 圓塚、塚穴(即チ古墳ノ口ヲ)一基、美道^{センドウ}(間口三尺)玄室^{ゲンシツ}(間口六尺奥行八尺高サ六尺)
- 一 現狀 ロヲ開カレタルモ塚穴トシテ完存スコノ附近ノ群集古墳ハ一兩年前マデ尙若干基殘存セシモ今纔ニコノ塚穴一基ノミトナレリ近年開墾頻リニ行ハレコロ一基モ近ク破却サルベキ運命ニアリ之カ保護施設ハ實ニ焦眉ノ急ニ屬ス
- 一 由來傳説 「紀南郷道記」及「十寸穗ノ薄」ニ見ユ、里人ハ古墳ヲ火ノ兩塚トヨビ塚穴ヲつくあ

なト呼ブモ皆蠻人穴居ノ跡トノミ思ヒ墳墓ナルコトヲ信セズソノ發掘ノ罪惡ナルコトヲ知ラズ故ニ彼ノ如ク濫掘シ彼ノ如キ慘狀ヲ呈スルニ至レル也

一 保存ノ要件 四圍ヲ劃シテ現狀ノマ、(塚上ノ封土ヲ掩フ雜木ヲモ伐採セズシテ)保存セシムルト共ニ地方民ニ對シテモ古墳ノ何タルカヲ知悉セシメザルベカラズ

二三 切目村ニアル古墳 (特有ノ名稱ナシ)

委員 芝口常楠報告

- 一 所在地 日高郡切目村大字島田字下廣芝一八三三番地(切目川口ノ南岸)
- 一 地目 山林
- 一 所有者 切目村村上定右衛門
- 一 形狀構造等 美道^{間口一尺參寸奥行一尺}玄室^{間口二尺奥行四尺}塚穴トシテ存ス

二四 野島ノ新首サン (外ニニヶ所アレド特有ノ名稱ナシ今假ニ甲乙トス)

委員 芝口常楠報告

一所在地 野島ノ新首サン 日高郡名田村大字野島字廣畑(縣道ヨリ稍上) 三八

甲 全村全大字全小字一九五七番地

乙 全村全大字小字馬地二四六二番地

乙 全村全大字小字廣畑一九五六番地

一地目 野島ノ新首サン及ヒ甲ハ畑

乙ハ山林

一所有者 野島ノ新首サン

甲 名田村大字野島 中村梅之助

乙

一形狀構造大小數量等

野島ノ新首サン 塚穴二基

甲 塚穴一基 羨道(間口四尺一寸 奥行十尺) 玄室(入口二尺二寸 間口五尺七寸 奥行七尺五寸 高さ五尺六寸)

乙 羨道ノ底面ヨリ封土ノ頂点マデ凡十尺

圓塚二基(馬地ニ一基 廣畑ニ一基)

一現狀 野島ノ新首サン 塚穴トシテ存シ地蔵尊ヲ祀ル

甲 塚穴トシテ存ス

乙 古墳トシテ完存

一由來傳説 野島ノ新首サン 上ナルハ明治初年頃發掘、下ナルハ明治以前ノ發掘ニカ、ルト云フ

甲 群集古墳ノ内塚穴トシテ存スルモノ、一、大正二年三月八日

東京帝國大學人類學教室大野雲外氏實地踏査其ノ報告書ハ

「人類學雜誌」第二十九卷第二十九號ニ掲載セリ

乙 野島ノ群集古墳ノ中古墳トシテ存セルモノハコノ二基ニ止マ

ル、大正二年三月東京帝國大學人類學教室大野雲外氏實地踏査

二五 目津ノ定穴

委員 芝口常楠報告

- 一所在地 日高郡南部町大字山内一六七三番地
- 一地目 山林
- 一所有者 南部町大字山内 岡崎幸次郎
- 一形狀構造等 塚穴一基、美道ハ一部破壊サレ玄室ノ間口五尺奥行九尺高五尺
- 一現狀 美道ノ一部破却サレタル外完存セリ

二六 松平山城守ノ墓

委員 芝口常楠報告

- 一所在地 日高郡湯川村大字小松原九品寺内
- 一地目 宅地
- 一所有者 日高郡湯川村九品寺
- 一形狀構造等 五輪塔 高サ五尺八寸
- 一由來傳説 享保三年五月晦日松平山城守當寺ニ於テ弑害ニ遭フ

二七 山上不動堂

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智山上字飛瀧、那智一ノ瀑頂上約一丁許ニ在リ
- 一地目 社有山林
- 一地積 約二十坪
- 一所有者 官幣中社熊野那智神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現狀 堂宇破壊シテ現形ナク只ダ古石垣ヲ存スルノミ堂宇ハ推定二間四面位ノモノナル
ベク板像(縦二尺八寸、横一尺五寸)ハ青岸渡寺ニ現存セリ
- 一由來傳説等 修驗道ノ盛ナリシ頃三山檢校春秋二季大峯山入ノ時那智瀧上ニモ祭壇ヲ設ケテ祭典ヲ執行シ諸方ヨリ賽客多ク來リシガ風雨ノ際ニハ竟日佇立シテ拜觀シ其ノ困難一方ナラザリシヲ以テ應仁元年實方院二十六世那智山執行法印道湛一字ヲ設ケテ休息ノ便ニ供シ瀧龕ト號セ

リ時ニ聖護院宮准三宮道興(題國雜記ノ著者也)大ニ其ノ志ヲ嘉シ數日懇念ヲ凝ラシ自ラ不動尊像ヲ模シテ板扉ニ刻シ開眼供養ヲナセリ其ノ後文祿四年乙未三月瀧本之ヲ再建シ(建長三年聖護院門主執達狀アリ)文化四年丁卯冬三山檢校二品親王更ニ之ヲ修理シ且ツ新ニ威怒王ノ尊容ヲ模シテ之ヲ安置セリ

右道興ノ模刻セル不動尊板像ハ縦二尺八寸横一尺五寸此ノ板ヲ以テ棟札ニ充ツトアリ現物ハ目下那智山青岸渡寺ニ保存セリ

目下頽廢セルモ當時ニ於ケル信仰上ノ史蹟トシテ保存スベキモノト信ス

一 徵證物件

(イ) 准后道興ノ銘

山上不動銘

以此板當棟札 (此所ニ立像不動尊彫刻アリ)

干時執行法印道湛

二季山入之時常客凌風雨竟日佇立不堪思之仍設一宇方室號瀧頭龕是即依御瀧絕頂也然予自模不動明王尊像安置彼室於壇上數日摧肝膽凝懇念奉開眼供養同瀧本執行法印珍海相共遂供

養儀則畢冀大聖威怒王摧破魔界而此處長久令垂擁護給矣

先達 光明坊 重海 儀

干時應仁元稔丁亥十月下旬

飛瀧千日行人 聖護院准三宮道興 書判

同行 宣辨 爲 獻

(ロ) 二品親王祈願文

いにし應仁のはじめ執行法印道湛ここにすぎやうつたふ人の雨露におかされんことをいたみてひとつのいほりをたつへりしを

吾祖

道興准后そのころさしをあはれみ給ひ不動の尊容を模したまひそこに安置し執行法印珍海等これをたすけまゐらせて開眼供養し侍りしか世移り時さりいまはかたのここのころこれりしをこたみ所々すきやうのついて此にいたりてみるにつけ今より後年ふるまいやすたれんことをうれひ思ひてこの舊蹤をしたひわれも又あらたに威怒王の尊容をゑらせ……開眼しかしこに安置せさすることになんこふらくは大聖明王の本誓に因て魔事及障礙なく

法輪常轉淨侶永住せんことを偏にこひねがふこと爾り

文化四丁卯年冬の月

三山檢校 二品親王 華押

(ハ) 聖護院宮執達狀

那智山瀧上不動堂建立造畢其外所々再興之所無比類被思召彌於無退屈者可爲神妙之由依聖護院御門主氣色執達如件

慶長三年

法眼書判
僧都同

那智瀑下妙音上人

(ニ) 史料編纂掛ヨリノ來書

前記山上堂板像ニ關シ大正三年一月東京帝國大學內史料編纂掛ヨリ左ノ照會アリタリ
史寅第一六號

貴神社山上不動堂ニ安置ノ不動尊像ハ板面ニ彫刻セルモノ、由熊野神廟記ニ相見エ候右御像ハ今尙ホ御保存有之候哉本掛ニ於テ目下編纂出版中ノ大日本史料ノ參考ニ資シ度存候間

御手数ノ至リナガラ何分ノ義御回示ニ預リ度尙又御像御保存有之其裏面ニ銘若クハ年月日等御座候ハ、併テ御寫取リ御通知被下度此段御依頼申候也

大正三年一月十四日

東京帝國大學史料編纂掛事務主任

史料編纂官文學博士 三上 參次

一保存ノ要件 附近ニ樹木生ヒ茂リ遺蹟湮滅セントスルヲ以テ至急指定セラレタシ指定ノ上ハ所有者ニ於テ適宜ノ方法ヲ執ルベシト考フ

二八 瀧 見 堂

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智瀑下

一地目 官有社地

一地積 約二畝步

一所有者 官有

一所有者以外管理者 官幣中社熊野那智神社

一工 作物 ナシ

一現 狀 堂宇ハ破壊セラレ(明治十年頃)礎石ハ現存セルガ近時其ノ礎石ヲ他ニ移シテ境域

ヲ擴張シ新ニ一堂宇ヲ此ニ建設セントスルノ計劃アリ

一由來傳説等 那智大瀑布ハ古來飛瀧權現トシテ崇拜セラレ現ニ郷社飛瀧神社ノ御神体ナルガ昔

時遙拜ノ爲メ瀑下ニ祭壇ヲ設ケ天正ノ頃土佐ノ長曾我部元親土佐ノ深山ヨリ大櫓ヲ伐リ出シ工

人ヲ寄越シテ七間四面ノ一堂宇ヲ建立シタリ之ヲ瀧見堂ト稱ス、明治十年頃迄廢頽ノ儘現存セ

シガ今日ニテハ全ク跡方モナク只ダ其ノ礎石ヲ存スルノミ

一徵證物件 ナシ

一保存ニ就テノ要件 前記ノ如ク瀧見堂ハ長曾我部氏ガ土佐ヨリ遙々寄進築造セシモノニテ熊野

山信仰ノ分布ヲ見ル好個ノ資料ナレバ其ノ遺跡ヲ保存スルタメ木標ヲ立テ其ノ史蹟ナルコトヲ

知ラシムル必要アリト考フ

二九 龜山院御卒塔婆

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智瀑下附近

一地 目 官有社地

一地 積 三尺四方

一所有者 官有

一所有者以外管理者 官幣中社熊野那智神社

一工 作物 ナシ

一現 狀 宸翰寫シノ尊牌ヲ安置シ其ノ周圍ニ柵ヲ繞ラセリ

一由來傳説等 熊野三山ハ古來皇室ノ御信仰厚ク歷朝屢々行幸ノ御儀アラセラレシハ正史並ニ舊

記ノ記載スル所ナルガ 後鳥羽上皇、土御門天皇ノ行幸ハ單ナル御尊崇ノ聖慮ノミニ止マラズ

實ニ熊野ノ衆徒神人ヲ懷柔シ討幕ノ大事ヲ決行セラレ給ハントノ御深慮ノアラセラレシコトハ

歴史家ノ証明スル所ナリ承久ノ役以後ハ行幸ノ御儀モ暫ラク中絶セシガ 後嵯峨天皇ノトキ御

再興アラセラレテ三度行幸ノ儀アリ 龜山天皇モ一度行幸アラセラレシガ兩帝共ニ熊野御信仰

ノ外ニ御深慮ノアラセ給ヒシナルベク殊ニ 龜山上皇ノ行幸ハ元寇前ノ事トテ國難掃攘ノ御奉

賽ノ深意モ副ハセ給ヒシナルベク拜察セラレ即チ 龜山上皇ノ那智山行幸ハ弘安四年二月晦日
ニシテ年月日ヲ記載セル宸翰ノ卒塔婆ヲ賜ハリタリ即チ左ノ如シ

太上天皇 恒仁

弘安二年二月晦日 初度

其ノ初度ト御認メアリシヨリ察スレバ尙ホ重テ行幸アラセラル、御思召ナリシガ其ノ五月弘安
ノ役起リ戦後ノ御經營等ニテ終ニ御中止アラセラレ給ヒシナルベシ

右ノ宸翰木牌ハ目下熊野那智神社神庫ニ神藏シテ之ヲ模寫シタルモノヲ那智ノ瀑附近ニ建立セ
リ即チ 龜山上皇ノ行幸並ニ卒塔婆建立地ノ史蹟トシテ重要視スベキモノト認ム

一保存要件 前記ノ如ク行幸ノ遺蹟トシテ保存ノ要アリ

三〇 市野々王子

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々

一地目 民有地

一地積 約二畝歩

一所有者 那智村大字市野々 宮本卯三郎外一名

一所有者以外管理者 那智村市野々區

一工作物 ナシ

一現 狀 熊野九十九王子ノ一ニシテ元小社アリシモ今ハ二間四面ノ間ニ唯礎石ヲ存スルノ
ミ杉ノ小木數十繁茂セリ現今御旅行トシテ祭典執所ノ際使用セラル

一保存要件 神社跡地トシテ現存スレドモ將來或ハ破壊セラル、ノ虞アリ史蹟トシテ指定スル
ヲ要ス

三一 尼將軍様

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡那智村大字井關字岡山(通稱荷阪)

一地目 私有山林

一地積 三坪

一所有者 那智村大字井關 三隅恒二

一所有者以外管理者 ナシ

一工 作物 高三尺幅一尺五寸ノ供養石塔アリ

一現 狀 昔時ノ儘ニテ參拜者ノ建テタル幟及ビ寶永四年寄附ノ石燈籠アリ

一山來傳説等 尼將軍様ト唱ヘ平政子建立ノ供養塔ナリ古來諸病ヲ平癒スル靈驗アリトテ今ニ參

詣スルモノ多シ

史ヲ案ズルニ平政子ハ深ク熊野山ヲ信仰シ承元二年武藏守時房ヲ從ヘ熊野ニ詣テ建保六年再ビ時房ヲ從ヘテ熊野詣ヲ試ミタリ。吾妻鑑ニ

承元二年十月十日、尼御臺所、爲果御宿願、參御熊野山、今朝卯尅令進發給武藏守扈從、

十二月二十日尼御臺所、自熊野山還向建保六年正月十五日、晴、於政所、尼御臺所南山御參詣事、有其沙汰、相州可被扈從云々

同二月四日、快霽、尼御臺所御上洛、相州扈從、是爲熊野御斗敷也……四月廿九日、晴、

申尅、御臺所御還向、南山御奉幣無爲

前記供養塔ハ此ノ參詣ノ時建立セラレタルモノナルベク該建設地ノ荷阪ハ大字井關ノ後方ニア

ル山道ニ當レリ今ノ那智街道ハ後年新ニ開キタルモノニシテ古道ハ字牧野々橋ヨリ右折シテ山中ニ入り荷阪ヲ經テ市野々ニ達シタルモノナレバ平政子時代ハ古道ヲ往復シタルモノニシテ交通變遷ノ跡ヲモ見ルベキモノナリトス

一保存要件 諸人參詣ノ場所ナレバ壞滅ニ歸スル虞ナシト雖モ熊野信仰ノ遺跡ナレバ標木位ハ建テ置ク必要アリト考フ

三三 濱宮頓宮遺趾

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡那智村大字濱宮村社大神社境内

一地 目 官有社地

一地 目 周圍百五十間

一所有者 村社大神社

一所有者以外管理者 ナシ

一現 狀 石壇上ノ石ハ寶永四年ノ海嘯ニ倒レテ兩斷セリ當時周圍ニ老樹翁鬱トシテ繁茂セ

シガ明治維新後官林拂下ノ結果殆ド伐採シ盡クシ地籍モ一時民有ニ歸セシガ現今ハ社有地ニ復歸シタリ現今ハ遺跡ノ周圍百五十間許リニ木柵ヲ繞ラシ神武天皇頓宮ノ遺跡ト題セル木柵ヲ建設シテ保存ヲ圖レリ

- 一 由來傳説等 神武天皇御東征ノ際ニ於ケル頓宮ノ遺跡ニシテ其ノ海灣ハ即チ丹敷浦ナリ大神社境内ニ丹敷戸畔ノ祠アリ大神社ハ熊野三所權現又王子社ト稱シ社殿ノ造營ハ幕府若クハ領主ノ直營ニカ、リシモノナリ即チ丹敷戸畔誅戮ノ地ニテ又神武天皇頓宮ノ遺跡トシテ傳ヘラル、濱ノ宮ハ古昔渚ノ宮ト云ヒ熊野權現渚ノ宮ニ御立チ寄ラレシ事愛徳山縁起ニ見エタリ
- 一 徵證物件 愛徳山縁起ニ「熊野權現牟婁ノ郡補陀洛の濱の南、浪寄する渚を遠かり」云々
- 一 紀伊續風土記ニ「頓宮跡、王子社の巽に在り」
- 一 保存要件 神武天皇頓宮ノ遺跡ト稱セラレ此ノ外近傍ニ史蹟トシテ傳ヘラル、モノ多シ史蹟トシテ指定スルノ要アリト考フ

三三 多富氣王子

委員 田原慶吉報告

所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智山阪口

一 地目 官有社地

一 地積 縦三間半 横一間

一 所有者 國有

一 所有者以外管理者 官幣中社熊野那智神社

一 工作物 ナシ

一 現狀 礎石ヲ存スルノミ

一 由來傳説 熊野九十九王子ノ一ニシテ元多富氣神社ト稱スル小祠アリシガ明治十二年六月熊野那智神社ニ仮殿ヲ設ケテ此ニ鎮坐シタリ

一 保存要件 目今ノ跡地ハ樹木ノ間ニ隠レテ其ノ史蹟タルヲ知ルモノ少ク自然壞廢ニ歸スルノ虞アリ史蹟トシテ指定スルノ必要アリト考フ

三四 佛体埋藏地

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智瀑附近
- 一地目 社有地
- 一地積 約二畝歩
- 一所有者 官幣中社熊野那智神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現狀 樹木繁茂セリ
- 一由來傳説 大正四年頃木材運搬ノ爲メ木馬道ヲ築造スルニ當リ佛体百二十余点ヲ發掘シタリ依テ之ヲ帝室博物館ニ送附シタルニ推古佛ナリトノ鑑定ニテ其ノ大多數ハ同館ニ陳列セラレ數体ハ青岸渡寺ニ返付同寺ニ保存セリ尙ホ時々佛体又ハ石具ヲ掘リ當ツルコトアリ遺物埋藏地ナルベシ
- 一保存要件 遺物埋藏地トシテ保存ノ價値アリト考フ

三五 花山法皇御籠所

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡那智村大字市野々那智一ノ瀑頂上約一丁字飛瀧二三ノ瀧ノ間ヨリ東方約三丁ニ在リ
- 一地目 社有地
- 一地積 一畝歩
- 一所有者 官幣中社熊野那智神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現狀 堂宇現存セザルモ其ノ遺趾アリテ周圍ニ古キ石垣ノ跡ヲ存ス現場ニハ石ノ櫃アリ巾一尺五寸長二尺深一尺五寸ソノ中ニ 華山法皇御手澤ノ茶碗壺アリタルモ今ハ那智神社ニ秘藏シ又石櫃ニハ寛文某年五月御國主御寄進ノ文字ヲ彫刻セリ
- 一由來傳説等 花山法皇參籠所ノ跡ニシテ昔ハ圓成寺トイフ寺アリシモ今ハ頽敗シテ其ノ跡ナク石櫃ハ南龍院公ノ寄進シタルモノナリ、其ノ傍ニ 花山法皇御手植ノ櫻アリタルモ朽チ果テ、今ハ其ノ跡ヲ留メズ

一 保存要件 花山法皇御參籠ノ遺趾トシテ指定ノ上保存スベキモノナリト考フ

五六

三六 藤網ノ要害

委員 田原慶吉報告

一 所在地 東牟婁郡色川村大字大野

一 地目 私有山林

一 地積 約二反歩

一 所有者 色川村大字大野 信用組合

一 所有者以外管理者 ナシ

一 工作物 ナシ

一 現狀 昔ハ鬱蒼タル森林ナリシガ一時伐採セラレ現時ハ殖林シテ普通ノ山林トナレリ

一 由來傳説等 相傳フ元暦年中平維盛亂ヲ避ケテ色川郷ニ入ル邑ノ著姓等密ニ之ヲ迎ヘテ藤網ノ

要害ニ置クコト三年、後邑ニ出デ著姓ノ女ヲ納レ姓ヲ清水ト改ム子孫色川一族ト稱シ建武ノ際

南朝ニ忠勤ヲ抽デテ功アリ繪旨ヲ賜ハリタリト

森ノ中ニアル庵谷ト稱スル五畝歩程ノ平坦ナル地ハ維盛ノ屋舖跡ナリ藤蔓ヲ以テ防壘ヲ構ヘシ
カバ藤網ノ要害ト稱フ近傍ニ瀑布アリ白瀧トイフ又屏風倉トイフ絶壁アリ

南朝皇胤譜ニ曰ク「維盛歸自西、假爲殺那智浦而於色川構城據之、其跡于今存、四方屹立而不

用梯則不能登」云々

一、保存要件 森林地ナルヲ以テ壊滅ノ虞ナキモ地方的遺蹟トシテ相當保護ヲ加フル要アリト考フ

三七 維盛五輪塔

委員 田原慶吉報告

一 所在地 東牟婁郡色川村大字南平野字檜曾原三十一番地 潮崎重右衛門ノ庭ノ南隅

一 地目 私有宅地

一 地積 半坪

一 所有者 同地 潮崎重右衛門

一 所有者以外管理者 ナシ

五七

一 工 作 物 高二尺巾一尺ノ五輪塔

一 現 狀 庭ニ安置ス

一 由來傳説等 色川村ハ平維盛ニ由緒アル地トシテ各所ニ其ノ遺蹟ヲ殘セリ明治十年頃色川村南

平野字檜曾原ノ内字下浦ノ畑地ヲ宅地ニ開拓セシ時五輪ノ塔ヲ發掘セシガ其ノ臺石ノ下面ニ一

ハ「小松」一ハ「三位」トノ文字ヲ彫刻シアリタルヲ以テ持主潮崎氏ハ之ヲ自己ノ邸内ニ移シタル

モノナリ

一 保存要件 平維盛傳説遺蹟地トシテ此ノ五輪塔モ相當保存ノ道ヲ講スベキモノナリト考フ

三八 松音寺遺趾

委 員 田 原 慶 吉 報 告

一 所 在 地 東牟婁郡勝浦町字椎ノ浦 江南山

一 地 目 町有山林

一 地 積 一段九畝一步

一 所 有 者 勝浦町

一 所有者以外管理者 ナシ

一 工 作 物 ナシ

一 現 狀 明治十三年松音寺ヲ壞チ其ノ材ヲ以テ町役場ヲ建設シタリ現今ハ山上ニ其ノ趾ヲ

存スルノミ

一 由來傳説 往昔江南山上ニ一寺アリ松音寺(又松蘭寺ト書ス)トイフ 後白河法皇熊野行幸ノ

時御休憩アラセラレシ處ナリト古クヨリ傳説アリテ其ノ御宸筆ナリトイフ紺紙金泥ノ法華經一

卷ハ今モ現ニ町役場ニ保存セリ往昔ハ本堂ニ波切不動尊ヲ安置シ其ノ靈驗アラタカナレバ波荒

キ熊野灘ヲ航スル大小ノ船舶ハ必ず寄港シテ舟人此寺ニ詣テ護摩ヲ焚キテ其ノ安穩ヲ祈願シ地

方ニテハ有名ノ寺院ナリシガ年移リ星變リ世人ノ尊崇漸ク衰へ遂ニ廢寺トナレリ明治十三年勝

浦町大火後此寺ヲ破壊シテ役場建築ノ材料ニ使用シ現今ハ其ノ趾ヲ存スルノミトナレリ

一 保存要件 行幸ノ傳説古クヨリ存スルモノナレバ地方的史蹟トシテ保存ノ要アリト考フ

三九 神倉山

委 員 田 原 慶 吉 報 告

- 一所在地 東牟婁郡新宮町ノ西隅
- 一地目 社有地
- 一地積 一萬一千四百二十坪
- 一所有者 官幣大社 熊野速玉神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ

一現 狀 崖頭ニ神倉神社アリ明治ノ初年迄ハ棧造ノ社殿翼如トシテ懸崖ノ上ニ峙ヘタリシガ次第ニ頽敗ニ歸シ今ハ唯斷礎ヲ見ルノミ

社ハ明治四十年熊野速玉神社ニ合祀サレシガ近時復祀サレ玉垣ヲ新ニ築造セリ

一由來傳説等 日本書紀神武天皇記ニ「越狹野到熊野神邑、旦登天盤盾」トアリ神邑ハ即チ新宮町ニシテ天盤盾トハ即チ神倉山ナリ實ニ 皇祖登臨天神ヲ祀ラセ給ヒシ神蹟ニシテ高倉下命ノ神劔ヲ授カリシモ亦此地ナリ磴道五百三十八級ハ建久四年源賴朝ノ寄進築造セルモノナリトイフ

此ノ神社ノ火祭ハ毎年舊正月六日(今ハ二月六日)ニ行ハレ俗ニ御燈祭ト唱ヘ數百千ノ男子松明

ニ火ヲ点ジテ山上ヨリ競ヒ下ル壯快ノ祭儀ナリ、熊野年代記ニ「敏達天皇甲午正月二日神倉ニ於テ光明ヲ放ツ、翌年正月六日夜火祭始ル」トアルハ其ノ起源ナルベシ

四〇 蓬 萊 山

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡新宮町字上熊野地
- 一地目 社有地
- 一地積 保安林八段六畝六步
- 一所有者 村社阿須賀神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現 狀 樹木鬱蒼トシテ繁茂シ山形盆ノ如ク自ラ仙境ノ觀ヲナセリ
- 一由來傳説等 秦ノ徐福ガ不老不死ノ仙藥ヲ求メシ地ナリト唱ヘ古來蓬萊山トシテ世ノ尊重スル所ナリ

四一 丹鶴城跡

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡新宮町字丹鶴
- 一目的地 民有地
- 一積 原野六段五畝十七步 宅地七畝步
- 一所有者 新宮町 山口敏亮
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現狀 明治六年城樓ヲ取拂ハレ今ハ唯壘壁ヲ存スルノミ
- 一由來傳説等 元和四年淺野右近太夫忠吉就封ノ際城樓ヲ經營起工シ翌五年水野出雲守重仲移封セラレテ其ノ後ヲ承ケ工ヲ繼ギテ寛永十年水野淡路守重良ノ時竣成セシガ寛文七年水野土佐守重上ノ時更ニ増築完成セシモノナリ
- 一徵證物件 ナシ

一保存要件 丹鶴城ハ元六條判官源爲義ノ女丹鶴姫ノ開基セル東仙寺ノアリシ所ニシテ丹鶴城ノ名ハ此ヨリ起ル、後世水野家代々ノ居城トナリ史蹟トシテ保存ノ要アルノミナラズ城上ノ眺望快瀾ニシテ四顧咸ナ佳ナラザルナク、大八洲遊記ニ「海天渺々、極目無際、舟帆出沒、登臨之美、在明光浦之上」ト記シタルガ如ク名勝地トシテモ保存ノ要アリト考フ

四二 王子神社跡

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡新宮町字下熊野地ノ海濱
- 一目的地 區有地
- 一積 東西十間、南北八間
- 一所有者 新宮町字下熊野地區
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 社殿及拜殿アリ
- 一現狀 明治四十年阿須賀神社ニ合祀サレテ廢社トナリシガ社殿ハ今モ現存セリ

一由來傳説等 熊野九十九王子ノ一ニシテ紀伊續風土記ニ「神武天皇ノ皇兄稻水命、三毛入沼命ヲ祀ル」ト記シ、寛文書上ニハ「祀神若一王子」ト記セリ其傍ニ神武天皇頓宮ノ跡アリト云ヒ傳フルモ今詳カナラズ、東京府下飛鳥山ノ王子神社ハ元亨二年豊嶋左近太夫景村ガ當地ヨリ勸請セルモノナリ

一徵證書類 ナシ

一保存要件 前記ノ如ク東京府下飛鳥山ノ王子權現ハ當地ヨリ勸請シタリシ事、元文年間幕府儒官成嶋鳳卿ノ同山碑文ニ明記スル所ナリ王子神社ハ斯ク由緒アル神社ナレバ目下廢社トナレルモ崇敬者ニ於テ復舊ノ許可申請中ナリ相當保存ノ法ヲ講ズル必要アリト考フ

四三 徐 福 墓

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡新宮町字上熊野地

一地目 新宮町有地

一地積 墓地四畝二十一歩

一所有者 東牟婁郡新宮町

一所有者以外管理者 ナシ

一工作物 墓碑一基

一現狀 元楠藪ト稱シテ宏大ナル土地ナリシガ漸次鋤キ返サレテ僅ニ一畝歩許ノ地積トナリ墓碑ノ外枯損セル二樟樹アルノミナリシガ大正四年熊野地青年會發起トナリ保存計畫ヲ立テ附近ノ地所三畝十歩ヲ購入シテ樹木ヲ増植シ周圍ニ柵ヲ繞ラシテ今ハ稍々面目ヲ改ムルニ至レリ

一由來傳説等 古クヨリ秦徐福ノ遺跡ナリト言ヒ傳ヘ慶安元年僧絶海、明太祖ト唱和ノ詩ニモ熊野峯前徐福祠トアリ徳川頼宣ノ時蓬萊山ノ西三町許ニ秦徐福之墓ノ五字ヲ刻セル石碑ヲ建テラル(書ハ李梅溪ノ筆ナリト)元文元年新宮城主水野大炊頭忠昭石ヲ立テ其ノ墓ヲ表ストアルモ今詳カナラズ、天保六年水野氏仁井田好古ヲシテ墓碑ノ銘ヲ撰セシメ和歌山市ニテ之ヲ石ニ刻シ工成リテ新宮ニ運搬ノ際海路暴風ニ逢ヒ船漂没シテ石碑モ海中ニ没セリト碑文ハ載セテ紀伊續風土記ニ在リ又其ノ碑文ノ石摺モ坊間ニ散見ス

墓ノ近傍ニ徐福從者ノ墓ナリト言ヒ傳フル七塚ト呼ブ古墳アリタルモ今ハ二基ヲ存スルノミ

一 徵證書類 ナシ

六六

一 保存要件 徐福ノ東來ハ歴史學上肯定的ノモノニアラザルモ熊野ニ徐福來着ノコトハ古クヨリ傳唱セラレ或ハ其ノ遺物熊野速玉神社ノ神寶中ニ在リトイヒ或ハ那智紙ノ製法ハ徐福ノ教フル所、捕鯨ノコトモ徐福ノ創ムル所ナリナド熊野ニ於ケル産業ハ徐福ニ關聯セルモノ、如ク傳ヘラル、其ノ傳説ノ古キコトヲ知ルベシ現今ニテモ徐福講ナドヲ組織シテ參拜スルモノアリ其ノ墓地ハ漸次縮少サレタルモ先ニ保存ノ計畫ヲ立テ近時更ニ保存ヲ確實ニセントノ計畫アリサレド附近ハ民有地ナルヲ以テ人家ヲ建設スルモノ續出シ其ノ遺蹟ヲ汚サル、ノ恐レナキニアラズ速ニ指定シテ保存ノ法ヲ講ズベキモノナリト考フ

四四 御手洗海岸

委員 田原慶吉報告

一 所在地 東牟婁郡新宮町ト三輪崎町トノ境ノ海岸
一 地目 國有地
一 地積 一畝歩

一 所有者 國有

一 所有者以外管理者 ナシ

一 工作物 ナシ

一 現狀 平ナル岩ノ上ニ盪ノ如ク窪メル所三ヶ所アリシガ新宮鐵道起工ノ際大ニ舊形ヲ損セリ

一 由來傳説等

神武天皇御東征ノ時賊會ヲ破リココニテ御手ヲ清メシメ給ヘリト傳ヘラレ、昔時

熊野ニ詣ツル者ハ貴賤ヲ論セズ皆此處ニテ手ヲ洗ヒ清メシモノナリ

一 保存要件 行幸及ビ信仰ノ史蹟トシテ保存スベキモノナリト考フ

四五 渡御前神社

委員 田原慶吉報告

一 所在地 東牟婁郡新宮町奥山際地
一 地目 社地跡地
一 地積 六畝二十歩

六七

- 一所有者 村社新宮神社
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一工作物 ナシ
- 一現 狀 神武天皇ヲ奉祀セシガ明治四十年新宮神社ニ合祀セラレ今ハ廢墟ヲ存スルノミ
- 一由來傳説等 神武天皇頓宮ノ遺趾ナリト言ヒ傳ヘ諸人ノ崇敬スル所ナリ
- 一保存要件 廢墟トナリ漸次壞滅ニ歸スル虞アリ相當保存ノ道ヲ講スヘキモノト考フ

天然記念物

一 高野ぐみ

委員 笠 巴 報告

- 一所在地 伊都郡高野村大字相ノ浦小字笠峠
- 一地 目 山林
- 一地 積 方三尺
- 一所有者 伊都郡九度山町 鐵田丈助
- 一形狀、大小、數量
- 葉 小ニシテ裏面赤色ヲ帶フ 花 極小 幹 直立性
- 幹ノ周圍 約八寸 高サ 約一尺二寸枝共
- 一株
- 一現 狀 雜草ノ間ニ在リテ乱伐セラレ

一從來ノ状態 是マテ注意セシ者モナク雜木ト混同視セラ
 一指定ノ事由 昨年八月ニ發見セラレ爾來植物界ノ珍木トシテ研究セラレツ、アリ
 該地ハ其ノ發見地トシテ永ク保存スル必要ヲ認ム未ダ他地方ニ見出サレズ目今當山ニ於テ唯二
 三株アルノミ村人ハ其ノ珍異ノ植物ナルヲ知ラサル故或ハ伐リ取り或ハ抜キ去ル等ノ虞アリ
 一保存ノ要件 周圍ニ柵ヲ設クルカ或ハ杭ヲ建テ、鐵條ヲ繞ラスカ相當保護ノ道ヲ講スルヲ要ス
 (余ハ相ノ浦區長ニ面會ノ機ヲ得シヲ以テ適當ナル保護ヲナスヤウ依頼シ置キタリ)

二 シダリス化石

委員 芝口常楠報告

一所在地

- 甲 日高郡由良村大字門前^{モンゼン}字仮治屋谷一〇六五番地ノ一
- 乙 全郡全村大字畑^{タノイシ}字玉石一〇四、一一〇七、一一〇九、一一一二、一一〇八、一一一〇、
一一一一番地
- 丙 全郡白崎村大字吹井

一地目

甲、丙 山林

乙 宅地(?)

一地積

甲 六十坪

乙 四段一畝七步

丙 不詳

一所有者

甲 日高郡由良村大字門前 小山鐵藏外二名

乙 同 郡由良村字玉石一〇四、一一〇七、一一〇九、一一一二番地ハ由良村大字畑 長

谷寺

全上 一一〇八番地ハ官有地

全上 一一一〇、一一一二番地ハ由良村 後藤藤楠

一大小數量等

甲 山林中ニ表ハレタル通俗大岩ト稱スル高十數間幅二十間程ノ「シダリス」石灰岩中ニ含ム

乙 由良村大字畑字玉石長谷寺ノ境内庭園ヲナセル自然岩石中ニ含ム

丙 山林中ノ處々ニ表ハレタル十數ノ岩角ニ「シダリス」化石ノ外猶他ノ化石ヲ含ムガ如シ

一現 狀

甲 一昨年ヨリ昨年春ニカケテ石材ヲ採取セシガ目下之ヲ中止セリ (寫眞版参照)

乙、丙 以前ノマ、ナリ

一從來ノ狀態

甲 石灰ヲ製スル原料トシテ重寶ナラザリシタメ採取セラレザリシガ近年工場ノ設立ニ伴ヒ

石垣用ノ材料トシテ採取スルニ至リシカバ保存保護ノ必要ヲ説キテ目下採取ヲ中止セリ

該「シダリス」石灰岩ニツイテハ嘗テ理學士比企忠、理學博士脇水鐵五郎兩氏ハ實地ヲ調

査セラレタリ

乙 「シダリス」化石ヲ含ムコト甲ノ如ク多カラザルモ亦他ノ化石ヲ含ムガ如シ

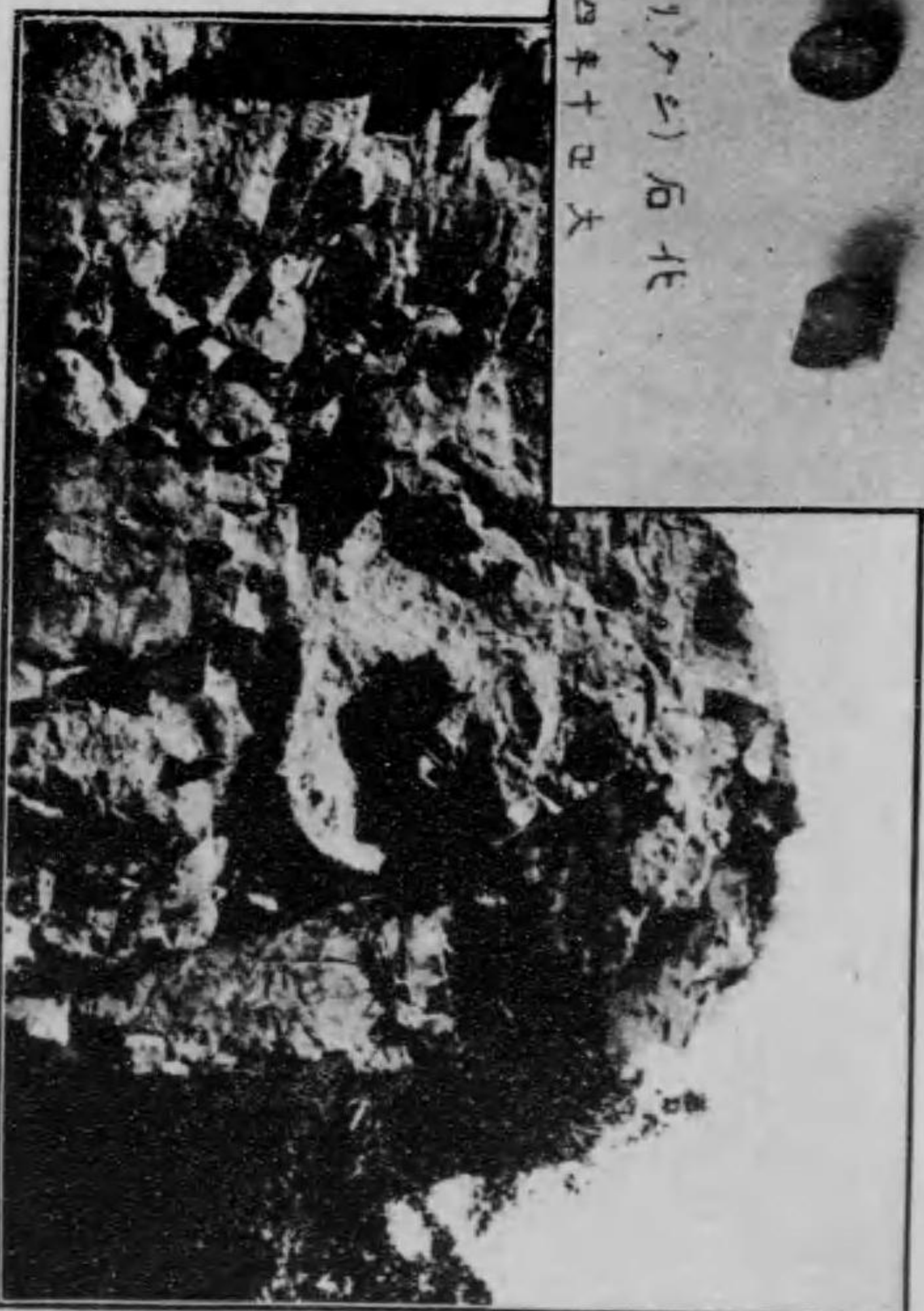
丙 シダリス化石ヲ含ムコト多ク更ニ他ノ化石ヲ含メリ

一保存ノ要件 甲、乙、丙何レモ現在ノマ、保存スレバ足レリ



面下、(株)スリダリス 石化
由良村 由 月四日 十四日 大

石化ノスリダシ



石灰石ノスリダシ

三 枇杷ノ自生林

委員 芝口常楠報告

一所在地

甲 日高郡白崎村大字大引字皆森七八五、七八六、七八四番地

乙 全郡由良村大字阿戸字高見山一九三番地ヨリ一二〇〇番地マデ

一地 目 甲、乙 山林

一地 積

甲 貳町四畝十六步

乙 三段七畝二十四步

一所有者

甲 白崎村大字大引字皆森七八五番地 白崎村

全上 七八六番地 海草郡大崎村 山中榮太郎

全上 七八四番地 海草郡大崎村 山中榮太郎 神戸市 澤田清兵衛

乙

由良村大字阿戸字高見山一一九三番地 由良村 坂口熊吉 鈴木楠太郎

全上 一一九四番地 由良村 鈴木市太郎

全上 一一九五番地 由良村 山下楠太郎

全上 一一九六番地 由良村 石橋 榮吉

全上 一一九七番地 由良村 山下 音吉

全上 一一九八番地 由良村 鈴木 直吉

全上 一一九九番地 由良村 岩崎 直吉

全上 一二〇〇番地 由良村 長濱文之助

一所有者以外ノ管理者又ハ占有者

甲ノ中白崎村大字大引字皆森七八五番地ノ地上權設定 海草郡大崎村 山中又七郎 一大小數量等

甲

石灰岩上廣大ナル面積ニ亘リ自生セルモノニシテ其ノ數千百ヲ以テ數フベキモ今ヨリ三十年前悉皆伐採セシヲ以テ今ハ大樹ナク概ネ高一丈二三尺位ノモノノミナリ

乙

石灰岩上ナラザルモ石灰岩地方ニ接セル地ニシテ面積小、樹木數十本アリ他ノ雜木ト混

生ス以前伐採センコトトテ今ハ大樹ナシ

コノ地方コノ山林ノ峯ツマキニハ枇杷ノ自生多カリシモノ、如ク只宅地ニ近キ部分ノミ

伐採セラレズシテ殘レルヲ認ム

一現 狀 前文參照

一從來ノ狀態

甲

從來小供等ハ枇杷山ト稱シテ果實ヲトリニ行キ當時ハ大樹モ多カリシモノノ如ク現在ソノ切株ノ大ナルモノ多ク殘レリ現在ノ生育セルモノハ三十年以前ニ伐採セシ切株ヨリ芽ヲ出シタルモノニシテ雜木ト混生ス、コノ處又アカウ(榕樹)ノ岩上ニ自生セルモノ多ク特別ノ景觀アリ

乙

他ノ雜木ト同ジク取扱ハレ時々伐採セラレタルモノナリ

一保存ノ要件

甲

目下石灰岩ノ採取地トナレルヲ以テ之ヲ禁止又ハ制限シ「あかう」樹ト共ニ保護保存ヲ要ス

乙

枇杷ノ伐採ヲ禁止スルコトコノ地「あかう」亦生育セリ共ニ保護スベシ

四 びやくしん(檜柏)ノ自生地

委員 芝口常楠報告

一所在地

- 甲 日高郡白崎村大字大引字白崎九六〇番地
全郡全村大字大引字芦山九五六、九五七番地
- 乙 日高郡三尾村字前出四四二番地(龍王神社境内山林)
- 丙 日高郡南部町鹿島
- 一地 目
- 甲乙 山林
- 丙 保安林(民有?)
- 一地 積
- 甲 拾壹町八段五畝七步
- 乙 二段三畝二十五步

丙 不詳

一所有者ノ住所氏名

- 甲 字白崎九六〇番地 白崎村
字芦山九五六、九五七番地 西端千代松
 - 乙 三尾村 龍王神社
 - 丙 南部町 鹿島神社(?)
- 一所有者以外ノ管理者若クハ占有者

甲 白崎村大字大引字白崎九六〇番地ノ一ハ大阪市東亞セメント株式會社五十年ノ地上權設定(全會社目下不明ナル由)

全村全大字字芦山九五七番地ハ全村大字大引高野兵太郎石灰石採取ノタメ地上權設定

一大小數量等

甲 白崎(岬ノ名)ノ海中ニ突出セル南面ノ懸崖上ニ多數ノ自生アリソノ數甚多ク、悉ク數フベカラズ又懸崖上ニアリテ近ツキ難キ故其ノ大サヲ計ル由ナキモ見ルトコロ大樹ナキガ如シサレド字芦山九五六番地ノ地先キトナル海中ニ屹立セル立巖ト稱スル岩上ニハ數百

年ヲ經シ大樹十數本小サキモノ亦多數ヲ認ムベク只人ノ攀ヅル能ハザル岩上ノコトトテ昔ノマヽナルヲ思ハシム而モ立巖ノ岩上只檜柏ヒノキノミニシテ他ノ植物ヲ見ザルモ亦奇トスベシ

乙 三尾村龍王神社地ノ南面懸崖上ニ十本アリ其ノ中大ナルモノハ根元(地上二尺)ニテ周圍四尺五寸及ヒ四尺二寸ニシテ猶ホ周圍三尺以上ト認ムルモノ四五本アリ又全神社後方(西部)ノ岩上ニ雜木ト混生シテ七本アリソノ中大ナルモノ根元周圍四尺八寸アリ
丙 鹿島ノ西南ニ當ル一ノ岩上ニアリ攀上ルコト能ハザルヲ以テ調査困難ナルモ大ナルモノ根元周圍三尺以上モアリ老樹タルヲ思ハシム惜イ哉今ヤ生育惡クシテ頻死ノ状態ニアリ他ニ二本アルモ己ニ枯凋セリ

一現 狀 前文參照

一從來ノ状態

甲 天然記念物ト稱スル方面ニ對シテ放任ノ状態ニアリシモノ、如ク濫ニ之ヲ採取セシタメ大樹少クナリ只採取ノ困難ナル懸崖上ニノミノノ厄ヲ免レタルモノナルベシ
乙丙 從來神社ノ境内ニテ官有地ナリシタメ今日マデ保存セラレタルモノナルベシ

一保存ノ要件

甲 石灰岩ノ採取ヲ制限シテ保存ノ道ヲ立ツルヲ要ス
乙 神社トシテ特ニソノ保護ニ任ゼシムルヲ要ス
丙 鹿島ニ生育セルコト分布上面白キコトナレバ何トカ枯レザルヤウノ保護必要ナリ

五 水仙ノ自生地

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡白崎村大字大引字芦山九五六、九五七番地

一現狀ト保存ノ要件 前記ノ地ニ於テ廣大ナル面積ニ亘リするせんノ自生アリ近頃大阪邊ノ花戸ハ採取ニ來ルトイフ故相當保護ノ策ヲ講スルヲ要ス

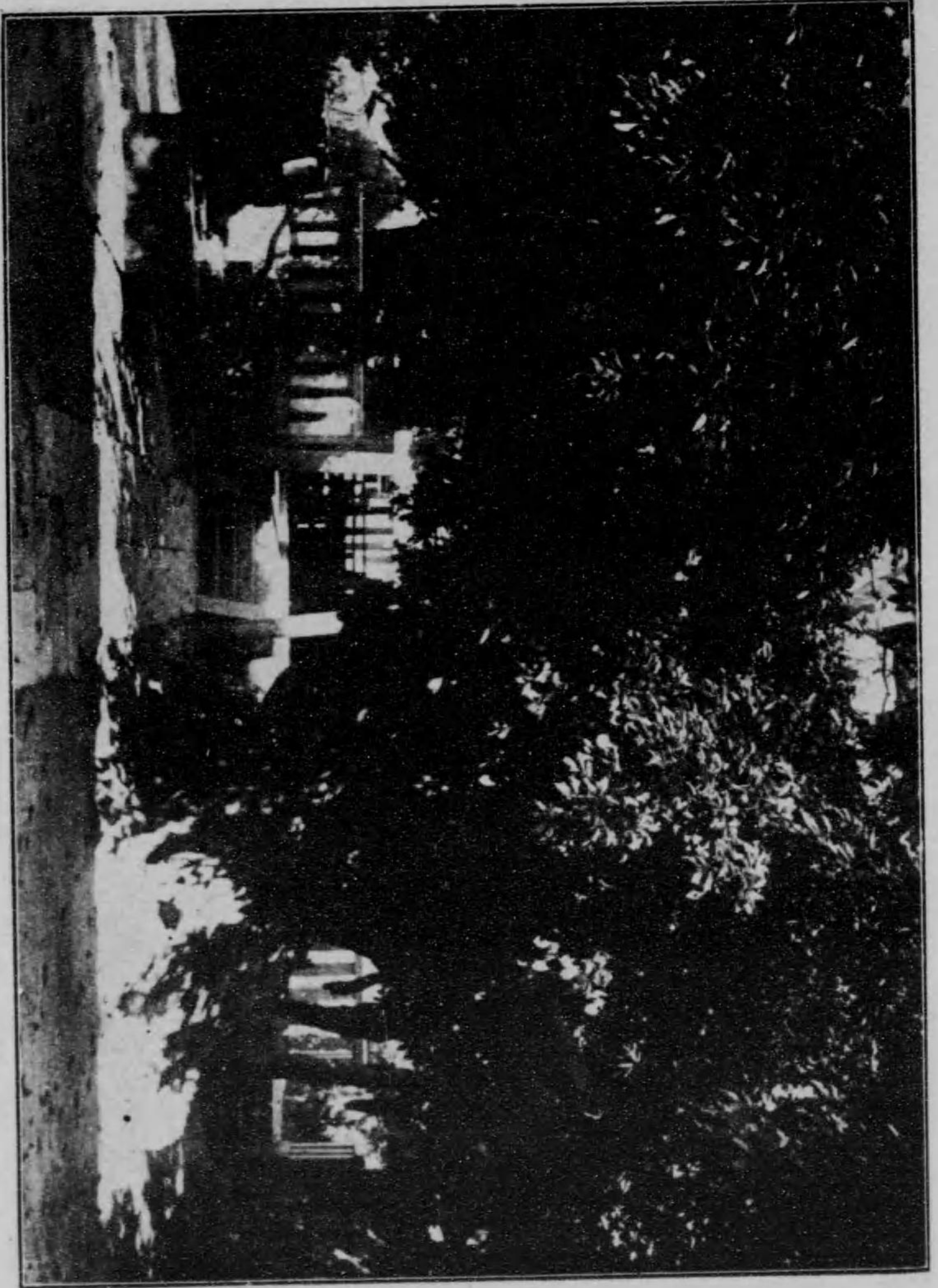
六 あかう(俗ニ榕樹)ノ分布

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡和田村ヨリ三尾村・比井崎村・由良村・白崎村・衣奈村ニ至ル海岸

一大小數量等 右海岸ニ分布セルモノ左ノ如シ

- 一 和田村本ノ脇ヨリ三尾村ニ至ル海岸南面ノ山林中ニ數十株アリ但シ大ナルモノナシ
- 二 三尾村龍王神社境内ニアルモノ(三尾村字前出四四二番地山林二反三畝廿五步龍王神社所有地)ハ根元(地上一尺)ニテ周圍二十六尺アリ地上三尺ノ處ヨリ二ツニ分レ一方ハ周圍十尺五寸他一方ハ周圍十四尺ニシテ(一方周圍十一尺五寸アル幹ノ方ハ上方ヨリ出セシ氣根ノ其處ニ生育セシひやくじんノ幹ヲ包ミテ肥大セルモノナリ)根ノ廣ガリハ周リ三十八尺アリ樹齡不明ナレドモ本郡中最大ナルモノ或ハ本縣下最大ナルモノナルベシ(寫眞版參照)
- 三 三尾村小學校前ニアルモノ三本(三尾村字早田八四一番地山林三畝十八步龍王神社所有)
 - イ、根元地上一尺ノ處ニテ周圍十九尺八寸地上六尺ノ處ニテ周圍十七尺
 - ロ、根元周圍九尺三寸
 - ハ、根元周圍七尺
- 四 三尾村字濱出四七五番地(山林三畝四步三尾村有)ニアルモノ六株
 - イ、根元ヨリ五本ニ分レ各幹七尺以上ノモノ三本
 - ロ、ソノ他五株



樹 大 ノ う か あ

- 何レモ樹齡少ク里人ノ傳フル處ニヨレバ六七十年前ニ植栽セルモノナリト云フ
- 五 比井崎村産湯ニ三株、スベテ人家ノ防風木トナレリ大ナルモノ周二十尺
 - 六 比井崎村大字比井ニ七八株、人家ノ防風木トナレリ大ナルモノ根元周圍二十四尺
 - 七 比井崎村大字津久ノ浦ニ三本
 - 八 比井崎村大字津久ノ浦ヨリ小浦ニ至ル海岸ノ山林中ニ數株
 - 九 比井崎村大字小浦ニ三株
 - 一〇 由良村大字阿戸網代ニ數株(人家ノ防風木)
 - 一一 全上字高見山ニ數株
 - 一二 由良村大字江ノ駒ニ二本
 - 一三 白崎村大字吹井字絲谷ニ數本
 - 一四 白崎村大字神谷ニ人家ニ接シテ十數本
 - 一五 全上山林中ニ十數株
 - 一六 白崎村大字大引皆森、岩山ト稱スル山林中枇杷ト混生シテ數十株
 - 一七 白崎村大字大引ニ人家ノ防風木トシテ十數株

一八 衣奈村大字衣奈ニ人家ノ側ニ數本

一現 狀

人家ノ近クニアルモノ又ハ社地ニアルモノハ防風木或ハ風致木トシテ相當生育セ
ル大樹ナルモ山林中ニアルモノハ他ノ雜木ト共ニ薪トシテ時々伐採セラル、故大樹ナシ材ハ何
等ノ用ヲナサズ虐待セラル、狀態ニアルモ只生育旺盛ナルガタメニ死ヲ免レテ幸ニ繁茂セル也
一從來ノ狀態 前項參照

嘗テ故理學博士大關久五郎氏ハ實地調査ノタメ比井崎村三尾村ニ出張セラレタルコトアリ
一保存ノ要件 本縣ハ本州中ニ於ケル唯一ノ產地ニシテ分布上ヨリ我國ノ北ノ限界ヲナス、而カ

モコノ地以南該樹ノ多クアルヲ聞カズ名田村大字野島ニ一株アルモ今ヨリ二十餘年前比井崎村
ヨリ枝ヲ得テ挿木セルモノ、西牟婁郡串本町潮岬本ノ宮ニアリト云ヘドモコノ邊自生アルヤ否
ヤ余未ダ之ヲ知ラズ又コノ地以北ニ於テ有田郡田栖川村ニアリト雖果シテコノ邊自生多キヤ否
ヤヲ詳ニセズ、トニカク本縣中唯一ナラザルモ第一ノ產地トナスベキニ似タリ(既記ノ中一、八、一
ナルモ)更ニ本郡ニオケル前記あかうノ生育地ニツイテ考察スルニ社地境内ニアルモノ人家ノ附
近ニアルモノハ總テ植栽セルモノト認ムル理由アリ何トナレバ之ヲ大觀スルニ南方海ニ面セル
地ニハヨク生育シ北方海ニ面スル地方ニ至ツテハ全ク生ゼザルカ或ハ人家ノ側ニ少數生育セル

カニ止マルヲ以テ也之レ亦該樹分布ノ面白キ点ナラズトセズ
以上自生ト自生ナラザルトヲ問ハズ現在生育セルモノニ對シテ伐採ヲ禁止スルコトヲ以テ策ノ
得タルモノト信ズ

因ニ九州、四國方面ニ於テ己ニ該樹ハ天然記念物トシテ保存サレ居レリ

一附 記

「あかう」ノ樹幹ハ腐朽シ易キモノノ如ク只老木トナルニツレ氣根ヲ出シ老幹ヲ包
ミテ肥大スル故老木ニ於テハ幹ト云フヨリモ寧ロ氣根ノ集リト云フヲ適當トス、モシ氣根ガ他
ノ樹木ニ接スルトキハ忽チニ之ヲ包ミテ之ヲ枯死セシメ地中ニ入りテ新ニ「あかう」ノ莖幹ヲナ
ス故ニ樹形ハ複雑ナリ又或ハ他ノ樹木上ニ寄生シ氣根ハソノ樹木ヲ包ミテ地中ニ入りソノ寄主
ヲ倒シテ繁茂スルコトアリ

本植物ハ三尾村、比井崎村ニ於テ俗ニ「あふぎノ木」ト稱シ紀伊名所圖會ニモ「あふぎノ木」トシ
テ記載セラル然ルニ隣村由良村白崎村ニ於テハ「あかう」ト稱シテ「あふぎ」ト稱セズ

七 たいきんぎくノ分布

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡和田村字本ノ脇ヨリ三尾村ニ至ル海岸ノ山麓

一現 狀 「たいきんざく」ハ熱帯産植物ニシテ九州、四國ノ南端ニ之ヲ産シ本州ニ在ツテハ
我和歌山縣ニノミ産ス而カモ前記ノ地ハ本縣中最モ生育ノ盛ナル處ニシテ又北ノ限界地ナル
ベシ現時生育ハ旺盛ニシテ益々繁殖スルモノノ如シ、コノ處「あかう」(榕樹)モ多ク自生ス
一從來ノ状態 他ノ雜草ト同ジク見捨テラレタル状態ニアリ之レ却テ今日ノ旺盛ヲ來セル原因ナ
ルベシ

一保存ノ要件 現在ノ儘ニテ可ナラン

一備 考 コノ地ヨリ以北今ノ處該植物ノ生育アルヲ認メズト雖モ以南鹽屋村、名田村ニ於
テ多少ノ生育ヲ見ル西牟婁郡富田村方面ニモ亦之ヲ産ス然レドモ現在日高郡和田村三尾村ニ於
ケルモノ最モ多ク繁殖セルモノ、如シ

八 地藏ノ大樅

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡寒川村大字小藪川三〇三三番地(梅津呂峠)

一所有者以外ノ管理者占有者 ナシ

一形狀構造等 根廻リ二丈

一現 狀 老樹ニシテ下部ニ空洞アリ冬季通行者火ヲ焚イテ暖ヲトルコトナドアリ樹下ニ地

藏ヲ祀ル

一從來ノ状態 峠ノ頂上岐路ニ立ツテ目標トナリ夙ニ其ノ名ヲ知ラル故ニコノ峠ヲ一名樅木峠ト
稱ス

九 八幡ノ檜

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡龍神村大字廣井原 八幡神社跡

一所有者 龍神村 皆瀬神社

一所有者以外ノ管理者占有者 ナシ

一形狀構造等 老樹ニシテ根廻リ二丈二尺五寸、胸高一丈四尺七寸

一現 狀 舊社殿ニ向ツテ略同大ノモノ二株アリ

一從來ノ状態 此ノ樹ノ事ハ續風土記ニモ見ユ、明治四十三年之ヲ賣ラントセシ時日高郡誌編纂委員森彦太郎氏ハ田納郡長ニ建言シテ之ヲ止メタリ近年コノ境内ニアリシ郡内無比ノ大杉モ遂ニ伐採セラレタレバコノ樹ノ運命モ不安ノ状態ニアリ

一〇 菖蒲谷ノ檜

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡中山路村大字柳瀬字虎ヶ峰一四一三番地(虎ヶ峰往來ノ上約三十間)
一地形 山林
一所有者 中山路村大字柳瀬 眞砂兼亮
一所有者以外ノ管理者占有者 ナシ
一形状等 老樹ニシテ根廻リ一丈四尺二寸、胸高一丈二尺
一從來ノ状態 古來靈木トシテ尊重シ斧鉞ヲ加ヘズ然レドモ民有地ニアル立木ノ事故今ニ於テ保護ノ法ヲ講ゼザルベカラズ

一一 羅漢柏

委員 芝口常楠報告

一所在地 日高郡上山路村大字丹生ノ川、和歌山奈良兩縣ノ境ニアリ
一形状 老樹ニシテ胸高周九尺、高サ約五丈五尺、樹齡約百五十年
一現狀 盛ニ茂生シツ、アリ
一保存ノ要件 紀和國境ノ名木トシテ保存ノ要アリ

一二 高見ノ松

委員 芝口常楠報告

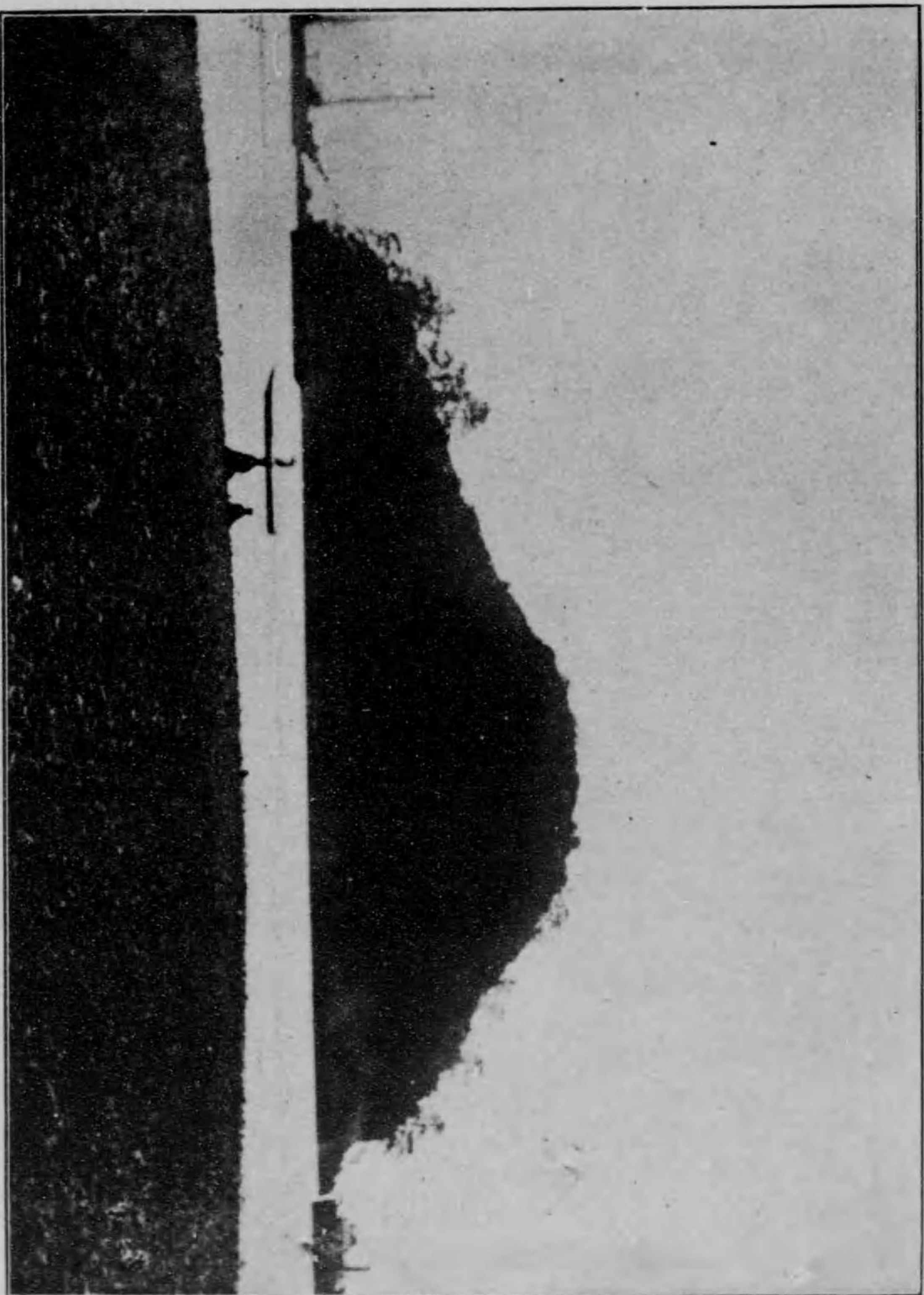
一所在地 日高郡南部町大字北道字東里中一九五番地
一地形 原野
一積積 二段一畝六步
一所有者 南部町大字北道外四ヶ字共有

- 一所有者以外ノ管理者占有者 ナシ
- 一形 狀 等 老樹ニシテ根廻リ一丈八尺、胸高周一丈五尺四寸
- 一現 狀 樹幹ノ中央ニテ折レ其ノ折レ口ヨリ雨水浸透スルヲ以テ餘命長カラザルベシ
- 一從來ノ状態及保存ノ要件 古來高見ノ松ノ稱アリ蓋然トシテ北道墓地ヲ掩ヘリ樹木トシテノ價値ナキヨリ幸ニ斧鉞ヲ免レ來リシガ近年墓地廢止ノ結果コノ地ハ原野トナレルヲ以テ此ノ松ノ運命モ且夕ヲ測ラレズ、南部街頭ノ名木ナルヲ以テ保存ノ要アリ

一三 明 神 杉

委 員 芝 口 常 楠 報 告

- 一所在地 日高郡龍神村大字龍神 青田明神跡
- 一所有者 龍神村 皆瀬神社
- 一形 狀 等 老樹ニシテ胸高周二丈二尺、根廻二丈七尺
- 一從來ノ状態 地方ノ豪族龍神氏ノ祖ガ祀リシ青田明神ノ神前ニアリシモノ（今同社ガ皆瀬神社ニ合併サレ跡地トナル）大正三年ニ之ヲ伐採セントセシ事アリシガ日高郡誌編纂委員森彦太郎



島積稻るた見りよ岸海

氏ノ盡力ニ依ツテ漸ク之ヲ中止スルコトヲ得タリ

一四 おほたにわたり

委員 宇井縫藏報告

一所在地 西牟婁郡周參見村大字稻積

一地目 山林

一地積 一町八段十五歩

一所有者 周參見村

一現狀 羊齒植物ノ一種ニシテ學名 *Asplenium, Nidus, L.* トイヒ元來熱帶所産ノ植物ニ

シテ我國ニテハ臺灣・琉球・小笠原島等ニ自生シ九州ニ於ケル最北ノ産地ハ肥前ノ五島諸島ニシテ和歌山縣ニ於ケル自生地ハ西牟婁郡周參見村ノ稻積島ナリ實ニ本邦最北ノ産地ニシテ又本州唯一ノ自生地ナリトス。コノ植物ハモト稻積島ノ外東牟婁郡古座町ノ九龍島ニモ自生セシガ栽培用トシテ濫採ノ結果數年前絶滅シテ今ハ一株ヲ殘サス稻積島ニテモ十數年前マテハ殆ト全島ヲ覆ハン計リニ繁茂セシガ漸次減少ノ傾アリシヲ以テ十數年前全村ニ於テ之ヲ採取ヲ禁シ幸ニ

絶滅ヲ免レテ今日ニ至レリ本年八月予カ實地踏査ノ結果手近キ處ノモノハ殆ト採集シ盡シ僅ニ全島西北方ノ懸崖ニ數十百株ノ自生ヲ見タリ然レモ今尙竊ニ採取スルモノアリトノ事ナレハコノ儘ニ放置スルトキハ數年ナラスシテ絶滅センコト必セリ

稻積島ハ海岸ヲ距ルコト四五町ニシテ風致勝レタル小島ナリ古來斧ヲ入レタルコトナキヲ以テ松、やまも、ごべら、みみずばい、もちのき、くす、あらがし、うばめがし、しひのき等鬱蒼トシテ生ヒ茂リ海濱ニハはまおもご(一名はまゆふ)、はまあざみナド自生シ殊ニ珍トスベキハさかきかづらノ周圍尺ニ達セントスルモノ及ビびやくしんノ大木ノ自生スルコトナリ之レ亦保護ヲ加フヘキナリ

因ニ同島ハ現ニ魚附林トシテ保安林ニ編入

一五 おほうなぎ

委員 宇井縫藏報告

大鰻ハ普通ノウなぎノ大キクナリタルモノニアラズシテ全ク別種ニ屬シ我國ノ暖地ニ産スルモ頗ル稀ニシテ學術上ノ珍種ナリ

和歌山縣ニテハ西牟婁郡ノ富田川・田並川、東牟婁郡ノ古座川等ニ棲息シ往々四五貫目以上ニ達スルモノアリ殊ニ古座川ハ富田川等ヨリモ水量豊ニシテ深淵多キヲ以テ比較的多數棲息セルガ如シ棲息地トシテ知ラレタルハ高池町字月ノ瀬ゴミノ淵、高池町ト明神村トノ境界ニアルトンビヤス淵等ニシテ大抵一ケ年ニ二三尾ハ捕獲セラレ大サ二三貫目ノモノ多ケレドモ本年(大正十一年)春高池町ニテ捕獲セルモノハ四貫目以上アリタリトイフ、肉ハ脂肪多クシテ食用ニ適セズ多クハ肥料トシ又特ニ大ナルモノハ見世物トシテ轉賣スルモノ、如ク近時頗ル減少セリ殊ニ近年何レノ川モ河床ハマスノ埋リテ大鰻ノ棲ムヘキ場所ハ年々狭メラレツ、アルヲ以テ捕獲セズトモ漸次減少スヘキハ當然ノ成行ナリトス故ニ速ニ之ガ捕獲ヲ禁止スルニ非ザレバ幾年ナラズシテ絶滅ニ歸センコト明ナリ

編者曰 富田川ノ内三ツ石ノ淵、濁淵、藁岩ノ淵ハ大正十二年三月七日内務省告示第五七號ヲ以テ史蹟名勝天然記念物保存法第一條ニ依リ保護區域ニ指定セラレタリ

一六 柏楨の老樹

委員 宇井縫藏報告

一所在地 和歌山縣西牟婁郡串本町字箕島 郷社潮崎本ノ宮神社境内

一現狀傳説等 樹ノ高七八間、幹ノ周圍地上二尺五寸ノ處ニテ二丈六尺五寸、地上五尺五寸ノ處

ニテ二丈二尺三寸樹齡少クモ壹千年以上ノモノナルヘシ、同神社ノ舊記ニ

白河法皇御行幸の御命先達増譽僧正役行者尊で建立し神主は御師號を給はり神前大樹壹本廻り壹丈八尺枝數多の内一枝東へ延て榮ゆ長四十間余受け木二十本 白河法皇大に被爲愛珍木の旨勅命あり

トアリ、眞偽俄ニ判スベカラザルモノノ傳説ト見ル事ヲ得ベシ

實ニ稀有ノ老大樹ニシテ恐ラク他ニ其ノ類ナカルベキモ惜ムラクハ現在ハ中心部殆ド腐朽シテ大ナル空洞ヲナシ數多アル巨枝中枯損セルモノ少カラズ僅ニ皮部ノミ生存セルモ尙鬱蒼トシテ繁茂セリ

大正十年九月廿五日暴風ノ爲巨幹ニツニ裂ケタルヲモツテ枯枝ヨリ枯枝へ亞鉛引ノ太キ鐵線ヲ以テ縛リ二本ノ木材ヲ以テ支持セリ

里人此老樹ヲ以テ神木靈樹トナシ尊崇措カズ、古來瘡ニ罹^{オコリ}レルモノコノ樹ノ空洞ニ首ヲ入ル、トキハ病癒エ、齒ノ痛ムモノコノ樹ノ皮ヲ口ニフクム時ハ之ヲ治ストイヒ傳フ

一保存ノ要件 斯ノ如キ柏楨ノ大樹ハ恐ラク他ニ其ノ比ナカルベシ之ヲ天然記念物ニ指定シ國家



柏楨の老樹

ニ於テ之ヲ保護スルコトハ蓋シ當然ノ處置ナラント思フ保存ノ要件トシテハ

イ、支木ヲ増設シテ暴風ヨリ受クル損害ヲ豫防スルコト

ロ、樹ノ根元ヲ距ル數間ノ處ニ相當肥料ヲ施スコト

ハ、中空部ニハ「セメント」ナドヲヌリテ外部ヨリ水ノ滲ミコマヌヤウニスルコト

ナド必要ナランモコハ専門家ノ研究ニマタザルベカラズ (寫真版參照)

一七 柏楨の大樹

(串本町)

委員 宇井縫藏報告

一所在地 和歌山縣西牟婁郡串本町字袋寺ノ元六三〇番ノ内一號

一地名 原野

一積 四畝壹歩

一所有者 西牟婁郡串本町 袋井養藏

一大サ其他 樹ノ高約四間、幹ノ周圍地上四尺位ノ處ニテ壹丈三尺貳寸アリ、枯損ノ箇所ヲ認
メズ頗ル元氣ヨク繁茂セリ

一保護ノ必要 大邊路街道ニ沿ヘル原野ニアリ大サ本ノ宮神社境内ニアルモノニ及バザルモ稀ニ見ル大木ニシテ個人ノ所有ニ屬スルト街道ニ接近セル故ヲ以テ天然記念物トシテ保護ヲ加フル必要アリト認ム (寫真版参照)

一八 柏楨ノ大樹 (富田村)

委員 宇井縫藏報告

一所在地 和歌山縣西牟婁郡富里村大字原瀬字後内七百六十六番地

一地名 墓地

一積 壹畝貳歩

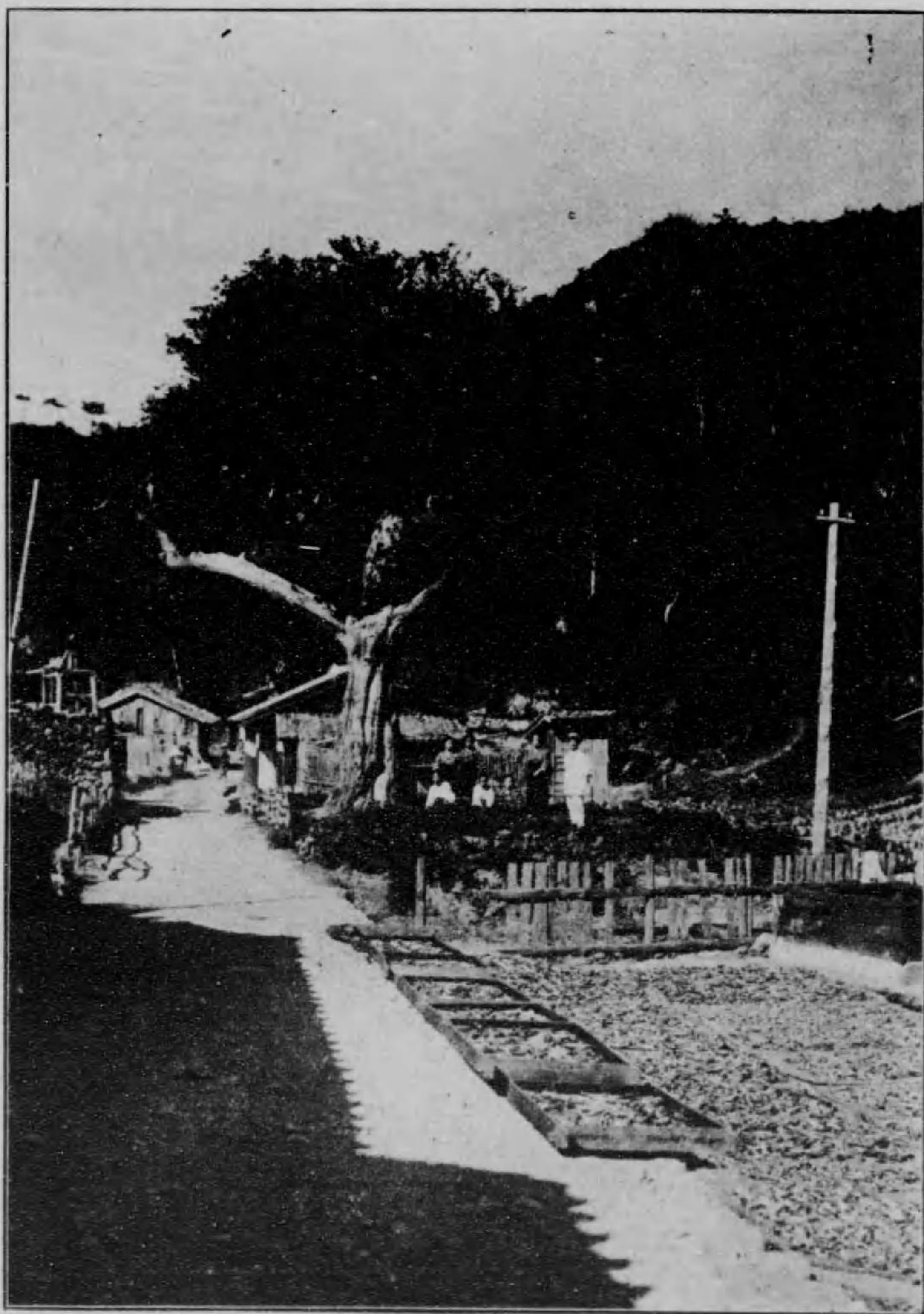
一所有者 西牟婁郡富里村 兒島虎助

一大サ等 樹ノ高約五間、幹ノ周圍地上約三尺五寸ノ處ニテ壹丈貳尺

西牟婁郡内ニ於テハ串本町本ノ宮神社境内ニアルモノ及ビ同町袋寺ノ元ニアルモノニ次グル第

三ノ大樹ニシテ枝振り最モ優レ元氣ヨク繁茂セリ又天然記念物トシテ保存ノ價値アルモノト認

ム



柏楨の大樹

一九 高野槇の自生林

委員 宇井縫藏報告

西牟婁郡内ニ於ケル高野槇ノ自生林ハ從來知ラレ居ラザリシモ二川村大字兵生ノ森林中ニソノ自生林アルベシトハ豫テ想像シ居リタリ何トナレバ二川、近野、富里ノ各村ニ亘リテ多カリシ大森林ノ殆ンド伐採シ盡サレタル今日森林ラシキ大森林ハ二川村大字兵生ノ阪泰、大泰兩國有林ヨリ外ニナケレバナリ西牟婁郡ニ於ケル唯一ノ大森林モ近ク伐採ニ着手スルヤウ聞キタルヲ以テソノ以前ニ調査ノ必要ヲ認メ今回實地踏査ヲナシタリ

大正十一年八月十八、九兩日ニ亘リテ密林中ヲ縦横ニ踏破探索ノ結果十九日午後ニ至リ阪泰、大泰兩國有林ノ境界線ニ近キ地点ニ於テ幹ノマツリ約二尺、三尺、三尺七寸ノモノ三本ノ榲桲ト混生セルヲ發見シ爰ニ高野槇ガソノ本場タル高野山以外ニ自生地アルコトヲ確メ和歌山縣ニ於ケル第二ノ自生地ヲ得タルワケナリコノ方面ノ事情ニ精通セル二川村大字兵生ノ西徳治郎氏ノ話ニヨレバ今回踏査セル箇所ニハポツリ／＼自生セルニ過ギザルモ大泰ノ頂上近キ箇所ニハソノ密生林アリサレド夏季ハ荆棘生ヒ茂リ踏査困難ナルベシトノ事ナレバ遺憾ナガラ見合スコト、セリ

高野嶺ハコノ地方ニテハ單ニマキ又ハホンマキトイヒ(普通ノマキヲイヌマキト呼ブ)往時ハ二川、近野、富里各村ノ森林中ニ多ク自生シ隨分大ナルモノアリシモ浴槽、釣瓶等ノ材トシテ優良ナルヲ以テ民有林ニアリシモノハ殆ンド伐採シ盡シ現時ハ儘ニコレラ國有林ニソノ餘命ヲ保チ居ルニ過ギザルガ如シ

二〇 牡丹岩

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡高池町大字月野瀬字畑野
- 一地位 目 私有山林
- 一地位 積 三畝歩
- 一所有者 高池町大字月野瀬 和田捨松
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一形狀構造 凝灰質噴出岩ニシテ中央侵蝕部ハ宛モ牡丹ニ似タルヲ以テ古來牡丹巖ト稱セリ奇巖トシテ世ニ著稱セラル

- 一現 狀 破壊サレズ舊態ヲ存セリ
- 一從來ノ狀態 現狀ト異ナルコトナシ

二一 虫喰巖

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡高池町大字池野山字小池地一五五七番地
- 一地位 目 私有山林
- 一地位 積 二反歩
- 一所有者 東牟婁郡高池町大字池ノ山 小池清六
- 一形狀構造 火山岩ノ一大巨巖ニシテ岩面ノ侵蝕部ハ穴孔ヲ穿チ恰モ虫ノ喰スルガ如シ故ニ呼ンデ虫喰巖ト云フ其ノ穴ノ最モ大ナルモノハ巖ノ半腹ニ在リ穴口僅ニ方二尺許リナレド匍匐シテ中ニ入レバ穴内高七尺奥行五間、幅二間其ノ南面ノ處ニ穴口アリ穴口ヨリ俯瞰スレハ眩暈シテ凝視スベカラズ以テ其ノ高キヲ知ルベキナリ誠ニ一奇岩ナリトス
- 一現 狀 從來ト異ナラズ

一從來ノ状態 現状ニ異ナラズ

二三 宇津木石

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡高池町大字宇津木一圓

一地目 私有地

一地積 東牟婁郡高池町大字宇津木内古座川沿岸一帯

一所有者 區域廣大ニシテ各人分有セリ

一所有者以外管理者 ナシ

一形状構造 古座川ニ沿ヘル大字宇津木一帯ノ山林又ハ畑地ニ存在スルモノニシテ大小種々アリ綠色凝灰質石英粗面岩ニシテ鬼ミカゲト稱シ建築材ニ用ヒラル其ノ質粗糙軟弱ニシテ水蝕ニ抵抗スルコト弱ク良材ナラザルヲ以テ從來ハ自家用ノミニ使用シタリシガ近時建築業ノ發達ト共ニ石材ノ缺乏ヲ來シタルニ依リ切り出シ漸ク盛トナリ各地ニ輸出セララル、モノ年々増加シ爲ニ古座川ノ風致ヲ損スルコト多大ナリ

一現 狀 前記ノ如ク年々夥シク破壊セララル、カ故ニ甚ダ風致ヲ損セリ

一從來ノ状態 從來ハ奇岩怪石隨所ニ露出シ大ニ沿岸ノ風致ヲ添ヘタリ

一保存要件 保護スベキ天然記念物ニ富メル代表的ノ區域トシテ至急指定スベキ要アリト考フ

二三 竹 柏 (なぎ)

委員 田原慶吉報告

一所在地 東牟婁郡新宮町 熊野速玉神社境内

一地目 官有社地

一地積 二坪

一所有者 官有

一所有者以外管理者 ナシ

一形状構造等 周圍一丈八尺、高十八間余、亭々トシテ雲ヲ凌ゲリ、平清盛ノ手植スル所ナリトノ傳説アリ

- 一現 狀 従前ト異ナラス
- 一從來ノ状態 同前

二四 濱木綿(はまゆふ)

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡三輪崎町及ヒ宇久井村海岸
- 一地 目 官有地
- 一地 積 不明(所々ニ散在セルニ依リ測定シ難シ)
- 一所有者 官有
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一形狀構造等 又文殊蘭^{ハユヅ}ノ字ヲ用ヒ濱オモトノ名アリ莖ハ芭蕉ノ如ク皮幾重ニモ重ナリ葉ハ萬年青ニ似テ長ク初夏黄色ノ花ヲ開ク
- 一現 狀 目下三輪崎町孔島及宇久井村海岸ニ稀ニ散存スルモノニテ絶滅ノ恐レアリ至急保存ノ法ヲ講ズベキモノナリト考フ

- 一從來ノ状態 古來熊野海岸一帶ニ繁茂シ熊野ノ特有産物トシテ古歌ニ吟咏セラレタル有名ノ植物ニテ熊野トハ一種特殊ノ關係アル歴史的植物ナリ

二五 玉 石

委員 田原慶吉報告

- 一所在地 東牟婁郡下里村大字浦神字向山東部海岸
- 一地 目 官有地
- 一地 積 不明(各所ニ散在セルヲ以テ地積不明)
- 一所有者 官有
- 一所有者以外管理者 ナシ
- 一形狀構造等 黝色頁岩中ニ堅硬ナル球塊ヲ藏ス即チ球狀燐鏽ニシテ俗ニ玉石ト呼ブ、形狀多クハ球狀ニシテ大サハ梅實大ヲ通常トシ雞卵大ヲ中トシ稀ニ人頭大ニ達スルモノアリ色及ビ成分ハ全然母岩ト等シケレドモ其ノ硬度ハ大ニ優レリ稍々風化スレバ母岩ヨリ抜き取ルコト容易ナリ、球内ノ構造ハ硫化鐵粉ノ同心狀排列ヲ見ル外別ニ異狀ナク成分ハ

磷	酸	一・二七
酸	化	一〇・八五
礬	土	四・九四
石	灰	一・四六

ナルガ磷酸分量ニシテ實ハ含磷礦石ト稱スベキモノナリ

一現 狀 濫採ノ結果近時著シク減少シ殆ド其ノ跡ヲ絶タントスルノ狀況ナリ宜ク保存ノ方
法ヲ講スベキモノナリト考フ

一從來ノ狀態 從來ハ其ノ採取ヲ營業トスルモノアリテ母岩ト共ニ採取シ玉ニ光澤ヲ與ヘテ床ナ
ドノ置石トセリ母岩ノ形ニ依リ山水ノ奇勝ヲ呈シ玉ハ滑澤ニシテ明月ノ如キ形似ヲナスモノア
リ風騒ノ土ノ甚ダ珍重スル所ニシテ廣ク世人ノ需ニ應ジタルモノナルモ今ハ殆ド其ノ跡ヲ絶タ
ントス

名 勝

一 藺 澤 森

委 員 田 原 慶 吉 報 告

一所在地 東牟婁郡新宮町字藺澤

一 地 目 山林

一 地 積 五段一畝

一所有者 新宮町

一所有者以外管理者 ナシ

一 工 作 物 等 ナシ

一現 狀 水田中ニ一ツノ浮島アリテ杉其他ノ樹木繁茂シ宛然一孤島ノ如ク形狀甚ダ奇ナリ

水田ノ深サ測ルベカラズ島上ニテ踴躍スレバ地動キテ響アリ、水中ノ樹木珍奇ナルモノナレバ
其ノ發育狀態研究ノ爲先年東京帝國大學ノ命ニ依リ樹木一二ヲ伐採シテ送付セシコトアリ近時

附近ノ水田漸次埋立テラレツ、アリ

- 一 由來傳説等 昔ハ「神倉聖」ノ行所(行所ヲ釜野トイフ)靈地トシテ尊崇セリ元ハ水田ノ面積方二町許リモアリシガ今ハ浮島ノ周圍(二町半許)ノミ現存セリ
- 一 保存ノ要件 漸次破壊ニ歸スル恐レアリ相當保存ノ方ヲ講ズベキモノナリト考フ

二 一枚岩

委員 田原慶 吉報告

- 一 所在地 東牟婁郡明神村大字相瀬ノ西部ニアリテ古座川河口ヨリ凡ソ二里半
- 一 地目 私有山林
- 一 地積 高七十余丈、幅八十余丈
- 一 所有者 明神村 佐々木喜作
- 一 所有者以外管理者 ナシ
- 一 工作物 ナシ
- 一 現狀 古來ノ儘現存セリ

一 由來傳説等

古座川ノ流ニ沿ヒテ一大絶壁ヲナシ土俗一枚巖ト呼ビ海南第一ノ奇岩ト稱セラレ大八洲遊記ニ曰ク「古座川ノ上流ニ奇巖アリ藍瀬村ニ在リ壁立二百仞、濶亦之ニ如ク脚ヲ江中ニ挿ム舟ニ非ザレハ造ル能ハズ其色紫鐵ノ如ク壁面草木ヲ生セズ壁城鐵壁ヲ仰ギ見ル如ク絶巖ハ松樹扶疎、土人呼ビテ一枚巖ト曰フ」トアリ壁面ニ草木ナシトアレドモ處々ニ小松アリ又石斛、岩松其ノ間ヲ點綴シ夏時ノ眺望殊ニ佳ナリ此岩ニ産スル石斛ハ黃白紅紫數種アリ、岩石ノ間ニ牛ノ爪、馬ノ爪ナドイフ奇巖アリ、又齋藤拙堂ノ南遊志ニ曰ク

漁夫嵩下ヲ棹過スルヲ望見スルニ舟ヲ視ルコト芥ノ如ク人ヲ視ルコト豆ノ如シ嵩ノ大ナルコト知ルベシ逼リ視ルニ及ビ丘山ニ對スル如ク人ヲシテ駭極ラシム其ノ高廣ヲ問ヘバ謂フ高サ二百仞横三百步、周圍里許リト拓植氏本朝奇跡談ニハ以爲ラク高七十七間廣二百六十間余ト小原氏桃洞遺筆ニ以テ高百十間、廣二百四十間トナス二書異同有ル此ノ如シ奇跡談ハ高ノ下恐ラクハ百ノ字ヲ脱セシナラン今姑ク土人ノ説ニ從フ一嵩ノ高且ツ大ナル此ノ如キハ未ダ嘗テ見聞セザル所ナリ享保中植村佐平次台命ヲ奉シ藥ヲ諸州ニ探ル此ノ嵩ヲ見テ海内第一大石トス想ツテ應ニ然ルベシ嵩舊ク名無シ但一枚石ト稱スル耳、余爲ニソノ名ヲ撰ミテ齊雲巖ト曰フ、巖ハ紫赤色ナリ、又其ノ一名ヲ撰ミテ賽赤壁ト曰フ、但蘇賦ニ斷岸千尺ト言フ則チ赤

壁ハ一全石ニ非ザルヲ知ル應ニ此嵩ノ奇ニ讓ルナルベシ

一保存要件 目下別ニ破壊ノ恐レナキモ絶頂又ハ周圍ノ樹木伐採ノ恐レアリ早ク指定シテ保存ノ道ヲ講スベキモノナリト考フ

附 錄

史蹟名勝天然記念物各郡市調査一覽

史蹟名勝天然記念物各郡市調査一覽

左記ハ本縣下ニ於ケル保存スベキ史蹟名勝天然記念物トシテ各郡市ノ提出ニ係ル調査報告書中ヨリ
 摘載シタルモノナリ但シ該報告書中別項調査委員ノ報告ト重複セルモノ又ハ社寺等ニシテ廣ク一般
 ニ熟知セラル、モノハ煩ヲ厭フテ之ヲ省キ尙ホ和歌山市並ニ海草伊都兩郡ノ分ハ右郡市ヨリ未ダソ
 ノ報告ナキヲ以テ他日ノ機會ニ讓ルコト、セリ

那 賀 郡

區分	名 稱	所 在 地	所 有 者
史蹟	茶白山砦趾	龍門村大字 荒見字龍門	龍門村大字 荒見

由 來 傳 説

龍門山及飯盛山ニ通スル徑ノ東一丁許ノ處
 ニアリ周圍ニ堀切ノ跡アルモ隣地ノ開墾ニ
 ヨリ多少異動セルモノ、如シモ孝元天皇
 ノ妃遠津日年魚妙媛ノ御陵ナラント云フ
 モ信スヘキモノヲ見ズ武年間北條憲法之
 ニ據リ近クハ高野山徒ノ織田氏ノ軍ヲ防
 シ所ニシテ織田軍ノ勇將田村隱岐守貞行
 命ヲ殞シタルハ此地ナリト云フ

史蹟	馬場田	龍門村大字 荒見	龍門村 上林政之助
全	小澤城趾	龍門村大字 荒見字龍門	龍門村長田 村共有
全	塵無ノ澤	全	全
全	山本河内ノ 舊宅	龍門村大字 杉原	龍門村 森本知之助
全	城山	同上字尾首	同村 宇田重五郎
全	殿垣内	全	全村 柑本信太郎
全	九郎殿簀	全	全村 山本泰治
全	龍門城	龍門村大字 龍門山字勝 神	龍門村長田 村共有
全	古宮趾	龍門村大字 杉原字中尾	龍門村 岡徳吉

全	佛平	龍門村大字 下番	龍門村大字 下番
全	古城趾	全村大字中 番	龍門村大字 上番中番
全	大將地	全	全村大字中 番
全	勝負ヶ田和	同村大字下 番	飯盛山麓ノ西北ニアリ此處ニ一ツノ塚アリ テ武器ヲ埋メアリト云ヒ傳フ
全	軍見所	全村大字中 番	襲ノ田和ヨリ下ルコト八町ノ處ニアリ大手 山ハ追手山ノ誤字ナラント云フ
全	大手山	全	高サ十間幹周一尺(?)樹齡六百年
全	衣懸松	全	高野往來ノ傍ニアリ世上弘法大師ノ作ナリ ト云フ
全	田和地藏	全村大字上 番	天正十年織田信長高野ヲ攻メントシ其ノ子 信孝ヲ將トシテ紀ノ川ヲ押シ渡ラントスル ヤ郷士林庄右衛門ノ庄司太右衛門野山ノ命 ニヨリ士兵ヲ率井テ之ヲ防キ陣ヲ此處ニ構 ヘテ旗ヲ立テシヨリ此ノ名今ニ殘レリ
全	幡立石	全	全村大字上 番

史蹟 腰懸石 全村大字上 番

全 古城趾 全村大字中 番 鞆淵村 城浴竹次郎 外二名

全 大御堂 全 玉泉寺

天然記念物 櫻明神 全上 神社前庭 同村 八幡神社

全 檜 全上 社殿ノ後方 全

全 不淨杉 全上 神社庭前 全

全 應神杉 全上 神社境内 全

全 子安杉 全上 神社庭前 全

石ノ大サ二尺五寸ニ五尺位ニシテ弘法大師ノ腰ヲ掛ケタル處ナリトイフ

楠氏ノ古城趾ナリト云ヒ傳フ山麓ニ城浴ナル地名アリ

高麗通師ノ開基ニ係ル堂宇ニシテ本村最古ノ建築物ナリ軒高一丈五尺棟高四尺五寸内

部ハ内壁ニシテ外部ハ素木ノ草葺ナリ本尊不動ノ像ハ行基菩薩ノ作ナリト云フ

櫻高サ二十間余、幹ノ周二丈五尺、樹齡一千年余、七五三繩ヲ張リ櫻明神ト崇メ里人疾病ノ時之ニ祈願ヲナス

高二十三間幹ノ周一丈五尺、樹齡一千余年ヲ經ルト稱ス

杉ノ高サ三十間、幹ノ周一丈七尺、樹齡一千余年ヲ經ルト稱ス、世人此ノ木ニ鳥止リテ鳴ケバ死スト稱シ依ツテ此ノ名アリ

高サ三十間、幹ノ周一丈六尺余、樹齡一千余年

全 傘松 鞆淵村大字 上番 鞆淵村大字 上番

史蹟 植槻ノ森 田中村大字 黒土 不詳

全 田中井戸 同村大字窪 不詳

全 良彈阿闍梨 誕生地 全村大字竹 房 不詳

全 鞍掛ノ松 全村大字打 田 不詳

全 出水 全村大字花 野 田中村 清瀧歡一郎

全 花ノ井 同村大字下 井阪 和歌山縣

全 袈裟坂 全 全

全 鎌垣行宮趾 甲、粉河町 大字粉河 字東前田 甲、官有地

高サ二十間、幹ノ周一丈三尺、樹齡七百七十年泰タトシテ技葉ヲ中空ニ張リ鬱然トシテ巨人ノ踞蹲セルガ如ク又一偉觀タリ

大字窪東北五丁許リ西ニ福井トイフ所アリ此レ古ノ田中井戸ナリト云フ通稱七ツ井戸ト呼ヒ今尙散在ス

鎌垣行宮趾ニ關スル傳説ニニアリテ一致セズ依テ傳説地ニケ所ヲ擧ク、由緒ハ續日本記並ニ紀伊風土記ニ詳ナリ

乙、同上字
前田
乙、紛河町
字粉河

史蹟
御所ノ芝
粉河町大字
粉河御所ノ芝
不
明

全
舞田字ノ内
全
不
詳

全
猿岡山城趾
粉河町大字
粉河字彌谷
粉
河
寺

全
御殿趾
全上字矢倉
粉河町之助
西風相之助

全
鳥居ノ坂
全上字鳥居
官有地

甲ハ畦畔ノ余地ノ如ク僅ニ數歩ノ芝地ニテ
考證シ難シ乙ハ中央ニ丘陵アリ行宮趾ト推
察スルニ難カラズト雖地勢等ハ當時ノ道路
ト如何ナル關係アリヤ推考ヲ要ス

花山法皇、白河法皇熊野御幸ノ砌粉河寺御
參詣アリシ御時ノ御宮ノ趾ナル由、今田畑
トナリテ飯宮ノ御趾更ニナク唯字名トシテ
殘ルノミ

平氏ノ寵姫祇女ハ粉河村ノ産ノ由ニテ此ノ
三ヶ所ハ祇女祇王ガ父ノ罪科ヲ免セラレン
事ヲ乞ヒ舞曲ヲ演セシ史蹟ナリ此ノ事ハ諸
曲籠祇王ニ作曲セラレテ名高シ

慶長ノ頃藤堂大學頭ノ居城アリシ處ニシテ
現今何等徵証スヘキ礎石等存セザレトモ平
坦ナル地域頂上ノ各壇等ヨリ想像シテ城趾
タルコトヲ認メ得ベシ

南龍公遊獵ノ時ノ飯御殿アリシ趾ニシテ今
ハ民有地トナレルモ井戸、石垣及部屋趾等
歴然タリ

粉河町ノ南入口ニアリ粉河寺丹生大明神ノ
遊覽所ニシテ昔ハ此處ニ大鳥居アリ依テ鳥
居坂ノ名アリ

全
森田節齋ノ
墓
龍門村大字
荒見
龍門村
北
淳太郎

全
森田無絃女
史墓
全
全
無絃女史ハ節齋ノ夫人ナリ明治二十九年歿
シ遺骨ヲ夫ノ墓側ニ埋メ碑ヲ其ノ上ニ立ツ

全
森田司馬大
郎墓
全
全
司馬太郎ハ節齋ノ子、明治三十二年歿シ遺
骨ヲ父母ノ墓側ニ葬リ碑ヲソノ上ニ立ツ

全
土居ノ森
鞆淵村字南
澤
和歌山縣

全
三ツ塚
田中村大字
下井坂
和歌山縣

全
光仁天皇御
陵(傳説)
粉河町大字
粉河字別所
管理者
粉河町長

全
大伴氏ノ墓
全上字中山
管理者
粉河町大字
中山

全
櫻溜池
長田村大字
北志野
管理者
長田村長

俗稱觀音山ノ頂上ナリ古來光仁天皇ノ御陵
地トシテ崇敬セラレ正月ニハ附近ノ住民注
連繩ヲ張リ丘上ニ登ルモノナシト云フ

桑園周圍ヲ巡リ一路ハ墓地ニ通ス青苔ヲ以
テ覆ハレタル小石塔婆十基一ヶ所ニ集メラ
レ雜草之ヲ埋ム

南龍公ノ築造ニ係リ慶安三年工ヲ起シ翌年
竣成ス周圍四千二百間面積約十三町歩

史蹟 玉塚

岩出町大字
宮熱田神社
境内

大治六年覺上人信貴山ニ於テ毘沙門天ヨ
リ感得ノ寶珠ヲ藏ム依リテ玉塚ト云フ上人
感得ノ玉三個アリ一ハ根來山八角堂不動尊
ノ鳥瑟ニ藏メ一ハ鳥羽上皇ノ御所望ニヨ
リノ獻スト云フ然ラハ此ノ地ニアルハ其ノ三
個ノ内ノ一ツナラベシト傳フ
玉塚ハ頂上六坪許ノ饅頭形ノ小丘ニシテ往
昔繞ラスニ土塀ヲ以テシタルモ今ハ僅ニ其
ノ痕跡ヲ存スルノミ

全 御殿山舊趾

岩出町大字
清水字川端

往時藩公封初此地ニ別館ヲ築キ給フ其ノ
後清溪公ノ時又増築ス有徳大君公子ニテ在
ハセシ時コハ住マセ給ヘリト云フ後寶曆
十四年撤毀セラレテ今ハ其ノ跡ヲ存セズ御
殿山ノ稱ハ此ヨリ起リシナラン

全 重盛塚

根來村大字
今中毘沙門
寺ノ前

根來村

小松内府重盛ノ墓ト云ヒ傳フ治承三年内府
熊野參籠ノ歸路此ノ地ニテ病ヲ得テ薨セラ
レシ故ニ葬ルナリト云フ

全 竟看公墓

根來村大字
押川ノ西北
山林中

翁ハ勢州度會郡柄庄東宮ノ人ニシテ姓ハ千
葉ナリ東宮村ニ住セシ故東宮氏ト云フ翁此
ノ地ノ勝景ヲ愛シ致仕ノ後小庵ヲ此ニ築キ
カテ老ヲ養ヒ且遺言シテ死後此地ニ墳墓ヲ築
カシム

全 鴛淵

根來村大字
押川

根來村大字
押川

大字押川ニアリ山王權現ノ側ヨリ登ルコト
三丁許リ五ノ石佛アリ建徳二年ノ文字ヲ刻
ス東十歩不動堂アリ堂ノ後ニ龜石アリテ其
ノ上ニ瀑布懸リ水勢甚タ烈シク注イデ鴛淵
トナル

全 老松樹

根來村大字
阪本
大傳法院内

第四種官有地

多寶塔前ニアリ年數約八百年ヲ經タルモノ
寺傳ニ開祖興教大師御手植ノ松ト稱スルモ
此ナリ

名勝 烏帽子岩

東貴志村大
布字井口字帆

内務省

古來名勝地トシテ大國主神社ノ神話ト相關
聯シ頗ル由緒ニ富ム往時ハ同神社ノ神域ナ
リシカ明治ノ初年ニ上地セラレテ現時ハ官
有地トナレリ

全 國主淵

中貴志村大
田字國元字早

内務省

古來人口ニ膾炙スル神秘的ノ傳説アリテ其
ノ幽邃ナル風光實ニ賞スベキモノアリ

全 春日山

池田村大字
中三谷

老松亭々トシテ雲ヲ凌キ雪景殊ニ愛スヘシ
近時櫻樹多ク栽植セラレ春陽ノ候杖ヲ曳ク
モノ多シ山上ニ春日城趾、山麓ニ春日神社
アリ

史蹟 古和田城趾

池田村大字 古和田

有田郡

史蹟 寶篋院塔

石垣村大字 歡喜寺字後立

全村大字 歡喜寺

全 卜庵溝

石垣村大字 修理川

全村々有ナ 其私モ有ニ 屬スルモノモアリ

名勝 純白瀑

石垣村大字 宇井若白馬山中

石垣村有

全 鮎瀧

石垣村大字 修理川

官有

全 愛宕山

御靈村大字 垣倉

醫王院

按スルニ楠正成ノ外戚和泉國大和郡岸ノ城ヲ築ク高遠ノ曾孫正武ニ至リテ泉南郡岸ノ正武ニ至ルニ於テ此ノ城ヲ築キ高遠ノ後岸ヨリ正武及ヒテ彼ノ地ヲ今ナリト稱シテ此ノ地ヲ和泉ノ城ト云フ

一株ノ極メテ老イタル楊梅樹アリ其根ニ近クニ基ノ石塔アリ高サ三尺石約二尺平方俗ニ此地ヲ呼ンデ「ほけん様」ト云フ蓋シ寶篋院塔ノ意カ八所遺記ノ明慧上人傳ニ依ルニ上人ノ親舅湯淺兵衛尉宗光此地ヲ上人ニ寄附シ草庵ヲ構ヘテ上ヲ招待ス上人弟子三四人ト共ニ讀經座禪講學著述等ヲナシタル所ナリト云フ

石垣村中有田川左岸ノ山腰ヲ曲折シテ走ル一尺乃至四尺位深サハ埋没シテ一定セズ雜木雜草山笹ナド隨所ニ繁茂シ又所々崩壞セ遺跡ヲ明ニ認メ得ベシ今去ルコト約二百年前下野ノ人ニテ破庵トイフ兄弟アリト大庵瀧用水ヲ有テ引レテ石垣村大庵瀧ノ水ヲ引テ御靈村東部ノ横タハレリ當時尙未開墾ノ状態ニヨリ原野ヲ田ナサシムル爲メ倉庫ヲ設ケテ立テ藪ノ力ヲ得テ渠ヲ大作シテシモ何カノ事ヲ爲ス事ノ失敗ニ終リシモ石垣村ノ今ノ花之氏ハ其ノ工書ノ一部ヲ存ス

名勝 冷鏡泉

御靈村大字 吉見字西谷

全所 湯原勘太郎

史蹟 善光寺趾

御靈村大字 徳田

全 建王子ノ陵

藤並村大字 藤並神社 女藤並神社 境内

藤並神社 堀司 久磨

全 徳本上人ノ碑

宮原村大字 須谷字城山

安政年中ノ發見ニカ、リ岩石ノ間ヨリ涌出ス槽ヲ設ケテ之ヲ貯フ山間ニ僻在セル爲メ浴場等ノ設備ナク村民各自ニ汲ミテ浴ス其ノ効能ノ顯著ナルハ風ニ世ノ知ル所ナリ關節リウマチス、皮膚濕疹、骨瘍、膀胱加答兒、肺結核ノ初期、腹膜炎、胃瘰、痲痛等ノ諸病ニ特效アリ

傳ヘ聞ク昔此地ニ善光寺ト稱シ七堂伽藍ヲ有スル巨刹アリシガ何時シカ廢滅ニ皈シ今ハ唯小字名トシテ其名ヲ存スルノミ、飯時ノ徳傳寺ニ安置スル阿彌陀如来ハ即チ善光寺ノ本尊ニシテ境内ナル沙門堂ニ祀ル毘沙門天王ナリシト云フ佛像ハコレ又善光寺ノ四天王ナリシト云フ

境内ノ東南高キ所ニ方九尺許ノ大石ヲ以テ上部ヲ覆ヒ南面ニ長九尺巾三尺ヲ以テ下部ヲ階段ニ造リ其下方ニ長七尺巾四尺ノ石ヲ堅ニ埋メ尙北面ニ一個ノ大石ヲ埋メアリ

碑ノ高サ三尺方一尺正面ニ南無阿彌陀佛ヲ又右側面ニ左ノ文ヲ彫刻セリ 於徳本上人此須谷山寛政六年寅年自享和元酉年至迄修行有之内一千日余制身不倚臥稱名練行中從善導大師圓光大師再三傳法之舊蹟者即是巖壁也

全 爪かき地蔵

宮原村大字 畑字家本

ナシ

全 岩室城趾

宮原村大字 須谷字城山

ナシ

全 吉備名方濱宮

田殿村大字 長田

田殿村 丹生神社

全 夏瀬ノ丹生

田殿村大字 出字鳥居戸

田殿村 丹生神社

藤坂往還ノ上部ニアリ方二間ノ堂ノミ(往昔ハ堂守アリト傳ルモ現在ハナシ)木尊ハ幅二間高九尺厚七尺ノ天然石ニシテ阿彌陀地蔵ノ像ヲ彫レリ口碑ニヨレバ弘法大師熊野參詣ノ時此所ニ彫レリト不動ノ法ヲ修シ爪かき地藏ト云フ 村ノ巽ノ方山頂ニ在リテ麓ヨリ城跡ヲ登リ七町許リ當時ノ井戸ナリト傳フルモノニケト山ノ外遺物ナシ、寛永雜記ニ曰ク島山ト山ノ三男小太郎政氏始メテ此城ヲ築キ政氏嫡男政國政能三代是ニ居ル又此山巖湯淺氏ノ築キシ岩むらト云フ城アリ此山巖むらカリテ實ニ岩むらト云フヘキ形勢ナレバむらハむらノ訛ナルヘシ 城内ニ石ノ寶殿アリ高サ四尺方一尺五寸ノ石碑ニシテ正面ニ吉備名方濱宮ト銘スナリ 從來此處ハ無格社主神トシテ保存ス 有田川ノ北岸ニ位シ白山及其ノ山麓ノ地ナリ樹木鬱蒼トシテ自然ノ神地ヲナシ村比生リ神社ヲ鎮座ス、謹シテ按スルニ丹生社實ニ夏野ノ鎮マシテ其御所ニ降リ給ヒテ現在比天野ノ森ハ即チ其御所ニ降リ給ヒテ現在比頭亦廣カリシト云フ

名勝

姥ヶ瀧

田殿村大字

丹生神社

史蹟

明惠上人影
向遺跡ノ碑

保田村大字
星尾字辨財

保田村
神光寺

日高郡

名勝

井比松原

南部町大字
北道

第三種官有
地

田角ノ北谷田殿越ノ山中ニアリ高サ十丈許
リ奇岩崔嵬トシテ其ノ間ニ懸リ楓樹數株ア
リテ頗ル幽趣ニ富ミ傍ニ天社アリ楓樹數株
神ノ相殿ニ老嫗ノ像ヲ祀リ此瀧ヨリ昔
ル奥田ノ時老嫗ノ所ノ嘆願ニヨリ此瀧ヨリ
深ク是ト稱スル所ノ檢地ニ免レシカバ奥ナ
瀧ト名ツケタリト其靈ヲ祀リ因ツテ瀧ヨリ
傳ヘ曰ク明惠上人此處ニ春日大明神ノ託
宣ヲ蒙リ神光寺ヲ創建シテ其ノ境内ニ社ヲ
建テ高弟喜海鳥居ノ傍ニ木ノ卒塔婆ヲ建
人ノ高弟喜海鳥居ノ傍ニ木ノ卒塔婆ヲ建
比之ヲ表シモ後朽腐セシニヨリ康永年中
更ニ石造ノ沙彌淨宗比丘尼如空等願主トナ
所遺跡ノ一ナリヲ建テタリ所謂明惠上人
宣ヲ蒙リ神光寺ヲ創建シテ其ノ境内ニ社ヲ
建テ高弟喜海鳥居ノ傍ニ木ノ卒塔婆ヲ建
人ノ高弟喜海鳥居ノ傍ニ木ノ卒塔婆ヲ建
比之ヲ表シモ後朽腐セシニヨリ康永年中
更ニ石造ノ沙彌淨宗比丘尼如空等願主トナ
所遺跡ノ一ナリヲ建テタリ所謂明惠上人

南部町頭白砂青松相連ルコト拾餘町之ヲ井
比松原ト云フ目津崎右ニアリ森ノ鼻左ニア
今保安林トナル

全

鹿島

南部町大字
八田一七五

南部町
鹿島神社

全

埴田梅園

南部町大字
埴田

南部町鹿島神社前ノ海濱ヲ南西ニ距ルコト
十里ニアリ虎ヶ峯山脈ノ盡端埴田崎トハ指呼
承應ノ辛酉冬十月乃浦上天皇幸伊國
一應シ向致スルノミナラス萬葉集ニ
大寶元年辛酉冬十月乃浦上天皇幸伊國
時人乎見變來六三乃浦上天皇幸伊國
爲潮人乎見變來六三乃浦上天皇幸伊國
干者ノ間最深ニ越シタルナラシム
兩相ノ間最深ニ越シタルナラシム
テ相ノ間最深ニ越シタルナラシム
町奇岩ニヨリテ南北ニ分ル共ニ樹
々古武藝命ヲ祀ル小祠アリ此ノ
埴田ニ遷シテ其ノ遺跡ヲ御所トス
堂アリ宿泊所アリ更ニ部ノ分祠
佐次郎翁ノ所ニ此ノ勝シト云フ
任シ以テ今日アラシム

名勝

千里濱

南部町大字
山内

南部川口ヲ西ニ距ルコト十餘町紀州灘ニ臨
ミテ眺望絶佳古ノ熊野往還ニ當リ御所原
ノ千里王子ノ舊跡アリ厄除觀音トシテ千里
觀音堂アリ名物珊瑚砂ヲ産シ古來紀南ノ歌
枕トシテ數ヘラル

全

辨財天島

白崎村大字
吹井字三宅

衣奈村
八幡神社

海岸ヲ離ルルコト數間ノ所ニ在リテ周圍七
十間ナル小島ナリ干潮ノ際ハ徒歩ニテ此島
ニ渡ルコトヲ得全部岩石ヨリ成リ松及姥芽
等点在シテ風景ノ佳ナルコト恰モ盆及飯
山似ニタレハ行人足ヲ留メテ賞讃セサルモ
ノナシ元此所ニ辨財天ヲ留メテ賞讃セサルモ
祀セラレガ明治四十一年衣奈八幡神社ニ合

全

鍋山

白崎村大字
神谷山林

白崎村
淨慧

白崎村第一ノ峻峰ニシテ高サ八百八十六尺
其ノ形狀恰モ鍋ヲ倒置セルニ似タルヲ以テ
此ノ名アリ山頂ニ平地アル此處ニ觀音堂ヲ
建テ白雲山海寶寺ト稱ス西國十三番江州岩
間寺ノ根本ト云ヘリ

全

觀音瀧

眞妻村大字
川又

眞妻村
觀音堂

直下約五丈ノ瀧ニシテ周圍ニ老杉古木樹立
レハ四時詣客多シ

史蹟

吹井城趾

白崎村大字
吹井

白崎村
平林造酒藏
外三名

大字吹井ノ中央部ニ巍立セル山頂ニアリ此
所ハ龜山城主湯川直春氏ノ控城ヲ攻メ落シ
正十年豐臣氏ノ兵來リテ龜山城ヲ攻メ落シ
燒キタリト云フ

全

雨乞ヒノ瀧

眞妻村大字
西神之川
西又口

眞妻村
中野文之丞

年代詳カナラサルモ或ル年大旱魃續キ農作
將ニ枯死セシトシ飲料水サヘ缺乏ヲ告ケケ
レバ郷民此ノ瀧ニ集ヒ雨乞ヒ赤白二尾
ノ鱈ヲ放チテ祈願スルコト十七日ニ及ビシ
ニ不思議ニモ大雨沛然トシテ降來リ人々生
氣ニ飯ヲ喜ブコト限リナシ爾來旱魃ノ度ニ
郷民此ノ瀧ニ集リテ御酒ヲ獻シ舞ヒ踊ルコ
トヲ例トセリ

全

清水井

御坊町大字
蘭字東新蘭

御坊町
小竹八幡神社

後藤岩吉邸内ニアリ直徑一尺内外ノ丸石數
個ヲ楕圓形ニ置キ並ベテ水井ノ側トナセ
ルモ井戸ハ土砂ニ埋リテ水ヲ湛ヘズナセ
往古ヨリ小竹八幡神社ニ奉ル神饌ノ調理ニ
用ヒタル井戸ト稱ス明治廿七年三月後藤岩
吉家屋ヲ此ノ地積ニ建ツル迄ハ田ノ中ニ井戸
ノミ存セリ此地積ニ建ツル迄ハ田ノ中ニ井戸
明メテ古來今ニ毎年元且ニハ小竹八幡神社
ヨリ注連繩ヲ張ル慣例ナリ

蹟 元 宮 御坊町大字 蘭字宮前 全 前

全 千里王子社 南部町大字 千里王子社

全 法華寺岡 南部町大字 山崎喜兵衛

全 狼煙所 南部町大字 山崎喜兵衛

全 御所ノ原 南部町大字 大江邦樹

全 古 碑 南部町大字 芝安養寺境内

全 南部王子社 南部町大字 宮本太治郎

郷社小竹八幡神社延寶六年現在ノ地ニ遷宮スル迄古來此地ニ鎮座シタリ、書記神功皇

高ト傳フ、更遷ニ小竹宮トアリ小竹宮ノ舊蹟ト傳フ、東西五間六分南北十三間六分其ノ北半ハ隣

南部町山内千里濱ニアリ紀伊名所圖會ニ曰ク「千里王子祠千里濱ニアリ萬治年中獅子殿御建立アリテ社殿備ハレリ」

御幸記云「自是又先陣過千里濱」此處一參ニ千里王子コ、明治四十一年上南部村須賀神社ニ合祀セル

傳ニ此ノ岡ヲ中心トシテ方八町ニ亘ル寺域ニ七堂伽藍アリ惠心院源信僧都之ヲ開キテ自作ノ像ヲ留ムト今芝安養寺ニ傳ハレル本尊並ニ惠心自作像ト稱スルモノ元當寺ニア

法華寺廢滅ノコトハ平治年中ノ火難ニ因ルト云フモ今ニ於テ殆ト考據トスルニ足ルモノナシ

高井田山頂(海拔二二三米)ニアリ近年三角點標石沈設ノ爲一部崩潰セリ

南部町山内(小名目津)千里濱ヲ突出テタル山角ニ在リ崎頂稍平坦ニシテ小松ノ生ヒ茂リ眺望ニ富ム建仁元年ノ御幸記ニ「御小養御町コト見エタルハ此處ナラン」

元法華寺境内ニアリシガ安養寺ニ傳ハリ同寺廢滅後里川ノ橋板ニ代用セラレ今ノ安養寺再興後同寺ノ境内ニ移セルナリ、臺石散逸ニ碑面ニ爲先考往生極樂御造立之比丘尼持運文永十年十月ノ文字ヲ讀ミ得ルニ過ギズ

史蹟 立石 南部町大字 濱田市藏

惠心僧都開基ト稱スル法華寺ノ南ヲ限ル境
界石ナリシト傳フ附近(大字北道ノ一部)ヲ
立石ト俗稱ス立石ト呼ブ姓モ之ヨリ出テシ
歟、其ノ形質古墳天井石ニ似タリ地上高サ
三尺七寸巾モ畧之ニ同シ

全 熊代繁里之墓 南部町大字 南部町新福寺壇中

熊代繁里ハ南部町ノ人、幕末田邊藩學ノ國
學教師トナリ明治ノ初年本宮ノ權宮トナ
ル明治九年五月十九ヲ以テ本宮ニ逝ク、新
福寺後山松籟靜ナル處櫻蔭大人之奥津城ト
題セル碑アリ碑陰ニ本居豐顯ノ撰文ヲ刻ス

全 山内繁樹之墓 南部町大字 法傳寺

法傳寺墓地ノ一隅ニアリ繁樹ハ即チ常盤園
ト號シ熊代繁里等ノ師タリシ人實ニ南部郷
ニ於ケル國學歌道振興ノ先驅タリ碑文ハ繁
里ノ撰スル所

全 臺場 南部町大字 第三種官有地

徳川ノ季世外艦來航ノ聲高キトキ田邊藩ニ
柏木兵衛ナル砲術家アリ佐久間象山ノ門ニ
入り盛ニ新式砲術ヲ研究シ歸來田邊藩下ニ
臺場ヲ築キ砲ヲ設備ス是ハ其ノ遺蹟ノ一也

天然記念物 化石 由良村大字 由良村外二名

此地一帯ニ石灰石ノ産地ナリ化石ハ主トシ
テ「ウニ」ニシテカツテ東京帝國大學教授
學博士脇水鐵五郎ノ來テ實地ニ付調査セシ
結果本邦ニテ珍ラシキ化石トセラレ目下村
役場ヨリ該地發掘ノ仮停止ヲナスニ至レリ

全 一本松 白崎村大字 白崎村共有

大字大引西北ニ聳ユル六一七呎ノ山頂ニ在
リ幹周十六尺高約十二三間樹齡約五百年ヲ
經タル老松ナリ

全 相生杉 切目川村大字 切目川村外二名

二本ノ大杉樹カ抱キ合ヒテ卓立セルカ故ニ
相生杉或ハ女夫杉ノ別稱アリ本村中第一ノ
巨木ニシテ根部合セテ其ノ周三十五尺梢ノ
高サ甲ハ約百二十尺乙ハ約九十尺ニ及ヘリ

史蹟 上人松 切目川村大字 内務省

天正年間堂宇炎上ノ災厄ニ罹リ句真上人
ヲ再建シ後世ニ記念センカタメニ一字一石
ノ法華經ヲ寫シテ經塚ヲ造リ其傍ニ植ヘシ
モノ里人ソノ德ヲ慕ヒテ上人松ト呼ブ

全 燈明山之松 切目川村大字 切目川村岩吉

往時毎歲大晦日ノ夜燈明ヲ東峯ニハ天照大
神ニ西峯ニハ金比羅宮ニ献ゼシ故ニ燈明山
ト稱シ東西對立セルヲ以テ東ノ燈明西ノ燈
明ト呼稱ス

天然記念物 柏楨 西内原村大字 西内原村誓願寺

周圍一丈二尺五寸高サ三丈七尺
現狀老衰期ノ如シ
傳説由來詳ナラズ

全 大戻リ巖 南部町大字 南部町邦樹

世俗眼鏡岩ト稱ス目津崎ノ尖端ニアリ蓋シ
激浪ノ侵蝕ニヨリ第三紀砂岩ヲ穿テ爾奇勝
ナリ

天然記念物

こたにわたり

南部町大字
埴田鹿島

鹿島神社

多分自然生ナラン 觀賞的ニ植エタルモノハ
他ニ往々見受ク

史蹟

拾參塚

名田村大字
野島

名田村野島
坂本文造
外七名

往古阿波國撫養附近ニ拾參人ノ山伏アリ諸
國修驗ノ途次大字野島原ナリ然ルニ是ヨリ
先全所ハ荒寥タル原野ナリ金錢ヲ携シテ出
シタル海賊アリ即チ船ヲ乘ジテ遂ニ處ニ上
陸シテ一人共大ニ潜伏シテ乘シテ遂ニ處ニ上
葬リ各一個ヅ、ノ塚ノ横ヲ以テ永遠ニ其屍ヲ
ヲ弔フ各約一坪ノ地ニ土塊ヲ盛リ其ノ上ニ
三輪ノ塔ヲ建ツ

全

小竹祝塚

御坊町大字
蘭字大明續

御坊町
小竹八幡神社

神功皇后南紀伊國ニ詣リ太子ニ日高ニテ會
ヒマシ忍熊王ヲ攻メシテ更ニ小竹宮ニ
遷リマセリ是時西方ニ當リ晝暗キコト夜ノ
如ク一老夫アリテ曰ク傳ヘ聞クカカル羅事
ヲ云々今ハ九尺四方ノ處ニ松樹一本アリ
リ西方ニ小竹祝塚ト刻シタル石ヲ立ツ
僅ニ石槨ノ一部ヲ有ス約一坪ノ圓塚ナリシ
ト思ハル發掘ノ年代等不明ナルモ地方民一
般ニ埴田ノ石風呂ト呼ヘリ石槨ノ石今ハ南
部町ノ富豪大江家ノ庭石トナレリ

全

古墳

南部町大字
芝

南部町大字
芝

内塚ト認ム槨内約一坪立方位、盛土ヲ去リ
墳上ニ小祠ヲ建ツ内部ハ曾テ發掘サレタル
モノ、如ク又附近ニナホ一ニノ古墳アリシ
モノ、如シ

全

墳墓

南部町大字
山内

南部町
濱野久七
外四名

佛式創始後ノ墳墓ナラン、大正五年發掘シ
テ人骨及漢鏡一面ヲ得タリ鏡ハ東京帝室博
物館ニ採納セラレ

全

古墳ノ痕跡

南部町大字
山内

南部町
山内安五郎

圓墳ニシテ石槨ノ一部ヲ存ス

西牟婁郡

史蹟

泊城趾

下芳養村

下芳養村
竹中新藏
外五名

村ノ西ニアリ南方海ニ臨ミテ熊野街道ノ側
ニアリ東西三十間南北四十五間湯川氏居城
ノアリシ所天正年中湯川氏亡ビテ後大和
納言ヨリ杉若越後守ヲ城主トス

全

峰山砦趾

全

全
山崎利三郎
外數名

村ノ西方三丁許峯山トイフ處ニアリ東西三
十間余南北二十四間余湯川氏ノ築ク所ナリ
トイフ

史蹟

水取山ノ趾

下芳養村

全村共有

全

四愛岩
五原郎

全

同村中本信共外二名有
同村藤知直太郎數名
同村杉阪房吉

全

不動岩

全村字田川
岩井谷

全村共有

全

押分岩

全村大字田
川小字會別當

全村大字田

二四

村ノ東田川谷ニアリ山上ヨリ望メバ田邊町
及秋津村眼下ニアリ湯川氏ノ築ク處トイフ
山高クシテ水ニ乏シク麓ヨリ水ヲ運ビシヨ
リ水取ノ名アリ岩上ニ柱ヲ立テシ跡トイフ
穴數十アリ且古代ノ土器散在ス
四丁、愛宕山、蕨原、鬚五郎ノ各所ニハ上
古土人ノ使用セシ土器ヲ埋藏シ就中鬚五郎
ヨリハ十數年前石斧ヲ發掘シ該石斧ハ現
今杉阪家ニ藏セリ

岩腹洞ヲナシ口狭クシテ奥ヤ、廣ク前面岩
隙ヨリ日光洩入リテ洞中明ナリ往古洞内ニ
不動尊ヲ安置セシ故不動岩ト名ク蓋シ天正
ノ兵燹ヲ避クルタメ土民ノ此ニ隱セルモノ
ナラン洞ノ内壁ハ蜂ノ巢ノ如ク美麗ナル白
砂ハ銀ノ如シ不動尊ヲ祀リシ當時ノ遺物ナ
ル祭器ノ破片今ナホ現存ス

元年中僧天室厭離ナル者信州秋葉山ニ至
リ秋葉ノ神ヲ勸請シテ海路芳養浦ニ着シ谷
川ヲ溯リテ秋葉山ニ達セシモ鎮メ祭ルヘキ
社地未ダ成ラズ一夜傍ナル簾中ニ安シ置キ
シニノ夜一大音響ヲ聞ク翌朝至リ見ルニ
一大巨岩中央ヨリ兩斷シテ社前ニ通スル路
自ラ開ケテ人皆以テ神ノ押分ケ給フ所ト
ナシ依テ押分岩ト稱セリト高サ三間許長
サ六間余兩斷シテ其ノ間中廣キ處一間狹キ
處三尺社前ニ通スル道トス

全

但馬入道
ノ墓

南富田村大
字中字中村

湊村
吉田小太郎

墓ハ高サ約三尺一面六寸八面体ノ石ニシテ
前面ニ但馬入道友延之墓ト彫リ後方三面ニ
左ノ碑文(省畧)ヲ刻ス

名勝

奇絶峽

秋津川村山
林

上秋津村
下秋津村

鷹尾山、三星山ノ間ヲ流ル、會津川ノ兩岸
ニ山岳巍々トシテ聳ヘ大小ノ岩石轉々タル
間一條ノ溪流ハ岩ニ激シ岸ヲ嚙ム此ノ間一
里奇絶峽ト稱シ風景絶佳ナリ

天然記念物

あかみの大
松

西富田村大
字堅田八幡
神社境内

官有地

昔時日向國ヨリ苗ヲ取寄セタルモノ樹實凡
テ赤味ニシテ材質ハ白キコトナシト云フ周
圍一丈二尺高サ十間

全

金功松

全村大字才
野字廻リ田

全村大字才
野

昔時機外金功ナル偉人アリ其ノ死ニ臨ミ遺
言シテ自己ノ墓前ニ一本ノ松樹ヲ植ヘシメ
此ノ樹幾百年ヲ經ルモ近傍ニ一本モ實生セ
シメザルベキヲ約シ今ニ至ルモ生セズト云
フ松樹ハ周圍二丈五尺枝八方ニ延ビ一樹ニ
シテ二段十八歩ヲ蔽ヘリ

全

五色石

全村大字才
野長濱海岸

官有地

砂岩礫岩中ニ含まレタル石英玉髓那智黒等
ノ崩壞シテ波ニサラサレ美シク研カレタル
モノナラン

史蹟

城山

全村大字堅
田字山太郎

官有地

七百年前此ノ莊藤原朝臣堅田式部太夫善行
ノ居城ナリシガ山中主膳ニ攻メラレテ城ハ
破壊セラレ

二五

史蹟 千体佛 全村大字才 西富田村 永野傳左衛門

一ニ地藏山ト云ヒ圓錐形ノ小山ニシテ頂上
其他到ル處ニ砂岩ノ地蔵佛數百体ヲ納ム里
人ノ言傳ニ古來貴族ノ墳墓ニシテ今ヨリ一
千余年前ノモノナリト

全 圓 塚 全村大字才 熊野神社

熊野神社ノ裏手ニアリ中央ノ塚ハ面積約二
畝位高サ一丈五六尺ノ小山狀ヲナシソノ南
西ニ亘リテ五六個ノ面積約三坪ノ小塚アリ
ソノ中ニ巾二尺長サ六尺位ノ板石ニテ造レ
ル石槨ノ如キモノ露出セリ

全 若狭三助墓 全村大字堅 尾崎 多藏

年代不明ナレド傳説ニヨレハ上野山若狭守
沒落後堅田ノ莊ニ來リ現今大池トナレル地
所三町余ヲ所持セシガソノ後溜池築造ノ際
藩主ヨリ該地沒收セラレタルヲ以テ全人ノ
靈ヲ此ニ祀レリトイフ雜木繁茂ノ中ニ五輪
ノ塔五個存セリ

天然記念物 鳥岩 東富田村大 官有地

富田川ノ河中ニアリ、高サ三間、鳥ノ啄マ
ベリトスルガ如キ形狀ヲナセル岩石水中ニ浮

全 丸山 全村大字富 全

海中ニアリ滿潮ノ時ハ一對ノ小島灣内ニ對
上立シテ浮ベルカ如ク干潮ノ時ハ濱ヲ傳フテ

全 曲阪ノ二本 全村大字朝 東富田村大 字朝來歸

阿波ノ順禮ガ病死ノ際此ノ峠ニ葬リ吳ル、
ヤウ而シテ故郷ヨリ見ユルヤウ松ヲ植ヘラ
レタシトノ遺言ニ基キ植ヘタルモノト云ヒ
二本ナレト共ニ大ナル三枝ニ分レテ遠望
スレバ六本ノ如ク見ユル故一ニ六本松トモ
イフ約六七百年ヲ經タル老樹ナリ

史蹟 のろし松 全村大字朝 全

幕末外艦來航ノ際合圖ノ狼火ヲ揚ゲシ處ニ
シテ此ノ松ハ當時ヲ忍ブ唯一ノ記念物ナリ

全 七人塚 三川村大字 三栖村 小山政治郎

護良親王大塔山ニ落チサセ給フ時見張ノ衛
兵或ル日不意ニ大敵現ハレテ之ヲ親王ニ注
進スル余裕ナカリシヲ深ク遺憾トシ自殺シ
テソノ罪ヲ謝シタリトイヒ傳フ

全 箱屋ノ地藏 同村大字五 田邊町 幸八 外一名

古來齒痛ノ地藏トシテ名高ク今尙遠近ヨリ
來ルモノ跡ヲ絶タズ

天然記念物 桂老木 全村大字五 全村 平井藤次郎

往昔此地ニ住居セシ鍛冶川彌三郎コノ木ヲ
神トシテ崇敬セリト云ヒ傳フ樹枝四方ニ擴
リ廻リテ二丈余ノ千余年ヲ經タル老木ナリ

將軍山 川添村大字 串本町 矢倉甚兵衛

往昔日下源德ナル者落チ來リテ此ニ潛居セ
リト云ヒ山腹ニ御屋敷跡、鍛冶、薙刀畑等ノ
名殘レリ此ノ山ヨリ發スル溪流ハ下リテ將
軍川トナル

天然記念物

柏 横

田並村大字
田並字西ノ

全村
圓光寺住職

圓光寺鐘樓ノ側ニアリ高サ二丈五尺廻リ一丈三尺樹齡不明ナルモ恐ラク五百年以上ナラント云フ

名勝

才助ノ瀧

全村大字田
並上山

全村
瀧 爲吉

田並川支流ヲ溯ルコト二十余町ノ處ニアリ

史蹟

溝 渠 碑

市瀬村字中
ノ岡

管理者全村
三栖 富藏

三栖五郎太夫、三栖助左衛門等村民ト相議シテ清水谷ヨリ五十余町ノ溝渠ヲ造リ之ニヨリテ美田數十町歩ヲ得タリシカバ其ノ功ヲ傳ヘンタメ興禪寺ノ上ニ碑ヲ立ツ

全

龍松山城趾

全村字池谷

岩田村
福田定一郎

山本主膳頭康忠ノ居城タリシガ天正十五年豊臣氏南征ノ時杉若越守ノタメニ攻陥サル本丸ノ遺趾東西四十四間南北二十八間濠周圍二町四十間巾五間

天然記念物

はまゆふ

串本町西海岸

—

砂濱ニ自生セリ近時採取シテ庭園ニ栽培スルタメ漸クソノ跡ヲ絶タントス保護ノ必要アリ

全

あこ う

串本町潮岬
本ノ宮

全町潮岬本
ノ宮

高サ二十三尺梢上約八坪ニ繁茂ス

史蹟

西ノ岡

串本町

串本町
前芝伊平次

數十年前此地ヲ開墾セシ時徑三寸乃至五寸ノ扁平ナル石數千個ト勾玉管玉ヲ發掘シ近クハ明治三十年ニモ勾玉一個ヲ發掘シタリ

全

笠島ノ落武者ノ墓

全

管理者
全町 東峠與兵衛

二ヶ所アリ共ニ由來不明ナルモ昔ノ落武者ノ墓ニシテ西ナルハ主人ト家臣、東ナルハ主人家臣並ニ馬ノ墓ナリトイフ今ノ管理者ハ昔ヨリノ墓守ナリ墓ハ共ニ五輪塔ニシテ西ナルハ東面シ東ナルハ西面ス

全

植松彌助ノ墓

全町字串本
谷

全町
植松 岩市

石田三成ノ一族石田五治兵衛十四世ノ孫植松彌助(文化四年串本浦ニ生ル)平素公益ヲ圖リシ人ニシテ今尙同家ヲ地蔵彌助ト稱ス

全

臺 場 趾

田邊町上屋
敷

大阪市
栗山善兵衛

嘉永ノ頃田邊藩士ニ柏木兵衛トイフ者アリ此ニ砲臺ヲ築キ時々實彈ヲ射撃シテ太平ニ狙レタル當時士民ノ惰眠ヲ醒マセリトイフ

全

洪増鬪雞地

湊村鬪雞神
社境内

官 有 地

熊野別當洪増白キ雞ト赤キ雞ト各七羽宛ヲ社前ニ鬪ハセタル處

全

辨 慶 松

田邊町大字
福路町

管理者
田邊町長

正徳四年鬪雞社内ヨリ舊藩主ノ移植セルモ樹ノニテ高サ約十間周圍一丈二尺ノ大木ナリ樹ノアル處ハ辨慶誕生ノ地ナリトテ此ノ名アリ

全

辨 慶 井

田邊小學校
地内

全 前

辨慶誕生ノ際産湯ヲ汲ミシ井戸ナリト直徑三尺五寸深サ一丈五尺水深五尺

記念物 楠木 内關鶏神社境 關鶏神社

周圍二丈四尺、幹ノ高サ五間樹齡幾百年トモ推定ツカズ

名勝 神島 新庄村字北 新庄村

古樹數萬翁鬱タル中ニ珍稀ナル鱈珠樹間ヲ縫ヒテ繁茂シ海邊ニ奇石鈔カラズ四時風光絶佳

天然記念物 鱈珠 全 全

珍奇ナル葦科蔓植物ニシテ晩秋長サ三寸許ノ莢果ヲ結ビ蠶豆大ノ實ニ奇ナル種子ヲ吐ク此ノ種子ニテ造リタル念珠ハ崇佛者ノ尊重措カザル所ナリ

全 戎樟 全村字北原 全村 大瀧神社

周圍一丈五尺、樹高十二間、樹齡七百五十年

史蹟 劔ノ柄塚 富里村大字 富里村 川口林助

安氏ガ鮎川村ヘ劔ヲ奉持スル際郷民ニ襲ハレテ途中ニ之ヲ埋メシヲ近方ノ者崇敬ノ余ハ今ニ存シテ古色ヲ帶ブ

全 劔神社ノ森 富里村大字 下川上山林

護良親王京師ニ還ルニ方リ地方ニ記念ノタメカ公郷平ヘ劔ヲ遺サレ家臣ヲシテ之ヲ保持セシメシガ今ニ劔ヲ奉祀セシ跡ニ樹木鬱茂セリ

全 御屋敷 全 富里村

元弘ノ頃護良親王十津川ヨリ玉置莊司ナル者ニ追撃セラレ御難戰ノ際芋瀬馬之助知時ノ援ニヨリ下川上大塔山麓ニ御潛ミ遊ハサレタリソノ遺跡ヲ稱シテ御屋敷トイフ

全 觀音瀧 栗栖川村大字 栗栖川村大字 内井川 字内井川

雌雄ノ二瀧アリ而シテ雄瀧ヲナセル岩石ニハ處々ニ觀音ノ像現ハレタリトテ觀音瀧ノ名此ヨリ起ル土民ハ靈所トシテ厚ク信仰シ參詣人常ニ絶ヘズ

全 小野辻古戰場 栗栖川村大字 栗栖川村大字 字水上

天正十三年湯川直春四番ノ莊横矢六郎ノ家ニ隱レシヲ杉若越後守追ヒ來リシ時小野澤ノ土民ハ之ヲ拒キテ追ヒ掃ヒシ地ナリト云フ

全 城ノ壇 全村大字澤 全村大字澤 字小寺

傳説ニ往古判官トイフ人籠城セシ地ナリトイヘド今ハ小柴繁茂シテソノ跡ヲ存セズ

全 五体王子社 全村大字栗 管理者 十郷神社

王子社地ハ十郷神社ニ屬シ乳岩ハ秀衡ノ傳説ニヨリ安産ヲ得ントテ參拜スル婦人多シ

全 庄司屋敷趾 全村大字真 真砂

清姫ノ父眞砂ノ莊司清次ノ屋敷趾ハ今全ク破トナリタレバ確ニソノ所在ヲ指摘スル能ハズ

全 芝ノ御殿趾 全村大字栗 栗栖川村 真砂 玉惠

後白河法皇御駐紮アリシ由言ヒ傳フルモ眞否疑ハシク聖護院殿御宿泊アリシハ確ナルベシ御殿ノ敷地ハ今眞砂家ノ庭園トナレリ

史蹟 女郎岩 三川村大字五 三川村 田ノ瀬仙治郎

全 野田城趾 全村大字岩 全村 小倉 虎吉

全 不動山 朝來村 朝來村

全 法華塔 同村大字朝 全

全 市守長者塔 全村大字朝 全村 榎原神社

全 人國山 上秋津村 上秋津村 大久保芳一

天然記念物 馬目ノ大木 上秋津川村 境内 上秋津村

太古岩上ニ女ガ糸ヲ紡キタリト言ヒ傳フ

應永年間野田治部太夫氏尙ノ居城ナリシガ 天正十三年次男民部太夫師安ニ至リ豊臣ノ 將仙石權兵衛ノタメニ陥落セラレ今ハ畑ト ナリテ形跡ヲ存セズ

天然ノ岩窟ニシテ不動尊ヲ安置ス下部ハ丈 余ノ斷崖ニシテ眺望佳ナリ

標高二百尺ヲ有スル西山ノ上ニアル石塔ニ シテ十句觀音百萬遍供養塔ノ十字ヲ刻セリ 文久三年ノ建立ニシテ村民ハ之ヲ法華塔ト 稱ス

高サ一尺五寸巾九寸厚七寸角二重臺石付キ 舊藩當時ハ楓樹多ク美觀ヲ呈シタリト云ヘ ド今ハ畑地トナリテ舊形ナシ又萬葉集ニア ル人國山ハ下万呂ニ在リトイヘド恐ラクハ 下万呂ノ地ヨリ此處ノ楓樹ヲ遠望シタル誤 ナラン

大木數本アリソノ中最大ナルモノ下部周リ 一丈四尺高サ五六丈枝ハ四方十三間ニ擴ガ ル

全 御綱柏 潮岬岩山林

史蹟 靜ガ窟 潮岬村 潮岬村

全 靜ガ森 全神社ノ西 潮御崎神社

全 身會貴濱 全神社南下 官地

名勝 渚ノ浦 全神社ノ北 官地

史蹟 旭ノ森 潮岬村 大字 潮岬村

全 番所ノ芝 全

國史所載ノ三角葉、延喜式ニアル三綱葉日 本紀ニアル御綱葉ハ三名同一物ナリトイフ 白河天皇ノ御製ニ「あらうれし難波の宮の こと問はん潮の御崎の御綱柏に」

洞穴ニテ東西ヘ二町余突出ス古事記ニ曰ク 少名彥命此ノ窟ニ神鎮座云々

兩岸ハ幾十丈ノ斷崖絶壁怒濤澎湃タリ舊式 捕鯨番人ヲ置キシ處風景絶佳

由緒アルガ如キモ不詳正月四日御弓ノ式ニ 當番ノ人々滿潮ノ時刻ニ潮浴シテ心身ヲ清 ムルコト今モ尙行ハル

波靜ナル小灣ニシテ又貝類ノ化石ヲ産ス

應神天皇熊野ニ行幸ノ際旭ノ森ニ登リ海中 ヨリ出ル旭ヲ御覽アラセラレ御製ヲ詠マセ 給フ處昔ハ此ノ森ニ注連ヲ引キ神主ノ外登 ラズトイヘド今ハ然ラズシテ全ク荒廢セリ

維新前黒船ノ來ルヲ見張リ番セシ處長キ石 垣ヲ繞ラシ其ノ東南ニ突出セル狼火ノ鼻ヨ リ狼火ヲアゲテ江田ノ大庄屋ニ報セシナリ 依ツテ番所ノ芝ノ名アリ今モ石垣ノ跡ヲ存 ス

天然記念物

吳ノ湯

全

ナシ

史蹟

休所權現趾

潮岬村大字
出雲

潮岬村

全

古墳
五輪様

全

井城清兵衛
全村

天然記念物

老松

全

潮岬村

史蹟

内梅城趾

中芳養村

全村
矢代小太郎
外八名

全

曾和ノ砦趾

全

全村
曾輪
安吉

三十四年前マデハ温クシテ湯口ニハ湯ノ華
アリ入湯スレバ傷腫物ナド快癒セシガソノ
後地變ノタメ今ハソノ効ナシ

熊野權現ノ暫ク休息セシ所ナルヲ以テ此ニ
祠ヲ建テ、祀リシモノナリト言ヒ傳フ熊野
權現舊記ニ富ノ島ニテ三年ヲ過サセ給フト
アリ富ノ島トハ字權現ノ謂ニテ今モ尙權現
腰掛岩ト稱スル岩アリ

古墳ハ數百年前ヨリノ墓地ニシテ鍬ヲ入ル
、時ハ崇アリトイヒ傳ヘテ試掘スル者ナキ
故確タル事ハ知ル由ナキモ花崗石ノ石棺ヲ
發見シタルコトアリトイフ

墓地ニ一小祠堂アリ其ノ中ニ花崗石ニテ彫
刻セル五輪ノ塔アルヲ以テ五輪様ノ名此ヨ
リ起ル

樹枝ヨク繁茂シテ笠狀ヲナシ高サ約五十尺
幹ノ大サ約二間半

我國中世紀ニ於ケル紀南ノ有力者湯川氏最
初ノ城趾ナリ今ハ桑麥其他ノ栽培地トナリ
居レルモ平坦ニシテ宛然館趾ノ感ヲ抱カシ
ム

何等ノ記録ヲ存セザルモ想フニ湯川氏ノ築
キシモノナランカ今ハ畑地トナレリ

全

土井城趾

全

全村
芝峰五郎吉
外三名

全

横手山砦趾

全

全村
吉岡圓次郎
外一名

全

堂庭ノ古戦場

上芳養村大
川西山字天

上南部村
東捨松

全

城ノ段

全村大字西

上芳養村
古野太郎吉

全

日向ノ砦趾

上芳養村

全村
稻ヶ瀬彌祐

全

虫ノ堂

全村大字西
山字西郷花

全村
山字西郷

湯川氏ノ臣平井掃部ノ居城トイフ記録明カ
ナラザルモ或ハ然ラン芳養往來ノ西山手ニ
アリ地ハ上下二段ニ別ル

小城、大城トイヒシガ紀伊續風土記ニ東西
二十間南北十三間許トアリ今ハ全体薪林
トナレリ

慶長三年日高郡山路郷ノ一揆蜂起ス田邊ノ
城主杉若主殿頭不在ナリシカバ家臣馳向ヒ
テ大ニ此ノ地ニ戦ヒ一揆ヲ出シ人小川某ヲ
始メ百余人ヲ討チ取リタリトソノ地今ハ雜
木林トナレリ

湯川氏ノ居城ニシテ豊臣氏ノ臣仙石權兵衛
ニ攻メラレ日向明神モ燒討ニ逢ヒタリ城ノ
段ハ一名御神殿山トイフ今ハ木炭山トナレ
リ

紀伊續風土記ニ「日向明神ノ東ニアリ東西
二十七間南北三十六間、湯川宮内少輔光春
ノ砦趾ナリト」今ハ畑トナレリ

後伏見天皇正安二年大早魃アリ作物枯死ニ
瀕ス里人集リテ大祈禱ヲ行ヒシニ會々七月
二十三日大雨沛然トシテ到リ翌朝小字田間
トイフ處ニ何處ヨリ來リシカ地蔵尊一休ト
鉦ノ降レルアリ里人依テ今ノ處ニ堂ヲ建テ
之ヲ本尊トシテ安置シ鉦ハ今モ猶存セリ

史蹟

善徳寺岩

全村大字東
山字田本

全村
内 某

實盛ノ碑

全村大字西
山字西郷花
折

今川氏ノ落人善徳寺某トイフ者兄左内ノ討死セシ後當地ニ逃レテ居住セシヲ湯川宮内少輔ノ臣澤三郎太冬木四郎トイフ者主命ニヨリ之ヲ討チ取リタリ依ツテソノ死セシ處ニアル岩ヲ稱シテ善徳寺岩トイフ岩ノ大サ横四十八尺縦十八尺

ねざさの
さくら

全村

上芳養村大
字長谷

文久年間此地ノ茶店ニ常七ト呼ブモノアリ或時一僧來リテ茶店ニ休ミソノ店前ニ一本ノ杖ヲ土中ニ立テタル儘立チ去レリ常七ハ僧ノ再ビ杖ヲ尋ネ來ラシテ杖ヲ思ヒ其ノ儘ニナシ置キシニ僧ハ來ラズシテ杖ヲ新芽ヲ出シ櫻樹トナレリトイフ毎年四月満開ノ際ハ一里余ノ稻成村ヨリ望見スルヲ得ベシ

女郎ノ瀧

全村大字天
川

上南部町
東 捨松

昔ヨリ此ノ瀧ニハ三味線女ガ住ムト云ヒ傳ヘ又或人瀧ノ附近ヲ通リカ、リソノ女水中ノみごろヲ取リテ身ニ塗ルヲ見惚レ居リテ一日ノ暮ル、モ知ラザリシト云ヒ傳フ本村第一ノ大瀑ナリ

みの岩

全村大字川
谷

南部町
三前 氏

岩ノ高サ十間巾七間ニシテ全形竝ニ吊リタルガ如キ故みの岩ト名古來天狗ノ遊ビ場所ナリト稱シテ里人此岩ニ近クヲ恐レタリ

かさ松

全村大字天
川

上芳養村
天川 尙造

根元ヨリ二丈余ノ高サマデハ枝ナクソノ上ヨリ枝ヲ八方ニ延シテ恰モ傘ヲヒロゲタル如キ形ヲナス此レ名ノ起ル所以ニシテ古來此ノ松ヲ天狗ノ遊ビ場トイヘリ

うまべ休ミ
場ノ松

全村

全村
久保 兵助

長年月ヲ經タル大樹ニシテ大ナル臼ヲ造リ得トイフ

大門ノ松

全村

全村大字大
門

一ノ枝マデ高サ九尺アリ四方ニ枝ヲ延バシ樹齡約五百年

宇佐八幡ノ
椋木

全村

上南部町
栗山善兵衛

當宇佐八幡ハ慶長十二年ノ勸請ニシテ境内ニ二抱許ノ榊アリ云々ト續紀伊風土記ニアリ、サレド榊ハ明治二十二年ニ枯レテ今ハ大ナル椋木二本殘レリ

藤敷ノ椋ノ
木

全村

古庵
直孝

昔椋ノ木ノ附近ニ一ノ庵寺アリ其處ノ僧常ニ龍仙山ヘ修行ニ出カケタリシガ遂ニ此ノ附近ニテ入寂セリトイフ木ノ附近ニ小キ盛土アリ今モ里人ハ此ノ上ニ登ルヲ恐レテ此邊ノ草ヲ刈ラズトイフ

かさ松

全村

霞本
久吉

古來天狗ノ遊ビ場ト稱シ枝ヲ切ルコトヲ恐レ今マデ保存セリほうそノ岡ト呼ブ山ノ頂ニアリ

史蹟 法經塔

近野村大字
近露字津毛

近野村

樹木ヲ以テ蔽ハレタル一小境域内ニアル古
形ノ墳墓ナリ石壇ハレ蒸シテ文字ノ有無
ヲ辨セズ高サ約五尺傳説ニ花山法皇熊野御
巡幸ノ際法衣並ニ法經ヲ埋納シタル處ナリ
トイヘド今証スヘキモノナシ

天然紀念物 一方杉

全村大字野
中字上道中

近野神社

枝ノ一方ニ偏スル處ヨリ此ノ名アリ樹ノア
ル處ハ元王子神社境内ノ跡地ニシテ全社ハ
天正年間ノ遷座ナレバ蓋シ數百年ノ樹齡ナ
ルベシ

史蹟 觀音ノ岩窟

生馬村大字
救馬谷

生馬村

舊記ニヨレバ昔空也上人此ニ觀音ノ像ヲ安
置セシガ山賊常ニ潛ミ附近ヲ荒スヲ以テ天
曆七年生馬村ノ住人直經ナルモノコノ賊ヲ
平ケタリト今モ山上ノ岩窟ニ堂ヲ設ケテ觀
音ヲ安置ス又洞中ヨリ鐘乳石ヲ出スコトア
リ

天然紀念物 日吉神社ノ
櫨

全村大字山
王

官有

周圍一丈二尺七寸高十四間成長盛ナラズ

全 中途神社ノ
楠

全村大字生
馬

生馬村

周圍約一丈三尺四寸高サ七十尺枝葉繁茂シ
テ成長盛ナリ

全 上野山ノ松

全村黃金倉

全 村

周圍一丈四尺五寸高サ二十三間枝葉繁茂シ
テ成長盛ナリ

史蹟 蛇喰城跡

全村字十林

全 村

續風土記ニ「山本兵部ノ居城ナリ」トアリ舊
記ニ「永仁四年佐渡守平將盛蛇喰ノ城ヲ築
キ四代主膳守盛輝マデノ居城ナリ」云々
又口碑ニ「山本權之丞ノ居城ニシテ天正十
四年豊臣氏ノ軍勢ニ攻メラレ權之丞ハ自殺
セリ」ト城跡今ハ雜木林トナレリ

天然紀念物 たんがん櫻

全村字下瀧

全村字下瀧

生馬谷川ノ左岸ニアリ花ノ清麗ヲ以テ知ラ
レ又東西ニ翳セル枝ノ花ノ盛否ヲ見テソノ
年ノ兩地ノ豊凶ヲトスベシトイヒ傳フ現在
ノモノハ舊樹ノ株ヨリ出テシ若木ナリ

史蹟 古墳

全村字山王

栗栖和四郎

文政三年生馬村栗栖宇右衛門ナル者日吉神
社ノ南二十間許ナル氏神堂トイヒシ所ニ於
テ劔及甲冑土器ヲ發掘セシコト記録ニ存セ
リ尙此處ニ從來石棺ニ類スルモノ五箇所ア
リシトイフモ現在完全ナルハ一箇所ノミ

東牟婁郡

名勝 小口川原

小口村大字
上長井字宮
ノ川原

管理者
小口村長

西行カ「雲取や志古の山路はさておきて小
口川原のさみしからぬか」トアリテ淋シキ
ヲ以テ名アリ、サレド今ハ人家建並ヒテ小
口村樞要ノ地ト化セリ

史蹟 圓座石 全村大字西 中村 梯二

大石四個、石ノ側ニ目通約七尺ノ樫ノ大木アリ石ノ正面ニハ七五三繩ヲ張リテ神々シクサラ感セシム石ノ所々ニ圓形飯糰形ノ斑點自然ニ現ハレ其ノ形ニヨリテ御茶具御沓形等ノ名アリ土人傳ヘテ熊野三山ノ大神ノ御茶屋所ナリト云フ

名勝 大瀧 小口村 全村 三郎 谷瀨 外一名

藤綱要害ノ森ノ下ニアリ上下二段トナリ上高サ三十八間下高サ三十四間アリ水源ハ遠ク大雲取山中ニ發シ水多ク相重リテ懸瀉ハ遠注進沫霧ヲナシ其勢最モ雄大ニシテ深淵ニ落チ地軸ヲ動カス

全 蓮華巖 全村大字上 三津ノ村 浦木清十郎

外面一見蓮華ニ似タル奇巖ニシテ其ノ中央ニ洞窟アリ廣サ十數疊ヲ敷クニ足ル口碑ニヨレハ其ノ昔平家ノ落人カ難ヲ避ケテ暫ク仮住セシ所ナリト云フ

全 東ノ奇巖 小口村東 兵連定四郎 外一名

鳥帽子岩、葱倉、法師倉、長刀食ノ名アリ皆形ニヨリテ名付ラレタルモノナラン

全 鐘岩 高田村大字 高田村

現狀直徑四尺地上四尺位ノ所ヨリ幹ハ四俣ニ分レ枝太ク葉疎ナリ該樹ハ古來老樹トシテ傳ヘラレ今尙形容變ル所ナク聳然トシテ山頂ヲ拔キ當村ノ一偉觀タリ

全 圓通山妙應寺ノ櫻 高池町大字 高池町 妙應寺

周圍約九尺五寸高サ約五丈地上ヨリ九尺ノ處ニ一ノ枝アリ樹齡約二百年此ノ櫻ハ染井吉野ト稱スル種ニシテ山櫻又ハ彼岸櫻ヨリ花大ニシテ且赤味多シ

史蹟 渡船寄附ノ石碑 高池町大字 ナ シ

昔時大野川ノ河口ハ中湊地方ナリシモノ當時此ノ川口邊ハ大船ヲ渡スヘク隨テ兩岸ノ交通ハ渡船ニ依リシモノニシテ舊家中畑家ヨリ其ノ渡船ヲ寄附シタルタメ紀念トシテ此ノ石碑ヲ建テタルナリ

天然記念物 才ノ谷溫泉 全町大字月 高池町 儀藏 外一名

弘法大師發見シテ村民ニ教ヘタリト傳フ漆淵ノ下ニアル大岩ノ罅隙ヨリ湧出スル單純硫黃泉ニシテ聊カ鐵分ヲ含メリ溫度二十四度ノ低溫ナレバ風呂ニ焚テ浴ス

名勝 漆淵 古座川 官有地

明月巖脚下ノ深淵ナリ月野瀨ノ激湍ヨリ流下シテ巖根ニ觸レ蘊蓄シテ渦紋ヲ爲シ其ノ深サ測ルヘカラズ又此ノ淵ニ大鱈ヲ産ス

全 明月巖 高池町大字 高池町 佐々木源六

高池ハ古座川中ノ激湍ヨリ取リテ村名トナス古來舊曆八月十五夜ノ月出テソノ入ルマテ此ノ瀨ノ中央ヲ徐々ニ上リ行クト傳ヘ來リテ大字月野瀨ノ名アリ此ノ岸ノ畔ヲ明月巖ト云フ三坪許リノ平地アリ觀月ニ適ス巖元名無カリシガ齋藤拙堂明月巖ト名付ケタリ